

令和3年度  
全国学力・学習状況調査  
福岡県学力調査  
調査結果報告書

国語

算数・数学

重点テーマ

変化の芽を伸ばす ● 3

子どもを信じて ● 2

向上の勢いをつける ● 31

浸透・徹底 ● 30

山を動かす ● 27～



令和3年12月  
福岡県教育委員会

## ■ 報告書作成・活用についての基本的な考え方

この報告書は本県の教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることを目的として作成しています。また、全国学力・学習状況調査及び福岡県学力調査により測定できるのは、学力の特定の一部であることや学校における教育活動の一側面であることを踏まえています。

### ※ Web ページへの掲載

本報告書は、次のWeb ページで閲覧することができます。

#### ① 福岡県庁ホームページ

URL : <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/2132105/>

(トップページ→組織から探す→福岡県教育委員会→義務教育課→新着情報)



#### ② 福岡県教育庁教育振興部義務教育課各種資料のページ

URL : <http://gimu.fku.ed.jp/Default1.aspx>



令和3年度

全国学力・学習状況調査  
福岡県学力調査  
調査結果報告書

# 令和3年度 全国学力・学習状況調査 福岡県学力調査 調査結果報告書

## 目 次

### 令和3年度 全国学力・学習状況調査

#### ★ 調査結果ダイジェスト

<b>I 調査の概要</b> . . . . .	<b>1</b>
1 調査の目的	
2 調査対象の学年	
3 調査の方式	
4 調査日	
5 調査の内容	
6 5月27日に調査を実施した県内公立学校・児童生徒数	
7 調査問題の内容	
<b>II 調査結果の概要</b> . . . . .	<b>3</b>
1 調査結果の概況	
2 教科に関する調査の結果（福岡県全体の状況）	
3 標準化得点と四分位層の推移	
(1) 本県の標準化得点の推移	
(2) 地区別の標準化得点の推移	
(3) 本県の四分位層の結果	
(4) 同一集団の四分位層（C層・D層）の県平均との差と標準化得点の推移	
4 児童生徒の無解答の状況（地区別）	
(1) 教科区分ごとの「無解答なし」の児童生徒の状況	
(2) 記述式問題における「無解答率」と「平均正答率」の状況	
5 県全体の平均正答率度数分布（市町村単位）	
<b>III 各教科の調査結果</b> . . . . .	<b>16</b>
1 小学校国語	
2 小学校算数	
3 中学校国語	
4 中学校数学	
<b>IV 日々の授業改善及び学校運営等によって効果を上げている事例</b> . . . . .	<b>24</b>
< ICTを効果的に活用した（一人一台端末の活用を含む）授業実践 >	
事例1（A町立A小学校（北九州地区））	
事例2（B市立B中学校（福岡地区））	
< 個の学びの状況に応じた習熟度別少人数授業等を取り入れた授業実践 >	
事例3（C市立C小学校（北筑後地区））	
事例4（D市立D中学校（筑豊地区））	
< 学力層（C・D層）に焦点を当てた取組 >	
事例5（E市立E小学校（南筑後地区））	
事例6（F町立F中学校（京築地区））	
<b>V 児童生徒質問紙に関する調査結果と分析</b> . . . . .	<b>37</b>
ア 「肯定的な回答」をしている方が、教科の「平均正答率が高い」傾向が見られる主な質問項目	
イ 非認知的能力に係る主な質問項目	
ウ ICTの活用状況についての主な質問項目	
<b>VI 学校質問紙に関する調査結果と分析</b> . . . . .	<b>38</b>
ア 「肯定的な回答」をしている方が、教科の「平均正答率が高い」傾向が見られる主な質問項目	
イ 非認知的能力に係る主な質問項目	
ウ ICTの活用状況についての主な質問項目	

**Ⅶ 児童生徒質問紙と学校質問紙の調査結果の比較分析** . . . . . **39**

- 課題解決に向けた取組
- 話し合う活動を通じた自分の考えの深まりや広がり
- 学級会（学級活動）での合意形成
- 将来に関する意識
- 挑戦心
- I C Tの活用状況

**Ⅷ 小学校と中学校の質問紙回答状況を比較分析** . . . . . **41**

- (1) 学校質問紙
  - P D C Aサイクルの確立
  - 指導計画の作成
  - 近隣等の小/中学校との成果や課題の共有
  - 近隣等の小/中学校との合同研修
- (2) 児童生徒質問紙（同一集団での推移で比較）
  - 自己有用感
  - 夢や目標
  - 課題解決に向けた取組
  - 話し合う活動を通じた自分の考えの深まりや広がり

**令和3年度 福岡県学力調査**

**Ⅸ 調査結果** . . . . . **43**

- 1 調査の概要
- 2 調査結果の概要
  - (1) 県全体及び地区別の平均正答率、最大・最小の差
  - (2) 全体の状況
  - (3) 小学校の状況
  - (4) 中学校の状況
  - (5) 地区別の標準化得点
  - (6) 各地区の同一集団（本年度中学校第2学年）の標準化得点の推移
- 3 各学年の調査結果
  - (1) 小学校第5学年国語
  - (2) 小学校第5学年算数
  - (3) 中学校第1学年国語
  - (4) 中学校第1学年数学
  - (5) 中学校第2学年国語
  - (6) 中学校第2学年数学

**資 料**

**X 資料** . . . . . **54**

- 1 各教科結果の市町村別の状況
- 2 児童生徒質問紙の回答状況
- 3 学校質問紙の回答状況

**まとめと今後の取組**

**XI まとめと今後の取組** . . . . . **75**

- 1 まとめ
- 2 今後の取組

# 令和3年度 全国学力・学習状況調査結果【ダイジェスト版】

## 教科に関する調査結果概要

報告書 P.3～

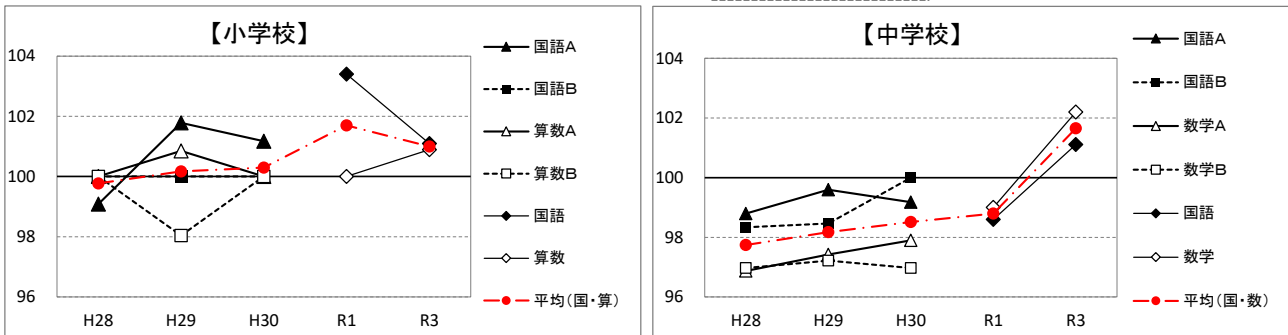
### ◆福岡県と全国の平均正答数・平均正答率※<sup>1</sup>（公立）

	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
福岡県	9.2/14 問 66%	11.3/16 問 70%	9.1/14 問 65%	9.3/16 問 58%
全国	9.1/14 問 65%	11.2/16 問 70%	9.0/14 問 65%	9.1/16 問 57%

※1 平均正答率は、小数第1位を四捨五入した整数値で表示（都道府県は整数値のみが公表されるため）。そのため、福岡県と全国で平均正答数が異なる場合でも、四捨五入によって平均正答率が同じになる場合がある。

### ◆福岡県の標準化得点の推移※<sup>2</sup>と結果の状況

報告書 P.4～



※2 前回（R1）から知識と活用を一体的に問う調査問題となったため、平成30年度までの推移は参考として示している。

＜小学校＞国語・算数ともに全国を上回り、平均(国・算)は4回連続で全国を上回る。

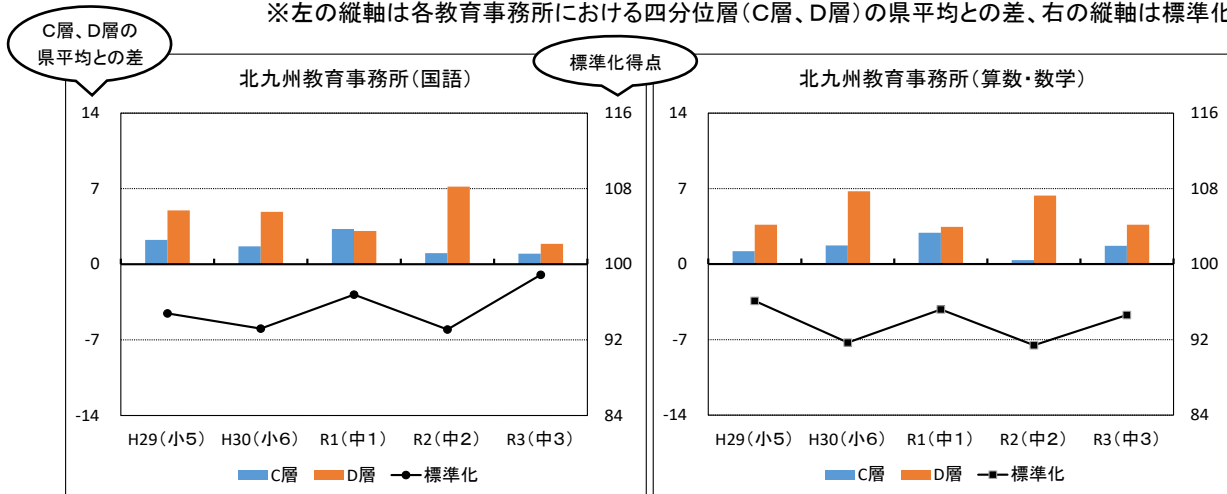
＜中学校＞国語・数学ともに全国を上回り、平均(国・数)は5回連続で改善傾向。

### ◆同一集団の学力層（C・D層）と標準化得点の推移

報告書 P.9～

H29の県学力調査の結果から R3の全国学力・学習状況調査の結果までの同一児童生徒集団の標準化得点に加え、学力層（特に、C層、D層）の推移に着目することで、学力層に焦点を当てた取組の効果を検証し、今後の授業改善等の方向性を検討することができるようにするため、本年度から新たに掲載した。

※左の縦軸は各教育事務所における四分位層(C層、D層)の県平均との差、右の縦軸は標準化得点



**原則、C・D層が減少すれば標準化得点は上がり、C・D層が増加すれば標準化得点は下がる。**

## ◆教科に関する調査結果【小学校】

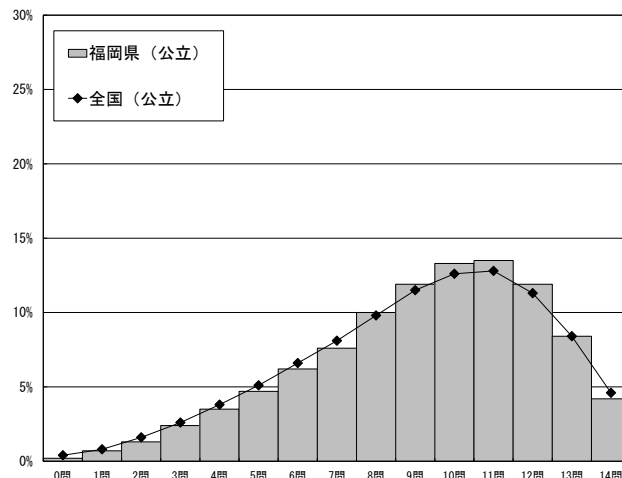
### 小学校 国語

報告書 P.16～

#### <分類・区分別集計結果>

分類	区分	対象 問題数	平均正答率(%)		
			福岡県	全国	
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使 い方に関する事項	6	68.7	68.3
		(2) 情報の扱い方に 関する事項	0		
		(3) 我が国の言語文 化に関する事項	0		
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞く こと	3	79.2	77.8
		B 書くこと	2	64.1	60.7
		C 読むこと	3	47.0	47.2
評価の観点	知識・技能	6	68.7	68.3	
	思考・判断・表現	8	63.4	62.1	
	主体的に学習に取り 組む態度	0			
問題形式	選択式	8	72.5	71.7	
	短答式	3	71.4	70.6	
	記述式	3	41.7	40.2	

#### <児童の正答数分布グラフ> (横軸: 正答数、縦軸: 割合)



	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	9.2 / 14	66	10.0	3.0
全国(公立)	9.1 / 14	65	9.0	3.1

◇「目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える」ことはできている。〔1ー〕 (79.7%)

◆「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する」ことに課題がある。〔2四〕 (29.6%)

◇は成果が見られた内容、◆は課題が見られた内容。〔 〕内は問題番号、( )内の値は平均正答率。

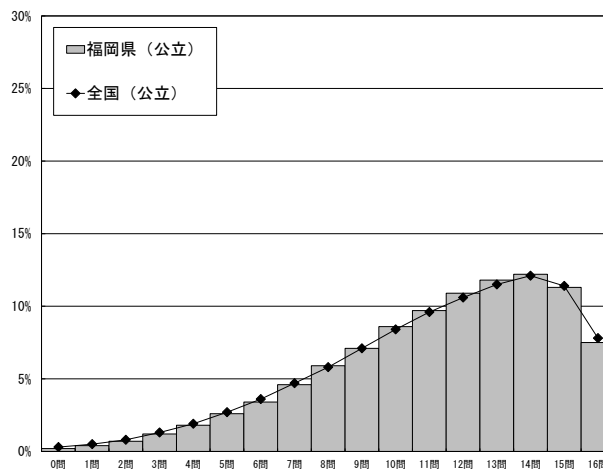
### 小学校 算数

報告書 P.18～

#### <分類・区分別集計結果>

分類	区分	対象 問題数	平均正答率(%)	
			福岡県	全国
学習指導要領の領域	A 数と計算	4	64.4	63.1
	B 図形	3	57.4	57.9
	C 測定	3	75.2	74.8
	C 変化と関係	3	76.1	75.9
	D データの活用	5	75.9	76.0
評価の観点	知識・技能	9	74.4	74.1
	思考・判断・表現	7	65.5	65.1
	主体的に学習に取り 組む態度	0		
問題形式	選択式	6	75.9	76.0
	短答式	6	76.3	75.8
	記述式	4	53.6	53.0

#### <児童の正答数分布グラフ> (横軸: 正答数、縦軸: 割合)



	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	11.3 / 16	70	12.0	3.4
全国(公立)	11.2 / 16	70	12.0	3.5

◇「速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる」ことはできている。〔1(5)〕 (86.6%)

◆「複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる」ことに課題がある。〔2(3)〕 (44.1%)

## ◆教科に関する調査結果【中学校】

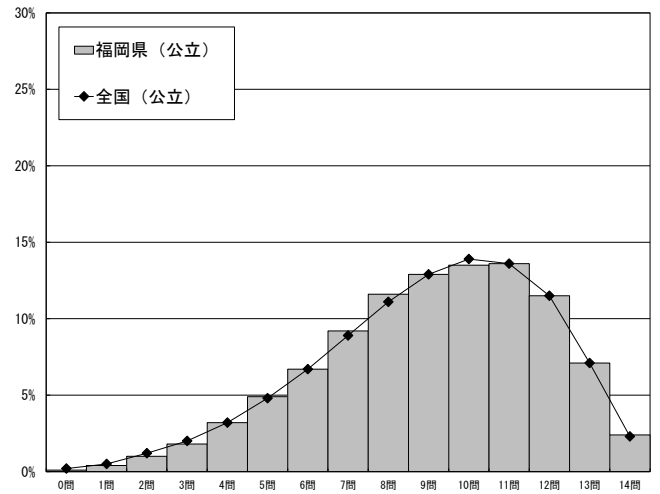
### 中学校 国語

報告書 P.20～

#### <分類・区別集計結果>

分類	区分	対象 問題数	平均正答率(%)	
			福岡県	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	81.5	79.8
	書くこと	3	57.5	57.1
	読むこと	4	48.7	48.5
	伝統的な言語文化と国語 の特質に関する事項	4	74.1	75.1
評価の観点	国語への関心・ 意欲・態度	4	57.9	56.0
	話す・聞く能力	3	81.5	79.8
	書く能力	3	57.5	57.1
	読む能力	4	48.7	48.5
	言語についての 知識・理解・技能	4	74.1	75.1
問題形式	選択式	6	63.5	63.9
	短答式	4	73.8	74.4
	記述式	4	57.9	56.0

#### <生徒の正答数分布グラフ> (横軸: 正答数、縦軸: 割合)



	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	9.1 / 14	65	9.0	2.8
全国(公立)	9.0 / 14	65	9.0	2.8

◇「質問の意図を捉える」ことはできている。〔1〕二 (93.3%)

◆「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」ことに課題がある。〔3〕四 (23.7%)

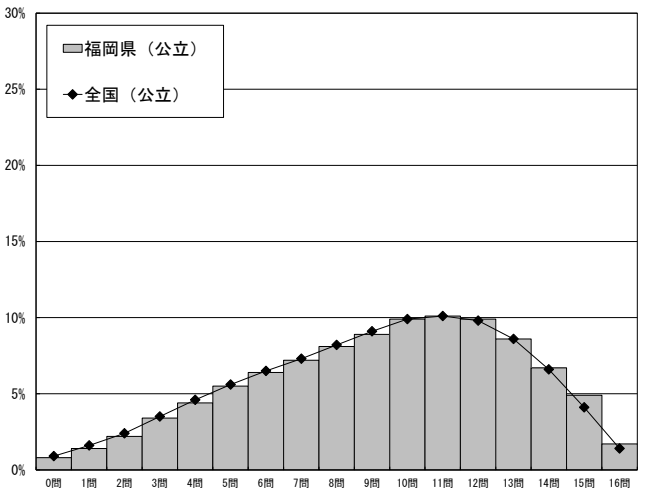
### 中学校 数学

報告書 P.22～

#### <分類・区別集計結果>

分類	区分	対象 問題数	平均正答率(%)	
			福岡県	全国
学習指導要領の領域	数と式	5	66.1	64.9
	図形	4	51.1	51.4
	関数	3	57.3	56.4
	資料の活用	4	55.6	53.8
評価の観点	数学への関心・ 意欲・態度	0		
	数学的な見方や 考え方	7	42.3	41.1
	数学的な技能	3	78.3	77.7
	数量や図形などに ついての知識・理解	6	66.5	65.6
問題形式	選択式	2	53.4	52.4
	短答式	9	71.2	70.5
	記述式	5	36.4	35.0

#### <生徒の正答数分布グラフ> (横軸: 正答数、縦軸: 割合)



	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
福岡県(公立)	9.3 / 16	58	10.0	3.7
全国(公立)	9.1 / 16	57	10.0	3.7

◇「整式の加法と減法の計算ができる」ことはできている。〔1〕 (78.7%)

◆「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」ことに課題がある。〔8〕(3) (13.9%)



## 質問紙に関する調査結果

### 児童生徒質問紙

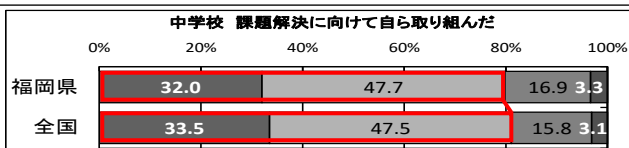
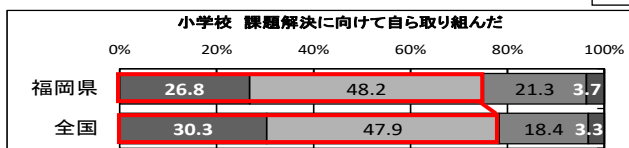
報告書 P.37、62～

「課題解決に向けた授業改善に対する児童生徒の捉え」の肯定的な回答は、全国の結果を下回っており、課題が見られる。「ICTの使用頻度に対する児童生徒の捉え」の「ほぼ毎日」、「週1回以上」の回答は、全国の結果を上回っており、各校におけるICTを活用した授業改善が進んでいることがうかがえる。

#### ◆課題の解決に向けた取組

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

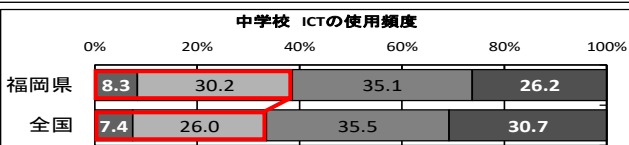
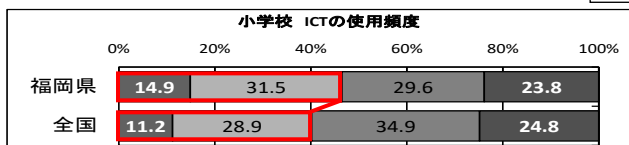
■当てはまる ■どちらかといえば ■あまり ■当てはまらない



#### ◆ICTの活用状況

授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか。

■ほぼ毎日 ■週1回以上 ■月1回以上 ■月1回未満



### 学校質問紙

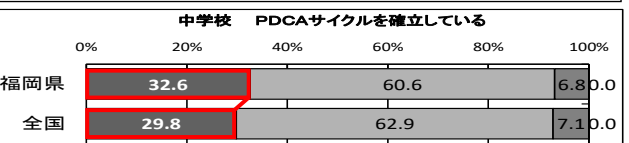
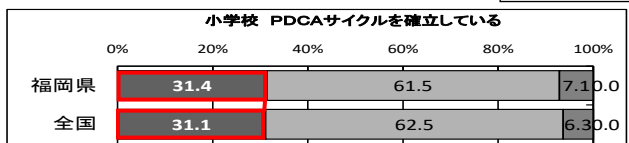
報告書 P.38、70～

「PDCAサイクルの確立」について、「よくしている」の回答は、全国の結果を上回っており、学力向上に向けた検証改善が進んでいることがうかがえる。「教育データの活用」についての肯定的な回答は、小学校では全国の結果を上回り、中学校では全国と等しくなっているが、今後、一層の活用推進が求められる。

#### ◆学力向上に関する検証改善サイクルの確立

児童(生徒)の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。

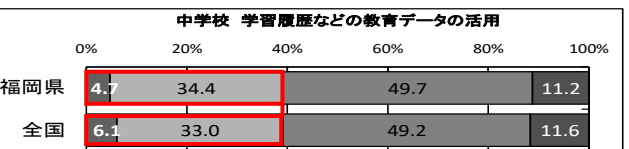
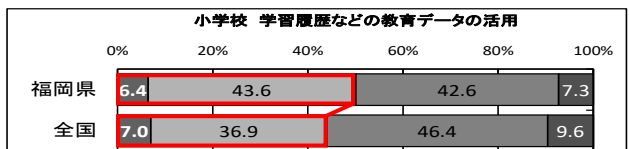
■よくしている ■どちらかといえば ■あまり ■全くしていない



#### ◆学習履歴(スタディ・ログ)教育データの活用

教員は、学習履歴(スタディ・ログ)をはじめとした様々な教育データを、児童生徒の状況に応じた指導に活用していますか。

■よく活用している ■どちらかといえば ■あまり ■全く活用していない



## 質問紙に関する調査の比較分析

### 児童生徒と教員(学校)の回答状況の比較

報告書 P.39～

「挑戦心」に関する回答結果では、教員の取組意識と児童生徒の受け止め方に差があることから、教員の指導を児童生徒にさらに浸透させる手立てが必要と考えられる。その他の回答「合意形成」「課題解決」に係る取組等でも、教員の取組と児童生徒の受け止め方に差がみられた。

#### ◆挑戦心

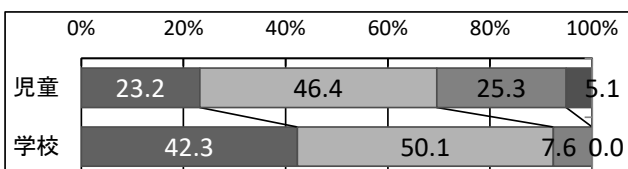
児童生徒: 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。

学校: 学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか。

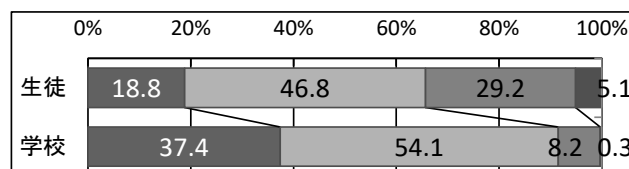
児童生徒質問紙  当てはまる  どちらかといえば  あまり  全く

学校質問紙  よく行った  どちらかといえば  あまり  全く

#### ■ 小学校



#### ■ 中学校



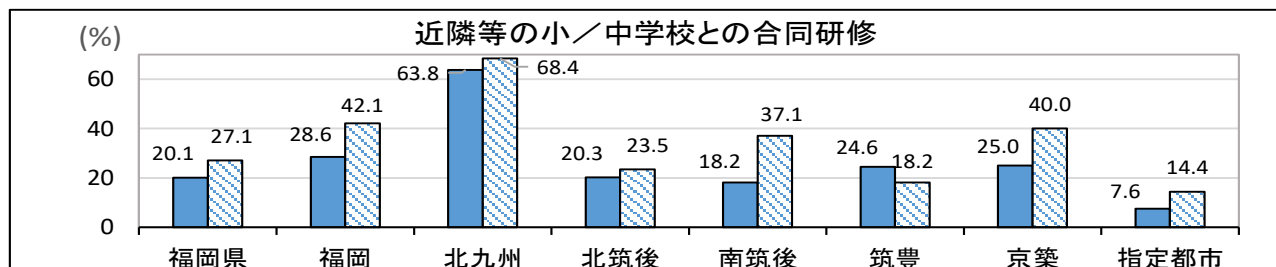
### 小学校と中学校の回答状況の比較

報告書 P.41～

「小・中学校の合同研修」の回答結果では、地区間のばらつきは見られるものの、コロナ禍の状況の中でも小・中学校が連携しながら学力向上の取組を推進していることがうかがえる。

#### ◆小学校と中学校との合同研修

小学校  中学校



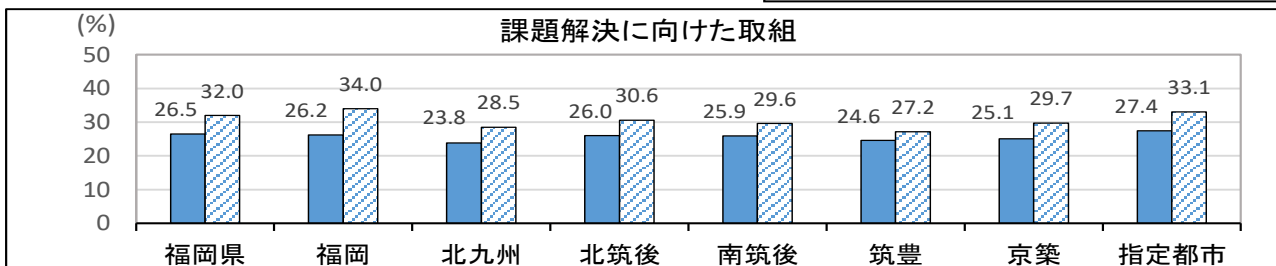
### 同一集団(H30小6とR3中3)の比較

報告書 P.42～

「課題解決に向けた取組」の回答結果では、全ての地区において、小学校で育まれた素地が中学校において確実に伸長していることがうかがえる。

#### ◆課題解決に向けた取組

小学校(H30)  中学校(R3)



◆これまでの取組の「○成果」と「●課題」

- 全国学力・学習状況調査結果において、小・中学校の全教科区分で平成 19 年度の調査開始以降はじめて全国平均を上回る。
- 学力向上に関する検証改善サイクルが確立されてきている。
- 地区間差、学校間差を改善していく必要がある。

◆今後の改善の視点

- ・ 四分位層分析等の学力分析に基づいた「授業改善」
- ・ 教員のマネジメント力と授業指導力等の向上を目指した「人材育成」
- ・ 管理職のリーダーシップを発揮した「学校マネジメント」

【県教育委員会としての今後の取組】



# 令和3年度全国学力・学習状況調査

## I 調査の概要

### 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 調査対象の学年

- ・小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年
- ・中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、中等教育学校前期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

### 3 調査の方式

文部科学省による悉皆方式の調査として実施

### 4 調査日

令和3年5月27日（木）

### 5 調査の内容

#### (1) 教科に関する調査

小学校は、国語及び算数、中学校は、国語及び数学とし、下記の①と②を一体的に問う出題内容

①	②
身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

#### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

#### (3) 調査時間

小学校

1時限目：国語（45分）、2時限目：算数（45分）、2時限目終了以降：質問紙（20分程度）

中学校

1時限目：国語（50分）、2時限目：数学（50分）、2時限目終了以降：質問紙（20分程度）

※ 各学校・学級数の状況に応じて時間割は変動

## 6 5月27日に調査を実施した県内公立学校・児童生徒数

小学校	学校数(校)	児童数(人)	
		国語	算数
福岡県(公立)	723	43,473	43,483
全国(公立)	18,857	993,975	994,101

中学校	学校数(校)	生徒数(人)	
		国語	数学
福岡県(公立)	340	39,098	39,096
全国(公立)	9,320	903,157	903,253

※ 学校数は、国・私学を除く。※ 福岡県(公立)には、両指定都市を含む。

## 7 調査問題の内容

### ■ 各教科の設問数

小学校		中学校	
国語	算数	国語	数学
14	16	14	16

### ■ 評価の観点別の設問数

#### 小学校

国語の評価の観点	
知識・技能	6
思考・判断・表現	8
主体的に学習に取り組む態度	0

算数の評価の観点	
知識・技能	9
思考・判断・表現	7
主体的に学習に取り組む態度	0

#### 中学校

国語の評価の観点	
国語への関心・意欲・態度	4
話す・聞く能力	3
書く能力	3
読む能力	4
言語についての知識・理解・技能	4

数学の評価の観点	
数学への関心・意欲・態度	0
数学的な見方や考え方	7
数学的な技能	3
数量や図形などについての知識・理解	6

### ■ 問題形式別の設問数

問題形式	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
選択式	8	6	6	2
短答式	3	6	4	9
記述式	3	4	4	5

## Ⅱ 調査結果の概要

### 1 調査結果の概況

		小学校(公立)			中学校(公立)		
		平均正答数/出題数	平均正答率	標準化得点	平均正答数/出題数	平均正答率	標準化得点
国語	福岡県	9.2	66	101.1	9.1	65	101.1
	全国	9.1	65	(100.0)	9.0	65	(100.0)
算数	福岡県	11.3	70	100.9	9.3	58	102.2
数学	全国	11.2	70	(100.0)	9.1	57	(100.0)

平均正答数 : 児童生徒の正答数の平均のこと。

平均正答率 : 平均正答数を設問数で割った値を百分率で表示した値のこと。

標準化得点 : 全国の平均正答数をそれぞれ100となるよう標準化した得点のこと。

### 2 教科に関する調査の結果(福岡県全体の状況)

- 小学校の標準化得点は、国語、算数ともに全国平均を上回った。
- 中学校の標準化得点は、国語、数学ともに全国平均を上回った。

### 3 標準化得点と四分位層の推移

※ 平成 31（令和元）年度から A・B問題が統合されたため、H19～H30 は参考として示す。

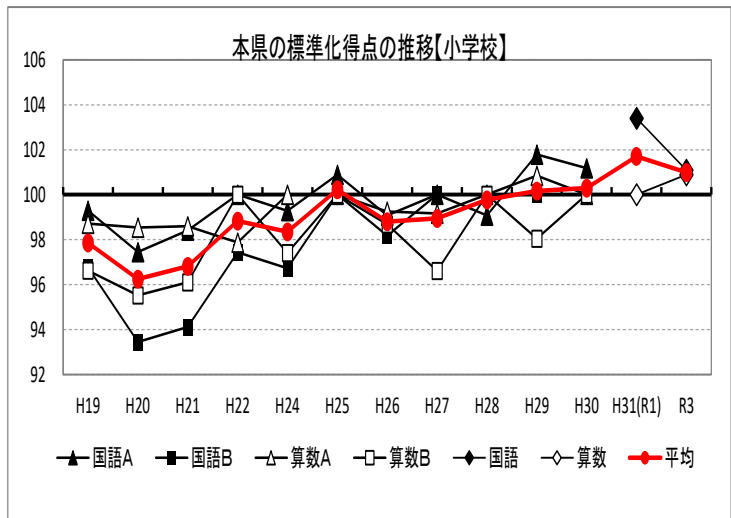
#### (1) 本県の標準化得点の推移

##### <小学校>

- 前回（平成 31（令和元）年度）との比較では、国語は下降し、算数は上昇した。
- 平成 19 年度（A・B問題を平均した値）との比較では、国語、算数ともに上昇した。
- 国語、算数の値を平均すると、4 回連続で全国平均を上回った。

#### ■ 本県の標準化得点の推移

	国語A	国語B	算数A	算数B	平均
H19	99.3	96.8	98.7	96.6	97.9
H20	97.5	93.4	98.5	95.5	96.2
H21	98.4	94.1	98.6	96.1	96.8
H22	100.0	97.4	97.9	100.0	98.8
H24	99.3	96.7	100.0	97.4	98.4
H25	100.9	100.0	100.0	100.0	100.2
H26	99.1	98.2	99.2	98.7	98.8
H27	100.0	100.0	99.2	96.6	99.0
H28	99.1	100.0	100.0	100.0	99.8
H29	101.8	100.0	100.8	98.0	100.2
H30	101.2	100.0	100.0	100.0	100.3
	国語		算数		平均
H31(R1)	103.4		100.0		101.7
R2					未実施
R3	101.1		100.9		101.0



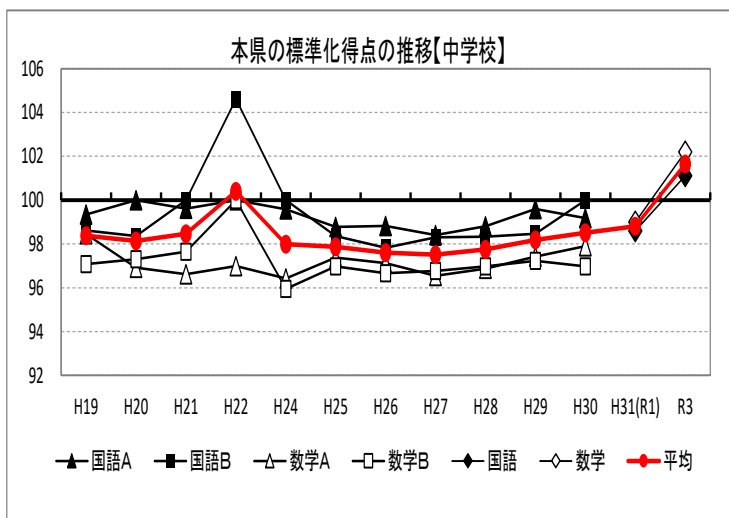
※ 「平均」は、国語と算数の標準化得点を平均した値である。

##### <中学校>

- 前回（平成 31（令和元）年度）との比較では、国語、数学ともに上昇した。
- 平成 19 年度（A・B問題を平均した値）との比較では、国語、数学ともに上昇した。
- 国語、数学の値を平均すると、調査開始以来、最も高い値である。

#### ■ 本県の標準化得点の推移

	国語A	国語B	数学A	数学B	平均
H19	99.3	98.6	98.5	97.1	98.4
H20	100.0	98.4	96.9	97.3	98.2
H21	99.6	100.0	96.6	97.6	98.5
H22	100.0	104.6	97.0	100.0	100.4
H24	99.6	100.0	96.4	95.9	98.0
H25	98.8	98.4	97.4	97.0	97.9
H26	98.8	97.8	97.1	96.7	97.6
H27	98.4	98.3	96.6	96.8	97.5
H28	98.8	98.3	96.9	97.0	97.8
H29	99.6	98.5	97.4	97.2	98.2
H30	99.2	100.0	97.9	97.0	98.5
	国語		数学		平均
H31(R1)	98.6		99.0		98.8
R2					未実施
R3	101.1		102.2		101.7

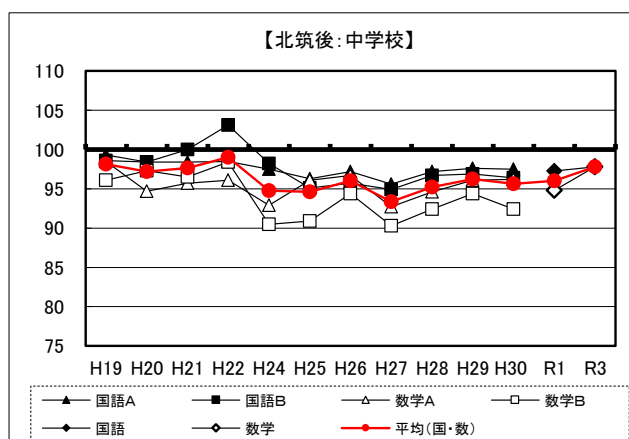
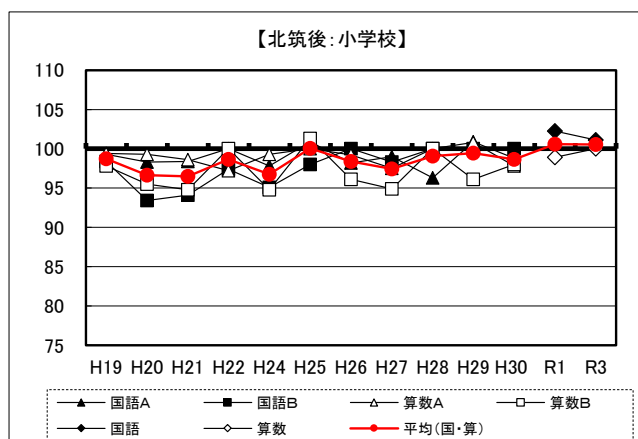
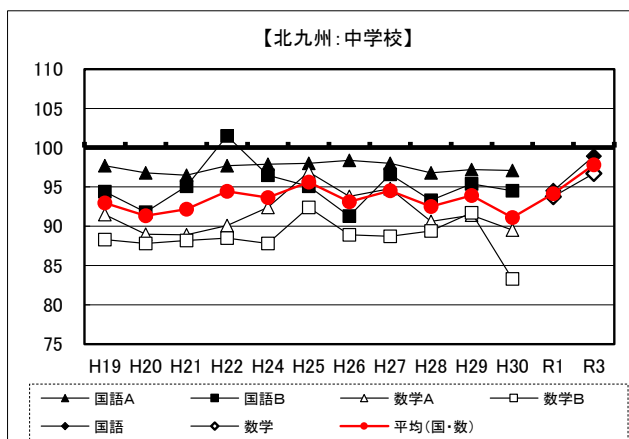
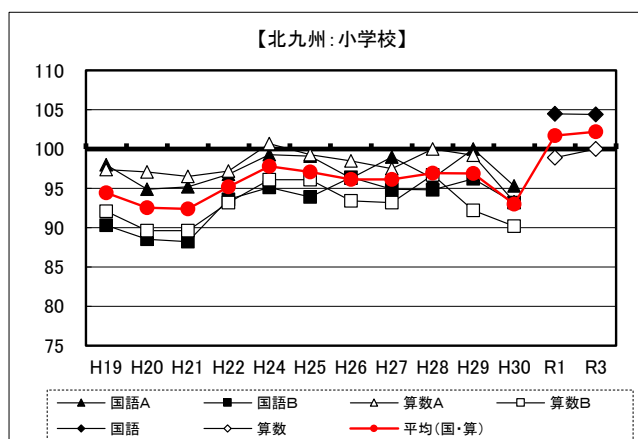
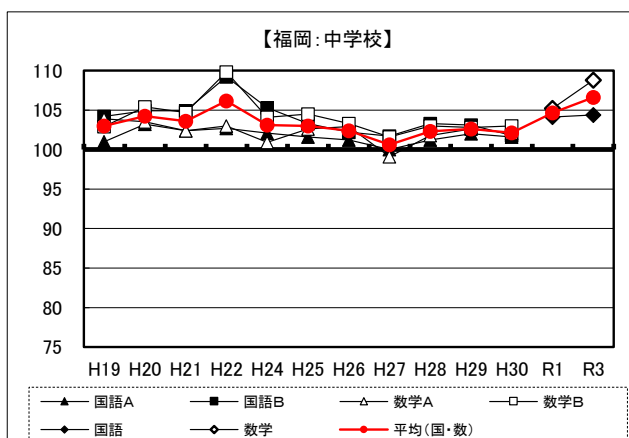
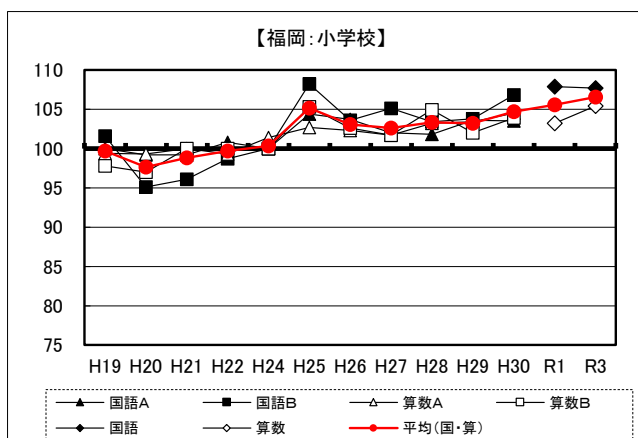


※ 「平均」は、国語と数学の標準化得点を平均した値である。

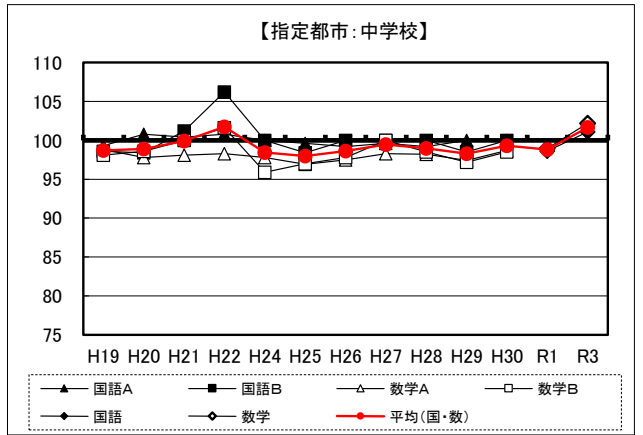
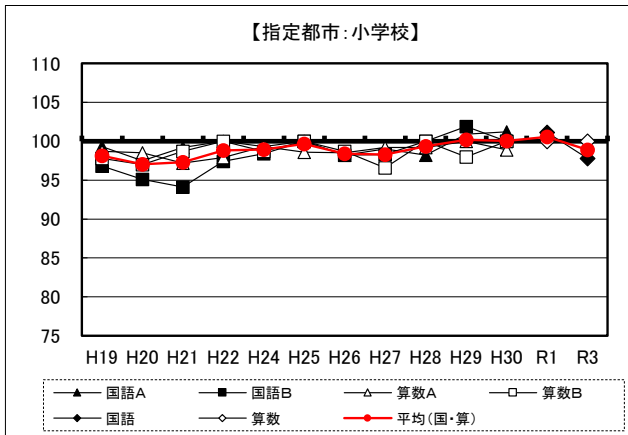
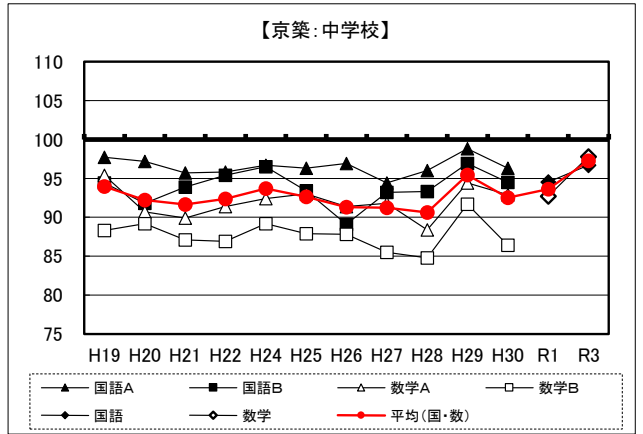
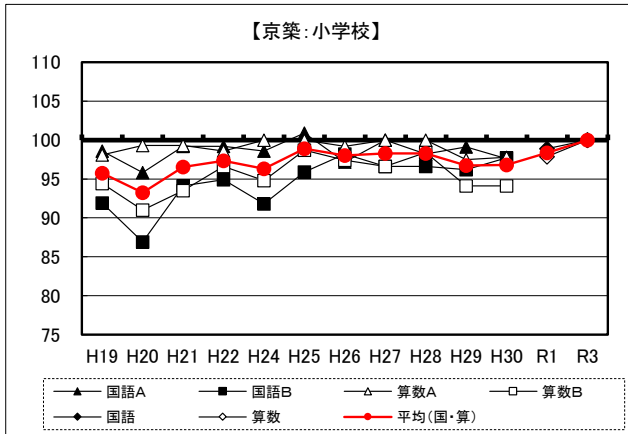
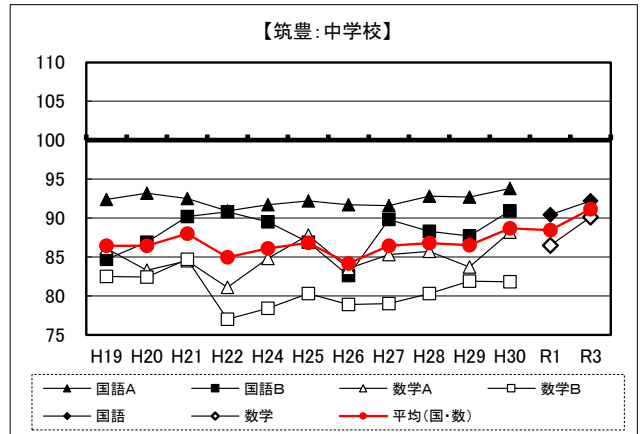
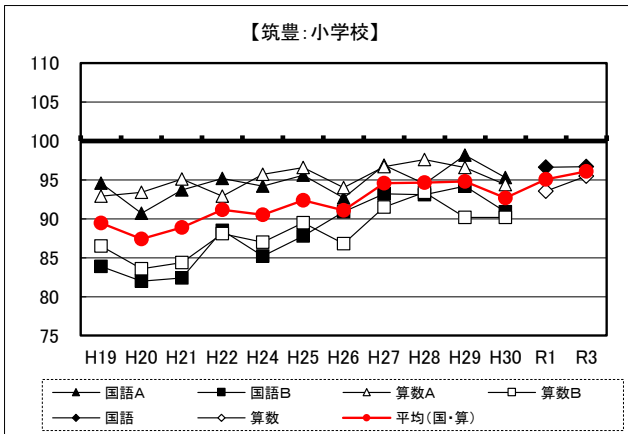
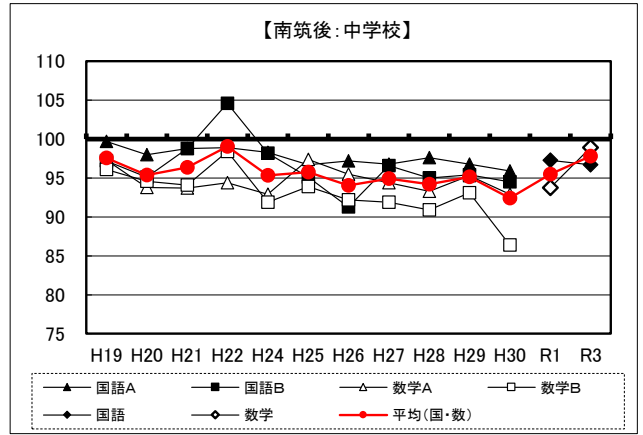
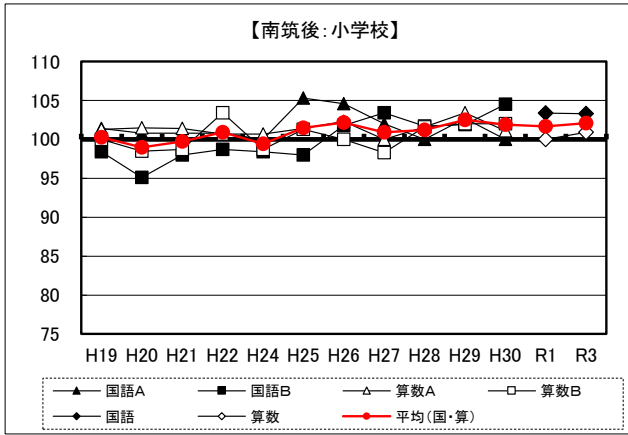
## (2) 地区別の標準化得点の推移

- 7つの地区間の標準化得点の最大・最小の差は、小学校では国語で11.0ポイント、算数で9.9ポイント、中学校では国語で12.2ポイント、数学で18.7ポイントであった。
- 平成19年度(A・B問題の差を平均した値)との比較では、7つの地区間の最大・最小の差は、小学校、中学校ともに全ての教科で縮小した。
- 最大・最小の差は、小学校に比べ中学校の方が大きかった。
- 最大・最小の差が最も大きかったのは、中学校数学であった。

### ■ 標準化得点の推移





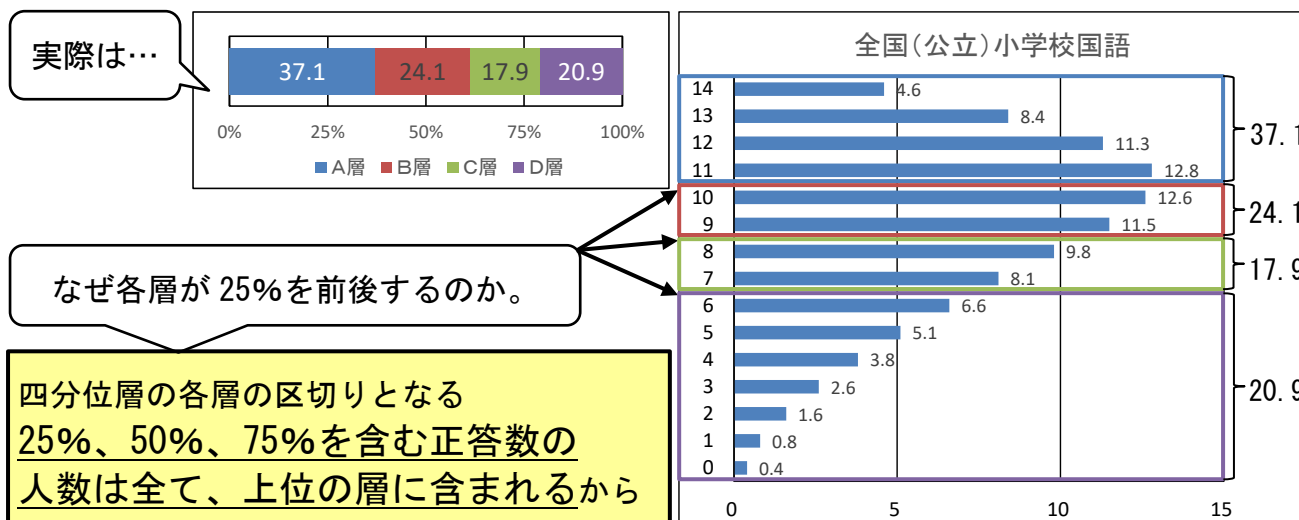


### (3) 本県の四分位層の結果

#### ア 四分位層とは

各正答数の児童生徒の割合の合計について、正答数が多い方から順に 25%、50%、75%を基準として区切り、それぞれA層、B層、C層、D層としたもの。

(例) 令和3年度全国学力・学習状況調査(小学校国語)【全国(公立)の結果】

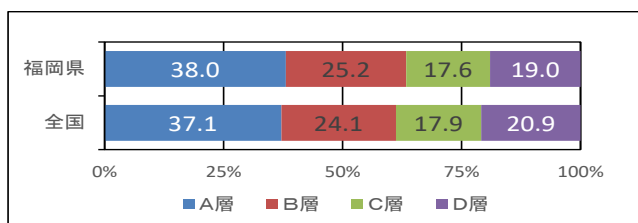


#### イ 今年度の本県の四分位層と全国の四分位層の結果

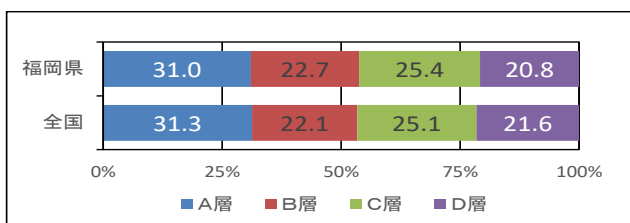
全国の四分位層の各層と同じ区切りで本県の四分位層を算出し、本県の四分位層と全国の四分位層を比較する。

- 小学校国語は、C層＋D層の割合が全国より2.2ポイント下回る。
- 小学校算数は、C層＋D層の割合が全国より0.5ポイント下回る。
- 中学校国語は、C層＋D層の割合が全国より0.3ポイント上回る。
- 中学校数学は、C層＋D層の割合が全国より1.4ポイント下回る。

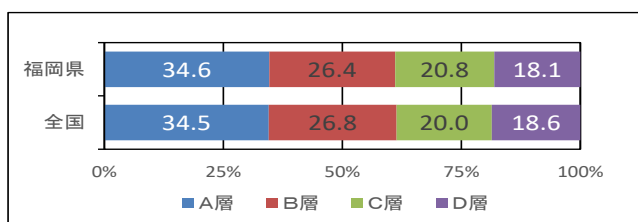
#### 【小学校国語】



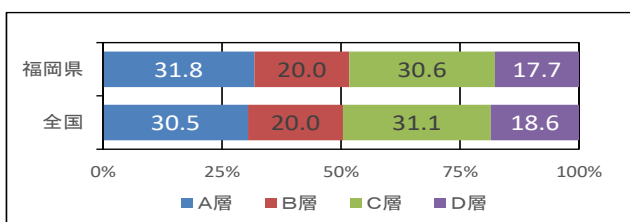
#### 【小学校算数】



#### 【中学校国語】



#### 【中学校数学】

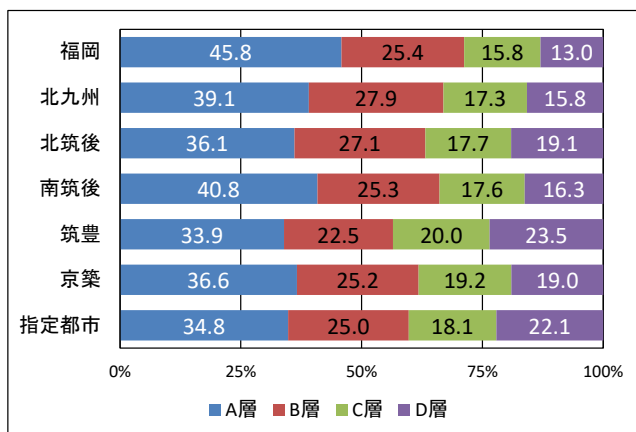


※各層の四捨五入の影響で、各層の合計が100%とならない場合がある。

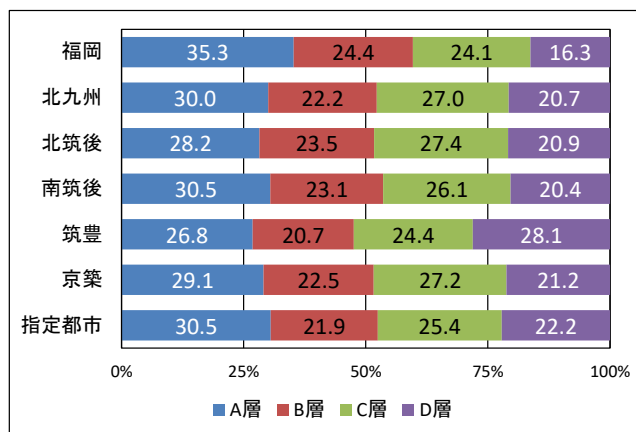
## ウ 今年度の各地区の四分位層の結果

全国の四分位層の各層と同じ区切りで各地区の四分位層を算出し、各地区の四分位層を比較する。

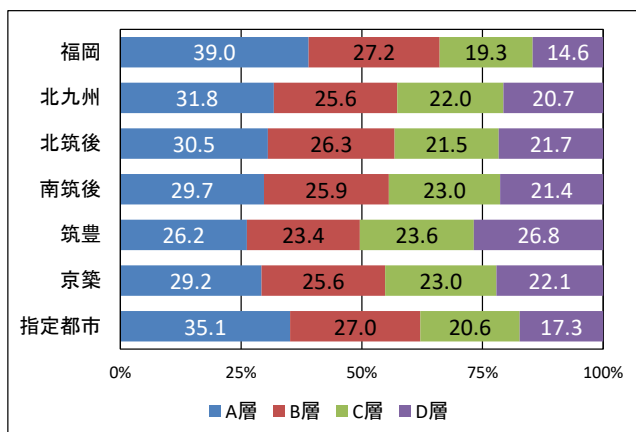
【小学校国語】



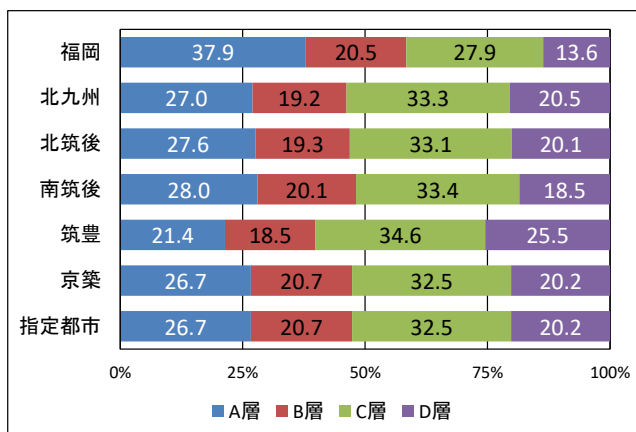
【小学校算数】



【中学校国語】



【中学校数学】



※各層の四捨五入の影響で、各層の合計が100%とならない場合がある。

(4) 同一集団の四分位層（C層・D層）の県平均との差と標準化得点の推移

下の図は、各教育事務所における四分位層（C層・D層）の県平均との差の推移を棒グラフで表し、標準化得点の推移を折れ線グラフで表したものである（左の縦軸は各教育事務所における四分位層（C層・D層）の県平均との差、右の縦軸は標準化得点）。

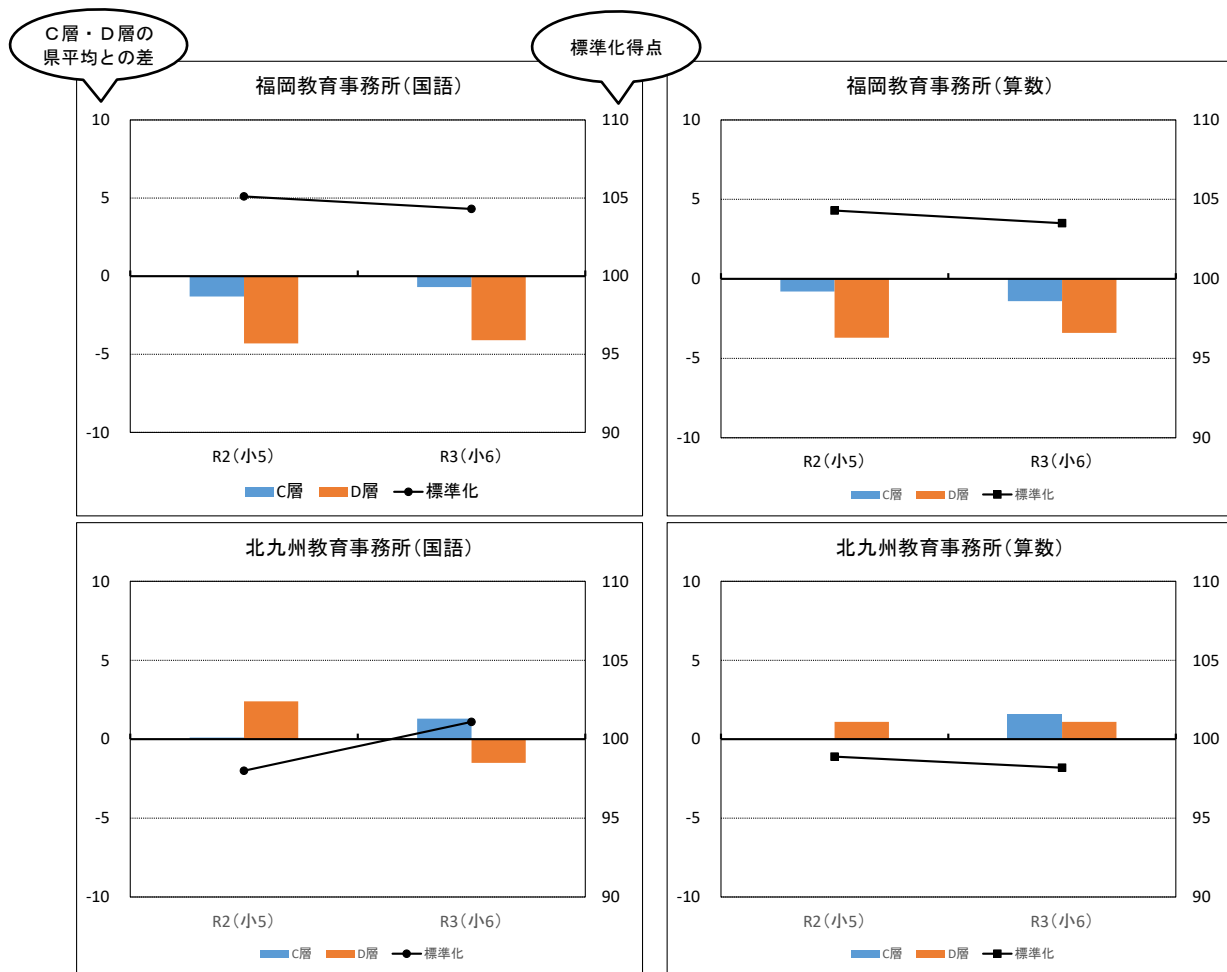
アは、令和2年度小学校5年生から今年度小学校6年生までの同一児童集団の推移であり、イは、平成29年度小学校5年生から今年度中学校3年生までの同一児童生徒集団の推移である。

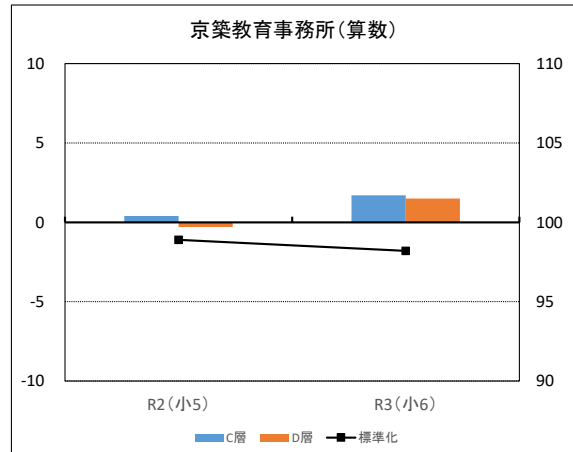
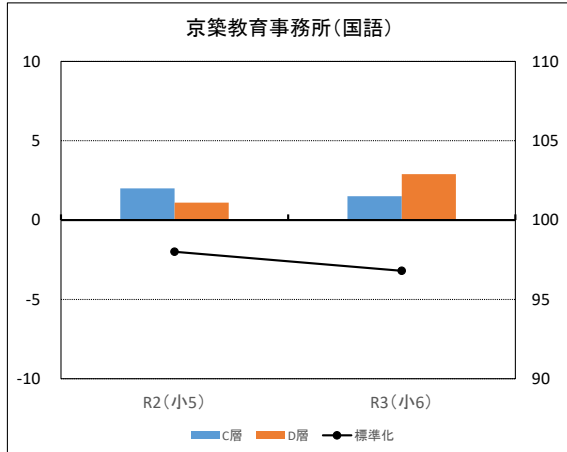
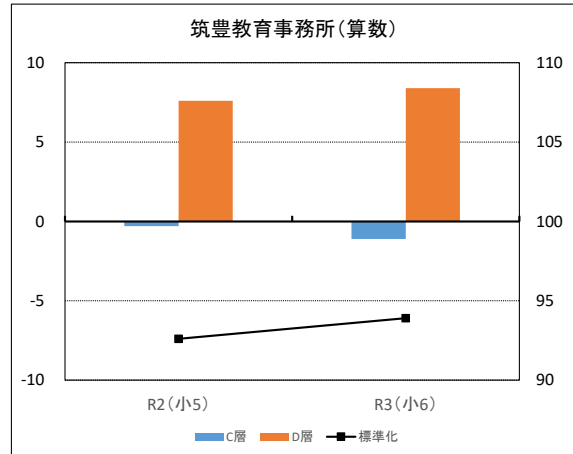
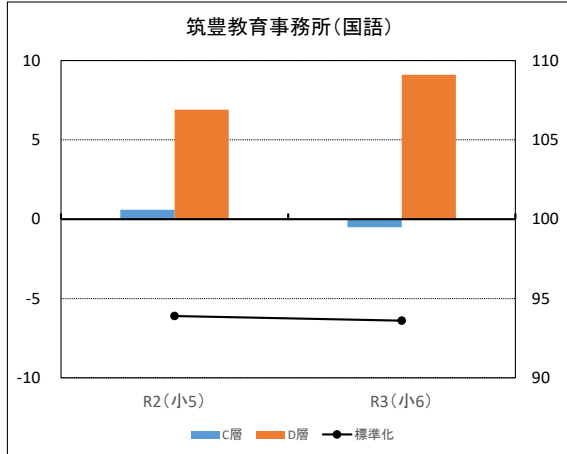
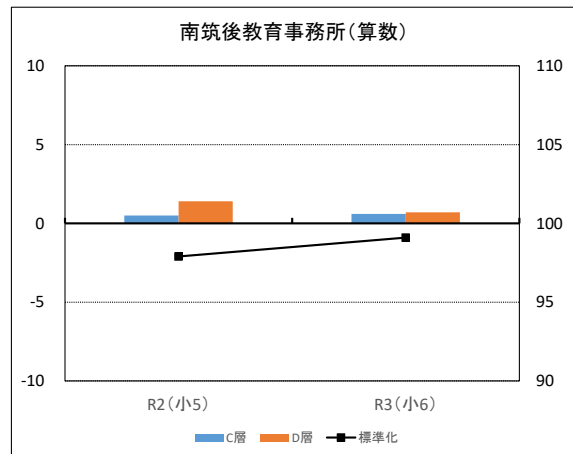
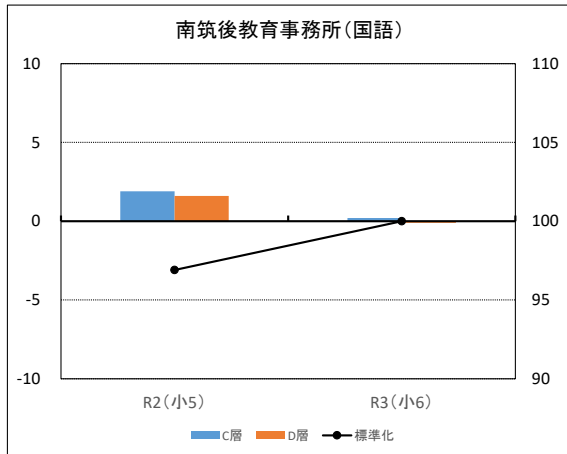
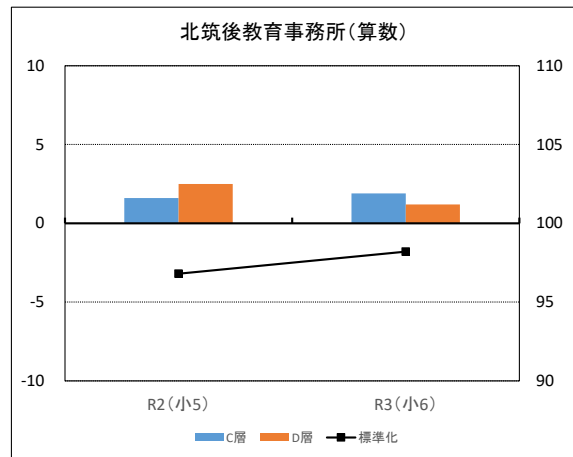
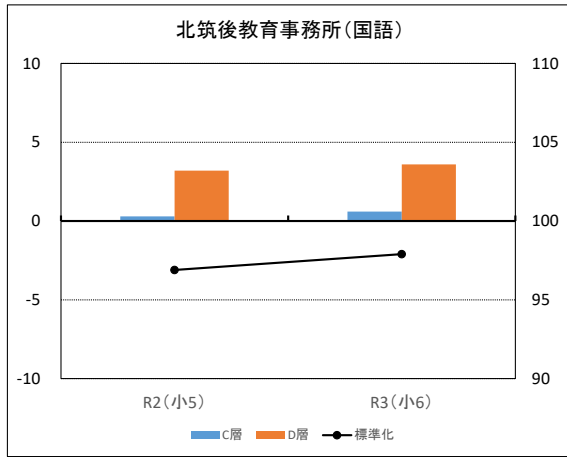
なお、同一児童生徒集団の結果を追跡するため、四分位層の県平均との差と標準化得点は、指定都市を除く福岡県全体を基に算出している。このことにより、前ページまでに示した全国学力・学習状況調査で標準化した値と異なる場合がある。

○ 原則、C層・D層が減少すれば標準化得点は上がり、C層・D層が増加すれば標準化得点は下がる。

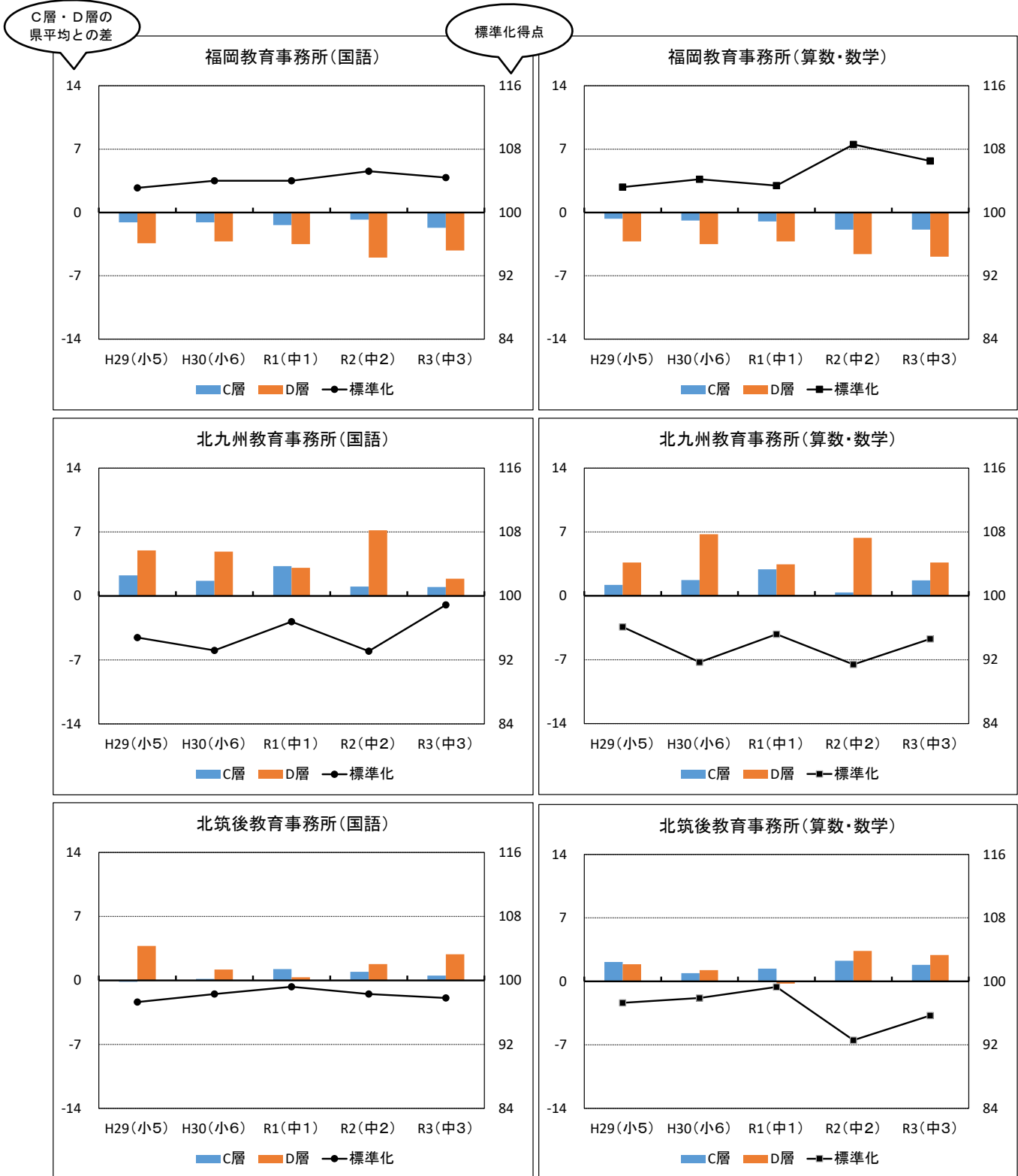
※ ただし、C層・D層が減少しても標準化得点の下がり、C層・D層が増加しても標準化得点の上がる場合もある。これは各層内の正答数分布に起因しており、更なる児童生徒の見取りが必要となる。

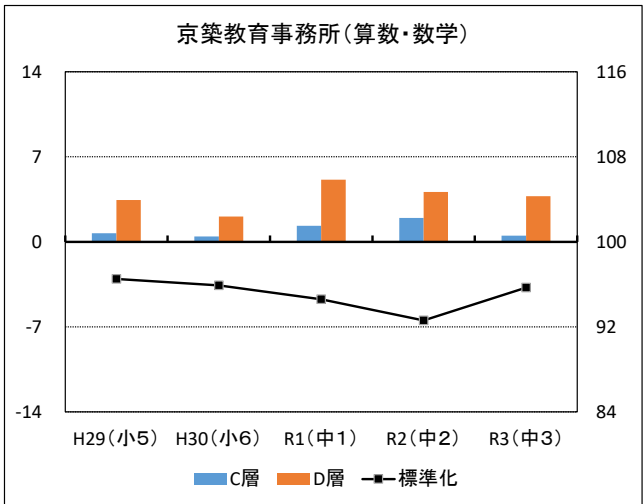
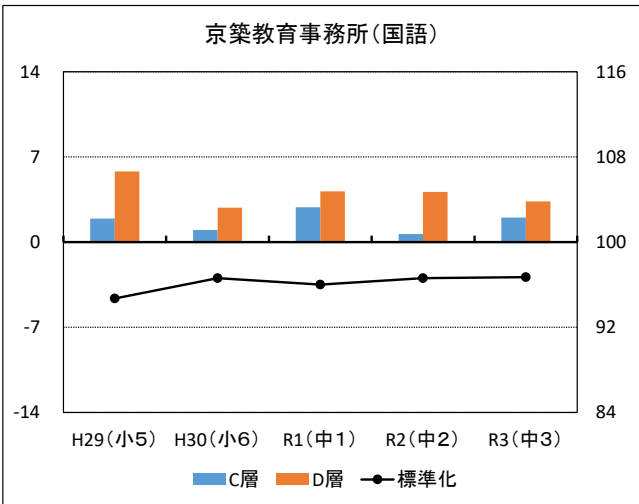
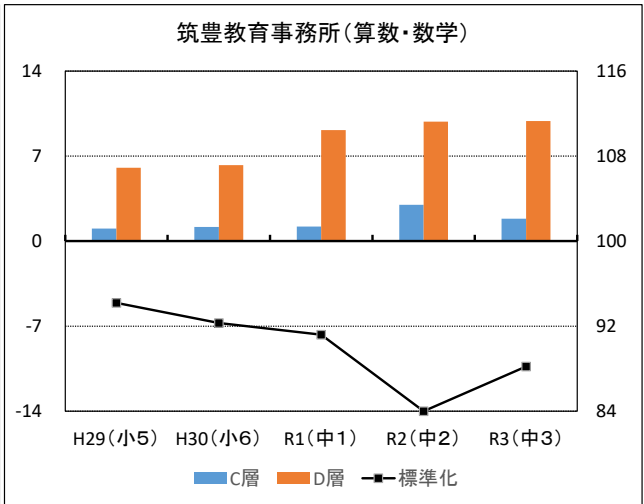
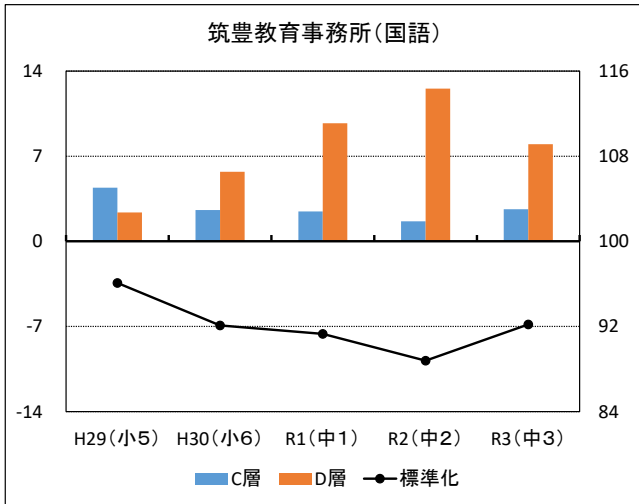
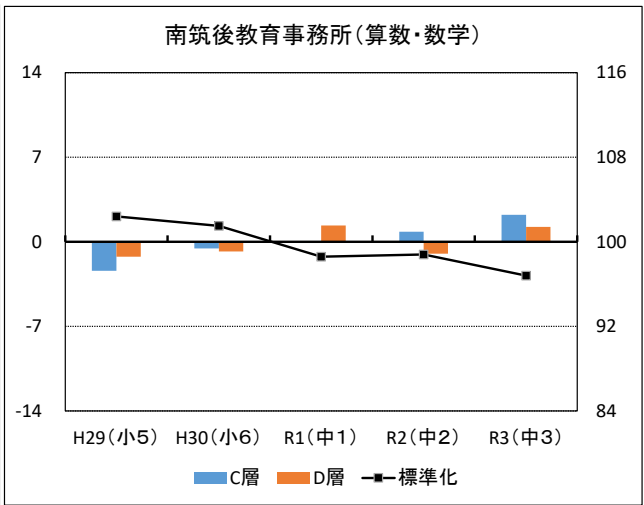
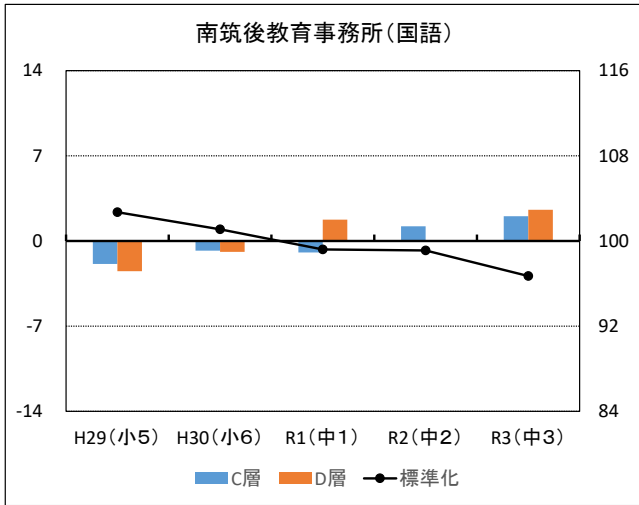
ア 令和2年度小学校5年生から今年度小学校6年生までの同一児童集団の推移





イ 平成 29 年度小学校 5 年生から今年度中学校 3 年生までの同一児童生徒集団の推移





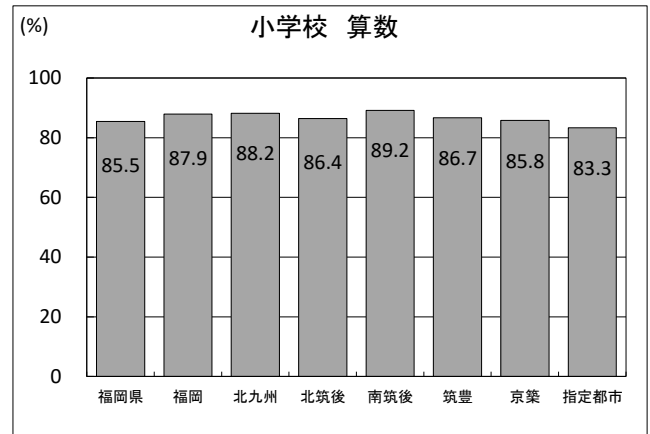
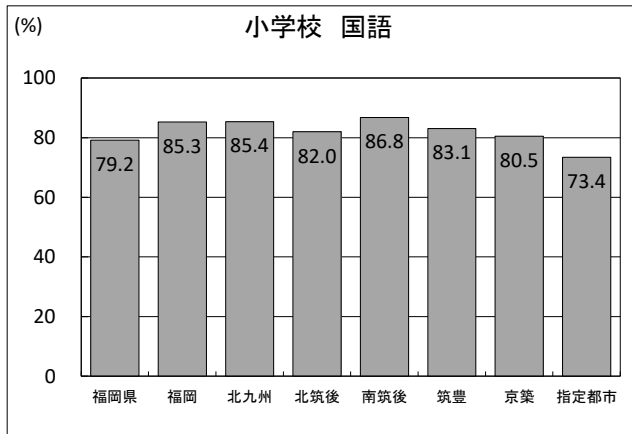
## 4 児童生徒の無解答の状況（地区別）

### (1) 教科区分ごとの「無解答なし」の児童生徒の状況

※ 棒グラフの値は、「無解答なし」（全ての問題に解答している）の児童生徒の割合である。

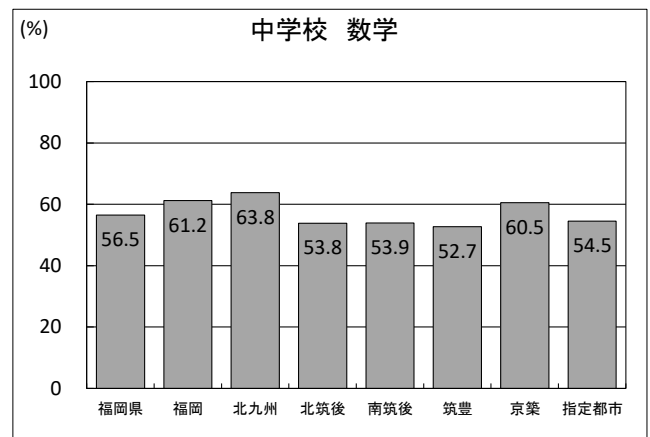
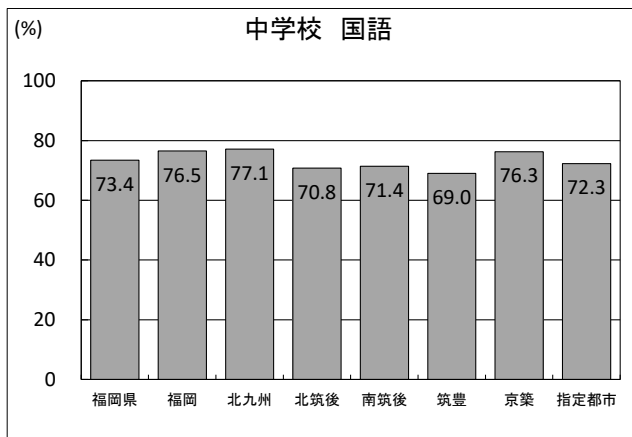
#### ■ 小学校

○ 算数の方が国語より「無解答なし」の児童の割合が大きい。



#### ■ 中学校

○ 国語の方が数学より「無解答なし」の生徒の割合が大きい。





## (2) 記述式問題における「無解答率」と「平均正答率」の状況

- 小学校、中学校ともに、全国と比べて、無解答率が高い地区が少ない。
- 小学校、中学校ともに、全国と比べて、平均正答率が低い地区が多い。

教科	問題番号	出題の趣旨	無解答率(%)									平均正答率(%)								
			福岡	北九州	北筑後	南筑後	筑豊	京築	指定都市	福岡県(公立)	(全国公立)	福岡	北九州	北筑後	南筑後	筑豊	京築	指定都市	福岡県(公立)	(全国公立)
小学校 国語	2三	目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける	2.2	2.1	3.4	2.2	3.2	3.3	4.3	3.4	4.1	38.2	34.8	33.8	34.8	28.2	32.2	32.8	34.1	34.4
	2四	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する	2.6	3.1	3.7	3.2	4.7	4.4	6.1	4.6	5.5	31.8	27.8	27.7	30.2	26.6	28.2	29.4	29.6	29.7
	3二	目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する	5.1	4.8	7.2	4.8	7.0	7.5	11.6	8.5	9.6	69.5	69.2	63.3	68.9	63.1	63.7	55.3	61.6	56.6
小学校 算数	1(1)	二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる	0.9	0.9	1.1	0.7	1.5	1.1	1.7	1.3	1.7	67.3	62.6	62.9	64.3	61.1	64.0	62.1	63.5	62.5
	2(3)	複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる	3.3	3.4	3.9	2.6	4.3	3.0	4.7	4.0	4.6	46.7	43.6	44.2	44.1	39.7	43.2	43.5	44.1	46.0
	3(4)	帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる	7.6	8.5	8.3	6.5	9.9	9.6	10.2	9.0	10.3	55.8	48.4	50.3	51.1	45.3	48.5	51.6	51.8	52.0
	4(3)	小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる	5.9	4.8	7.5	5.9	7.1	6.9	10.4	8.2	10.3	60.6	57.7	55.2	57.7	50.7	56.2	51.6	54.8	51.5
中学校 国語	1三	話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える	1.8	1.7	2.6	2.2	3.2	2.3	2.5	2.3	3.4	64.3	58.1	57.2	59.8	52.9	54.0	60.2	60.2	57.1
	2二	書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える	4.8	4.3	7.4	6.3	8.7	5.9	6.8	6.3	8.5	80.5	78.6	74.1	76.6	72.0	73.7	77.3	77.4	74.5
	3四	文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ	18.4	18.2	24.1	23.1	24.0	19.3	21.9	21.2	24.1	26.8	24.0	22.6	18.4	20.0	25.9	23.1	23.7	20.5
	4四	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く	7.8	8.2	10.4	9.2	12.1	8.2	9.2	9.0	9.7	74.1	69.7	65.8	68.8	60.8	67.2	70.7	70.3	71.9
中学校 数学	6(2)	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる	10.1	12.6	15.4	13.5	16.1	13.0	13.8	13.1	15.4	68.8	59.0	57.6	57.3	55.4	59.7	62.3	62.5	61.8
	6(3)	数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる	20.8	20.6	26.4	26.0	27.1	22.7	26.2	24.6	29.9	36.6	29.0	29.1	29.1	24.3	27.2	32.4	32.2	30.3
	7(2)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	18.7	19.1	23.9	22.9	26.7	20.0	23.4	22.1	24.7	34.6	27.9	27.5	25.5	25.2	27.1	28.5	29.5	27.7
	8(3)	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	23.3	22.6	28.6	26.9	31.0	24.5	29.0	27.1	32.2	16.6	14.4	10.9	14.5	10.2	15.9	13.4	13.9	11.1
	9(1)	平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になること理由を説明することができる	2.0	2.9	3.4	2.3	2.6	2.6	2.8	2.6	3.6	48.2	36.1	42.1	39.8	33.4	40.4	45.1	44.0	44.3

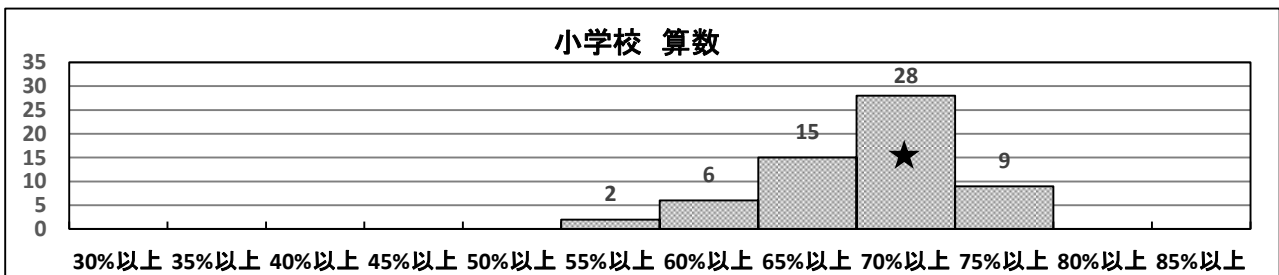
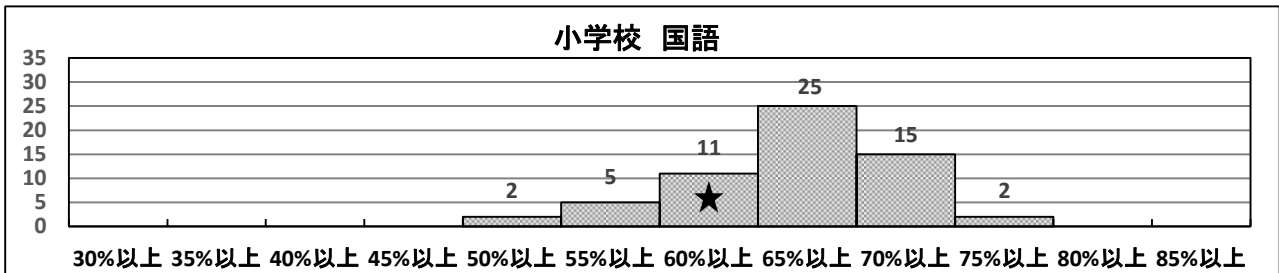
※ 無解答率の網掛けは「全国より高い値」、平均正答率の網掛けは「全国より低い値」である。

## 5 県全体の平均正答率度数分布（市町村単位）

※ グラフの左軸は市町村教育委員会の数を示している。なお、市町村ごとの結果は、X資料を参照のこと。

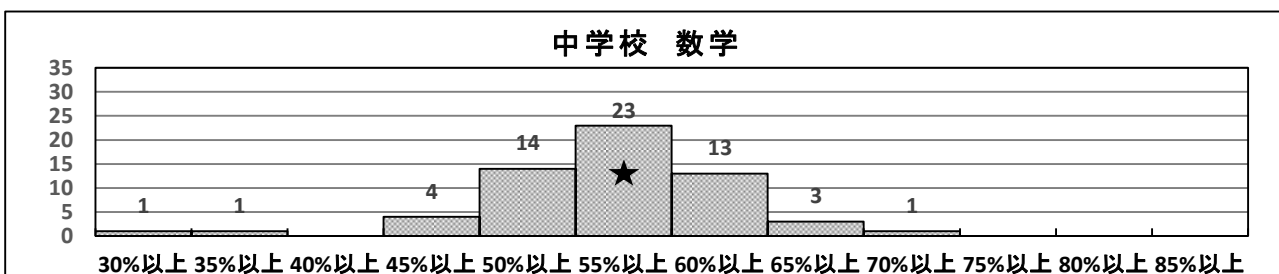
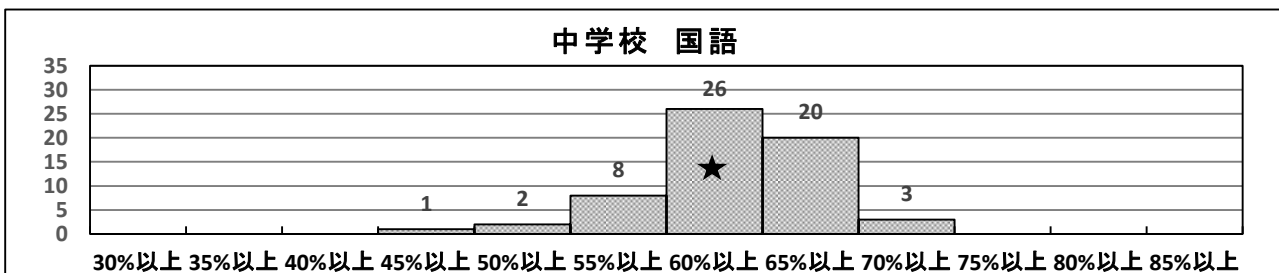
### ■ 小学校

- 国語は、全国の平均正答率のある階級（★印）よりも1つ高い階級に最も多くの市町村が集まっており、算数は、全国の平均正答率のある階級に、最も多くの市町村が集まっている。



### ■ 中学校

- 国語及び数学は、全国の平均正答率のある階級（★印）と同じ階級に最も多くの市町村が集まっている。



Ⅲ 各教科の調査結果は  
次のページから



ふくおか教育月間イメージキャラクター「ミライル」  
これからの社会をはばたく子どもたちの「翼」をイメージした妖精です

### Ⅲ 各教科の調査結果

#### 1 小学校国語

令和3年度全国学力・学習状況調査  
調査結果概況 【国語】  
福岡県－児童（公立）

小学校調査

・以下の集計値／グラフは、5月27日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

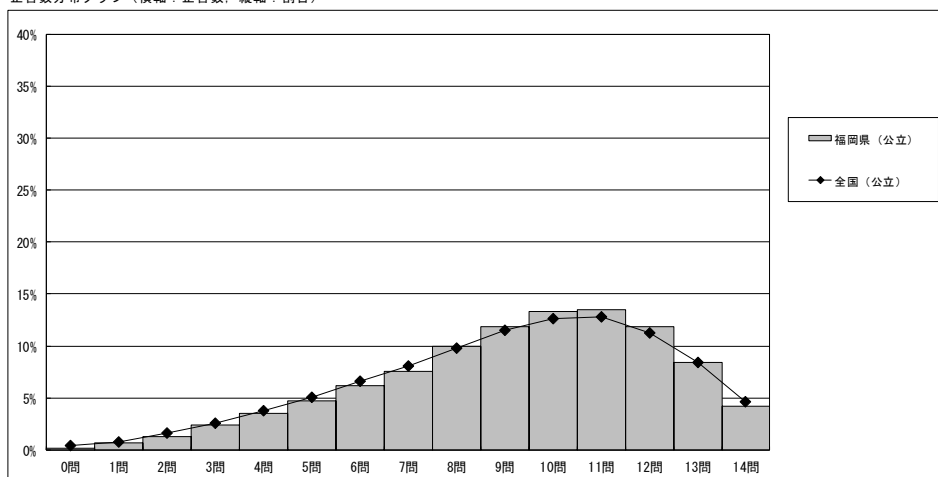
	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県（公立）	43,473	9.2 / 14	66	10.0	3.0
全国（公立）	993,975	9.1 / 14	64.7	9.0	3.1

	評師の観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
福岡県（公立）	68.7	63.4	
全国（公立）	68.3	62.1	

問題形式		
選択式	短答式	記述式
72.5	71.4	41.7
71.7	70.6	40.2

正答数	正答数集計値		
	児童数	割合 (%)	
	福岡県（公立）	福岡県（公立）	全国（公立）
14問	1,811	4.2	4.6
13問	3,672	8.4	8.4
12問	5,178	11.9	11.3
△ 11問	5,874	13.5	12.8
◇ 10問	5,800	13.3	12.6
9問	5,194	11.9	11.5
8問	4,348	10.0	9.8
▽ 7問	3,318	7.6	8.1
6問	2,698	6.2	6.6
5問	2,037	4.7	5.1
4問	1,534	3.5	3.8
3問	1,030	2.4	2.6
2問	559	1.3	1.6
1問	316	0.7	0.8
0問	104	0.2	0.4

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	福岡県（公立）	全国（公立）
△ 第3四分位	11.0問	11.0問
◇ 第2四分位	10.0問	9.0問
▽ 第1四分位	7.0問	7.0問

小学校国語では、次のような成果と課題が見られた（◇：成果、◆：課題）。

- ◇ 目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えること  
〔1〕一 福岡県 79.7% 全国 77.5%
- ◇ 資料を用いた目的を理解すること  
〔1〕二 福岡県 76.0% 全国 74.9%
- ◆ 目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けること  
〔2〕三 福岡県 34.1% 全国 34.4%
- ◆ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること  
〔2〕四 福岡県 29.6% 全国 29.7%
- ◆ 文の中における修飾と被修飾との関係を捉えること  
〔3〕三（2）オ 福岡県 41.8% 全国 43.6%

※ 数値は平均正答率を示している。

■ 小学校国語 設問別正答率

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県 (公立)	全国 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
1一	津田梅子の二つの業績を明確に伝えるために、【スピーチメモ】と【スピーチ】の練習で上野さんが話した構成の説明として適切なものを選択する	目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える	79.7	77.5	0.1	0.3
1二	津田梅子についての【スピーチ】の練習で、〈資料②〉と〈資料③〉を使った理由の説明として適切なものを選択する	資料を用いた目的を理解する	76.0	74.9	0.3	0.4
1三	津田梅子についての【スピーチ】の練習の [ ] の部分で話す内容として適切なものを選択する	目的や意図に応じ、資料を使って話す	81.7	81.0	0.2	0.4
2一	面ファスナーに関する【資料】の文章が、何について、どのように書かれているかの説明として適切なものを選択する	文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する	77.5	77.6	0.3	0.4
2二	面ファスナーに関する【資料】の文章の中の「より」と同じ使い方として適切なものを選択する	思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う	87.5	87.5	0.2	0.3
2三	面ファスナーに関する【資料】を読み、メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く	目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける	34.1	34.4	3.4	4.1
2四	面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する	29.6	29.7	4.6	5.5
3一	丸山さんの【文章の下書き】の構成についての説明として適切なものを選択する	自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える	66.7	64.8	1.5	2.1
3二	丸山さんの【文章の下書き】の ----- 部を【西田さんの話】を用いて詳しく書き直す	目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する	61.6	56.6	8.5	9.6
3三 (1) ア	丸山さんの【文章の下書き】の中の —— 部アを、漢字を使って書き直す (ころがっている)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	79.6	78.3	6.8	8.8
3三 (1) ウ	丸山さんの【文章の下書き】の中の —— 部ウを、漢字を使って書き直す (つみ重ね)		53.3	54.4	12.0	14.4
3三 (1) エ	丸山さんの【文章の下書き】の中の —— 部エを、漢字を使って書き直す (げんいん)		81.4	79.0	4.7	6.6
3三 (2) イ	丸山さんの【文章の下書き】の中の —— 部イで、~~~~部「残されています」の主語として適切なものを選択する	文の中における主語と述語との関係を捉える	68.9	67.0	2.7	3.8
3三 (2) オ	丸山さんの【文章の下書き】の中の —— 部オで、~~~~部「すぐに」がくわしくしている言葉として適切なものを選択する	文の中における修飾と被修飾との関係を捉える	41.8	43.6	2.9	4.1

## 2 小学校算数

令和3年度全国学力・学習状況調査  
調査結果概況 【算数】  
福岡県一児童（公立）

小学校調査

以下の集計値／グラフは、5月27日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

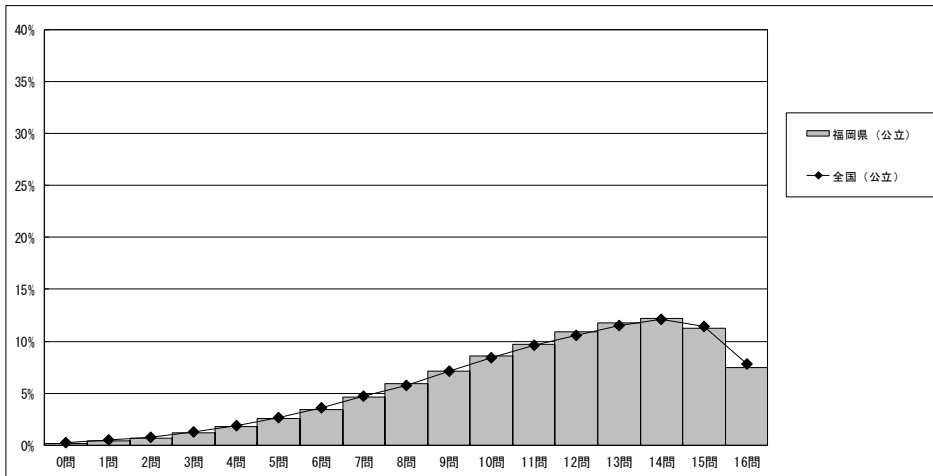
	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県（公立）	43,483	11.3 / 16	70	12.0	3.4
全国（公立）	994,101	11.2 / 16	70.2	12.0	3.5

	評価の観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
福岡県（公立）	74.4	65.5	
全国（公立）	74.1	65.1	

問題形式		
選択式	短答式	記述式
75.9	76.3	53.6
76.0	75.8	53.0

正答数集計値			
正答数	割合 (%)		
	児童数 福岡県 （公立）	福岡県 （公立）	全国 （公立）
16問	3,280	7.5	7.8
15問	4,913	11.3	11.4
△ 14問	5,325	12.2	12.1
◇ 13問	5,124	11.8	11.5
◇ 12問	4,733	10.9	10.6
◇ 11問	4,225	9.7	9.6
◇ 10問	3,756	8.6	8.4
▽ 9問	3,070	7.1	7.1
8問	2,556	5.9	5.8
7問	2,013	4.6	4.7
6問	1,497	3.4	3.6
5問	1,131	2.6	2.7
4問	778	1.8	1.9
3問	525	1.2	1.3
2問	292	0.7	0.8
1問	173	0.4	0.5
0問	92	0.2	0.3

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	福岡県 （公立）	全国 （公立）
△ 第3四分位	14.0問	14.0問
◇ 第2四分位	12.0問	12.0問
▽ 第1四分位	9.0問	9.0問

小学校算数では、次のような成果と課題が見られた（◇：成果、◆：課題）。

◇ 速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができること

〔1〕（5） 福岡県 86.6% 全国 85.1%

◇ 集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができること

〔3〕（5） 福岡県 74.8% 全国 73.9%

◆ 複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できること

〔2〕（3） 福岡県 44.1% 全国 46.0%

◆ 帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できること

〔3〕（4） 福岡県 51.8% 全国 52.0%

◆ 小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できること

〔4〕（3） 福岡県 54.8% 全国 51.5%

※ 数値は平均正答率を示している。

■ 小学校算数 設問別正答率

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県(公立)	全国(公立)	福岡県(公立)	全国(公立)
1(1)	二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く	二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる	63.5	62.5	1.3	1.7
1(2)	500mを歩くのに7分かかることを基に、1000mを歩くのにかかる時間を書く	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる	86.2	86.7	1.3	1.7
1(3)	㉗と㉘の二つの速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ	速さを求める除法の式と商の意味を理解している	55.5	55.8	1.0	1.4
1(4)	午後1時35分から50分後の時刻を書く	条件に合う時刻を求めることができる	89.8	89.2	0.5	0.7
1(5)	分速540mのバスが2700mを進むのにかかる時間を求める式を書く	速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる	86.6	85.1	1.0	1.5
2(1)	直角三角形の面積を求める式と答えを書く	三角形の面積の求め方について理解している	55.9	55.1	1.1	1.6
2(2)	直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ	複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる	72.3	72.5	0.7	1.0
2(3)	二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く	複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる	44.1	46.0	4.0	4.6
3(1)	6年生の本の貸し出し冊数を、棒グラフから読み取って選ぶ	棒グラフから、数量を読み取ることができる	96.2	95.8	0.2	0.4
3(2)	学年ごとの本の貸し出し冊数について、棒グラフから分かることを選ぶ	棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる	90.7	90.7	0.3	0.4
3(3)	「114」は二次元の表のどこに入るかを選ぶ	データを二次元の表に分類整理することができる	66.2	67.5	1.3	1.7
3(4)	帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く	帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる	51.8	52.0	9.0	10.3
3(5)	5年生と6年生の読みたい本と、多くの5年生と6年生に読まれている本を調べるために、適切なデータを選ぶ	集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができる	74.8	73.9	1.0	1.3
4(1)	余りのある除法の商と余りを基に、23個のボールを6個ずつ箱に入れていくときに必要な箱の数を書く	示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができる	83.4	83.0	1.4	1.7
4(2)	8人に4Lのジュースを等しく分けるとき一人分のジュースの量を求める式と答えを書く	商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができる	56.0	55.5	1.7	2.0
4(3)	30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く	小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる	54.8	51.5	8.2	10.3

### 3 中学校国語

令和3年度全国学力・学習状況調査  
調査結果概況 【国語】  
福岡県一生徒（公立）

中学校調査

以下の集計値／グラフは、5月27日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

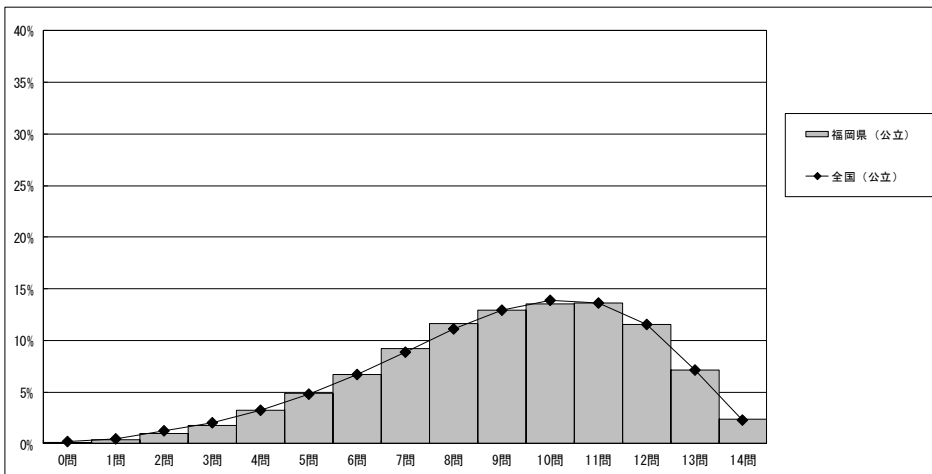
	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県（公立）	39,098	9.1 / 14	65	9.0	2.8
全国（公立）	903,157	9.0 / 14	64.6	9.0	2.8

	評価の観点				
	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
福岡県（公立）	57.9	81.5	57.5	48.7	74.1
全国（公立）	56.0	79.8	57.1	48.5	75.1

問題形式		
選択式	短答式	記述式
63.5	73.8	57.9
63.9	74.4	56.0

正答数集計値			
正答数	生徒数	割合 (%)	
	福岡県（公立）	福岡県（公立）	全国（公立）
14問	941	2.4	2.3
13問	2,783	7.1	7.1
12問	4,488	11.5	11.5
11問	5,322	13.6	13.6
10問	5,289	13.5	13.9
9問	5,060	12.9	12.9
8問	4,534	11.6	11.1
7問	3,589	9.2	8.9
6問	2,617	6.7	6.7
5問	1,924	4.9	4.8
4問	1,238	3.2	3.2
3問	716	1.8	2.0
2問	398	1.0	1.2
1問	153	0.4	0.5
0問	46	0.1	0.2

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	福岡県（公立）	全国（公立）
△ 第3四分位	11.0問	11.0問
◇ 第2四分位	9.0問	9.0問
▽ 第1四分位	7.0問	7.0問

中学校国語では、次のような成果と課題が見られた（◇：成果、◆：課題）。

◇ 質問の意図を捉えること

〔1〕二 福岡県 93.3% 全国 92.5%

◇ 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考えること

〔2〕二 福岡県 77.4% 全国 74.5%

◆ 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くこと

〔2〕一 福岡県 24.7% 全国 24.8%

◆ 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつこと

〔3〕四 福岡県 23.7% 全国 20.5%

◆ 相手や場に応じて敬語を適切に使うこと

〔4〕三 福岡県 39.2% 全国 40.3%

※ 数値は平均正答率を示している。



■ 中学校国語 設問別正答率

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県 (公立)	全国 (公立)	福岡県 (公立)	全国 (公立)
1一	話し合いでの司会の発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する	話し合いの話題や方向を捉える	91.1	89.7	0.1	0.2
1二	話し合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する	質問の意図を捉える	93.3	92.5	0.1	0.2
1三	参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く	話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える	60.2	57.1	2.3	3.4
2一	意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く	24.7	24.8	0.1	0.3
2二	意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く	書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える	77.4	74.5	6.3	8.5
3一	「呼吸をのみこんだ」の意味として適切なものを選択する	文脈の中における語句の意味を理解する	42.2	43.7	0.2	0.4
3二	「喝采してやる」と「とった」のそれぞれについて、誰の動作なのかを選択する	場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する	57.7	58.7	0.3	0.4
3三	「反対の結果を呈出した」について、このことが分かる「黒」の様子を文章の中から抜き出す	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する	71.1	71.0	6.3	7.3
3四	「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く	文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ	23.7	20.5	21.2	24.1
4一①	漢字を読む(俚ばして)	文脈に即して漢字を正しく読む	97.9	97.5	1.2	1.5
4一②	漢字を読む(詳細)		87.1	88.8	2.0	2.3
4二	「随時」の意味として適切なものを選択する	事象や行為などを表す多様な語句について理解する	72.2	74.0	1.0	1.1
4三	「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する	相手や場に応じて敬語を適切に使う	39.2	40.3	1.6	1.7
4四	事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く	70.3	71.9	9.0	9.7

## 4 中学校数学

令和3年度全国学力・学習状況調査  
調査結果概況 [数学]  
福岡県一生徒（公立）

中学校調査

以下の集計値／グラフは、5月27日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

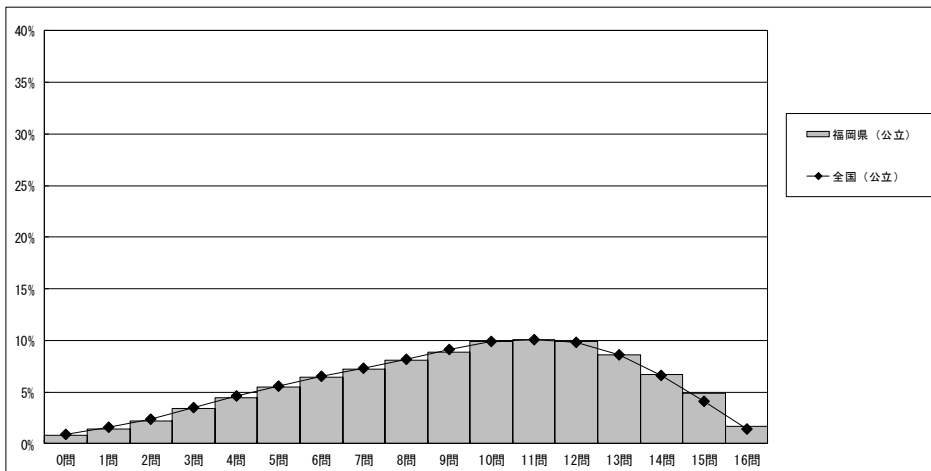
	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
福岡県（公立）	39,096	9.3 / 16	58	10.0	3.7
全国（公立）	903,253	9.1 / 16	57.2	10.0	3.7

	評価の観点			
	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解
福岡県（公立）		42.3	78.3	66.5
全国（公立）		41.1	77.7	65.6

問題形式		
選択式	短答式	記述式
53.4	71.2	36.4
52.4	70.5	35.0

正答数集計値			
正答数	割合 (%)		
	生徒数 福岡県 （公立）	福岡県 （公立）	全国 （公立）
16問	667	1.7	1.4
15問	1,904	4.9	4.1
14問	2,631	6.7	6.6
13問	3,379	8.6	8.6
△ 12問	3,868	9.9	9.8
11問	3,940	10.1	10.1
◇ 10問	3,864	9.9	9.9
9問	3,466	8.9	9.1
8問	3,157	8.1	8.2
▽ 7問	2,808	7.2	7.3
6問	2,518	6.4	6.5
5問	2,133	5.5	5.6
4問	1,727	4.4	4.6
3問	1,345	3.4	3.5
2問	846	2.2	2.4
1問	534	1.4	1.6
0問	309	0.8	0.9

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	福岡県 （公立）	全国 （公立）
△ 第3四分位	12.0問	12.0問
◇ 第2四分位	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	7.0問	6.0問

中学校数学では、次のような成果と課題が見られた（◇：成果、◆：課題）。

◇ 整式の加法と減法の計算ができること

[1] 福岡県 78.7% 全国 77.1%

◇ 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができること

[6] (1) 福岡県 85.0% 全国 83.9%

◆ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができること

[7] (2) 福岡県 29.5% 全国 27.7%

◆ データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができること

[8] (3) 福岡県 13.9% 全国 11.1%

◆ ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができること

[9] (3) 福岡県 28.6% 全国 28.8%

※ 数値は平均正答率を示している。

■ 中学校数学 設問別正答率

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			福岡県(公立)	全国(公立)	福岡県(公立)	全国(公立)
1	$(5x + 6y) - (3x - 2y)$ を計算する	整式の加法と減法の計算ができる	78.7	77.1	0.7	0.8
2	数量の関係を一元一次方程式で表す	具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができる	72.2	71.3	6.6	7.6
3	中心角 $60^\circ$ の扇形の弧の長さについて正しいものを選ぶ	扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解している	66.3	68.1	0.2	0.3
4	経過した時間と影の長さの関係を、「…は…の関数である」という形で表現する	関数の意味を理解している	48.3	48.0	7.7	9.3
5	反復横とびの記録の中央値を求める	与えられたデータから中央値を求めることができる	84.0	84.5	0.9	1.0
6(1)	四角で囲んだ4つの数が12, 13, 17, 18のとき、それらの和が4の倍数になるかどうかを確かめる式を書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	85.0	83.9	2.8	3.5
6(2)	四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる	62.5	61.8	13.1	15.4
6(3)	四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する	数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる	32.2	30.3	24.6	29.9
7(1)	与えられた表やグラフから、砂の重さが75gのときに、砂が落ちきるまでの時間が36.0秒であったことを表す点を求める	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる	94.2	93.5	1.9	2.0
7(2)	与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	29.5	27.7	22.1	24.7
8(1)	気温差が $9^\circ\text{C}$ 以上 $12^\circ\text{C}$ 未満の階級の度数を書く	ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができる	84.1	83.0	3.7	4.2
8(2)	2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いることの前提となっている考えを選ぶ	相対度数の必要性と意味を理解している	40.5	36.8	0.7	1.0
8(3)	「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	13.9	11.1	27.1	32.2
9(1)	四角形 $ABCE$ が平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する	平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができる	44.0	44.3	2.6	3.6
9(2)	錯角が等しくなることについて、根拠となる直線 $FE$ と直線 $BC$ の関係を、記号を用いて表す	錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している	65.6	64.3	12.7	14.2
9(3)	$\angle ARG$ や $\angle ASG$ の大きさについていつでもいえることを書く	ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる	28.6	28.8	26.1	28.7

IV 日々の授業改善及び学校運営等によって  
効果を上げている事例は、次のページから



ふくおか教育月間イメージキャラクター「ミライル」  
これからの社会をはばたく子どもたちの「翼」をイメージした妖精です

## IV 日々の授業改善及び学校運営等によって効果を上げている事例

### ～児童生徒・学校・地域等の実態を踏まえて学力を向上させる取組～

本県の学力の課題の一つに、「地区間差」「学校間差」があり、一律の取組だけでは改善が難しい場合があります。

そこで、本章では、児童生徒・学校・地域等の実態を踏まえた取組を行うことで、学力を向上させている学校の効果的な取組事例を紹介しています。

本事例を参考に、そのまま実践したり、自校の実態に合わせてアレンジしたりして、自校の学力向上、授業改善等の一助としていただければ幸いです。

#### <ICTを効果的に活用した（一人一台端末の活用を含む）授業実践>

事例1（A町立A小学校（北九州地区））・・・・・・・・・・ 25～26

事例2（B市立B中学校（福岡地区））・・・・・・・・・・ 27～28

#### <個の学びの状況に応じた習熟度別少人数授業等を取り入れた授業実践>

事例3（C市立C小学校（北筑後地区））・・・・・・・・・・ 29～30

事例4（D市立D中学校（筑豊地区））・・・・・・・・・・ 31～32

#### <学力層（C・D層）に焦点を当てた取組>

事例5（E市立E小学校（南筑後地区））・・・・・・・・・・ 33～34

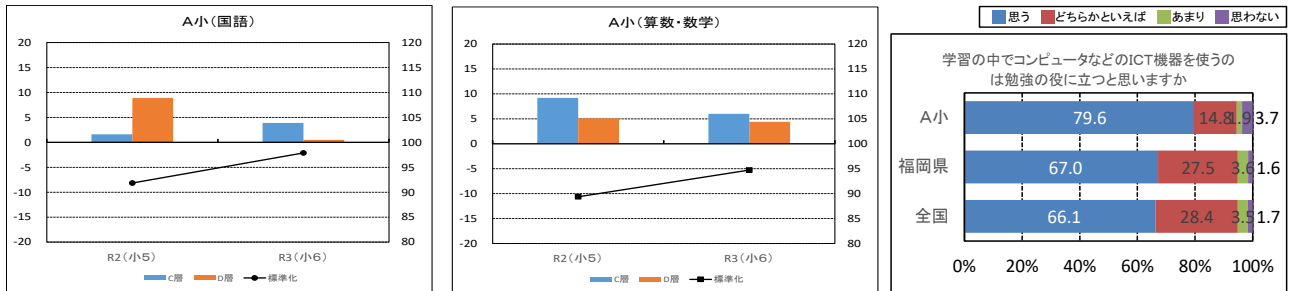
事例6（F町立F中学校（京築地区））・・・・・・・・・・ 35～36

# ICTを効果的に活用した（一人一台端末の活用を含む）授業実践

A町立A小学校（北九州地区）

○同一集団の推移（R2（小5）～R3（小6））と児童質問紙の結果（R3）

※標準化得点及び四分位層の割合は、指定都市を除く福岡県全体の結果をもとに算出。



## 1 取組の概要

「個に応じた指導」を学習者の視点から捉え直し、**日常的・組織的にICT活用を推進**することで、**主体的・対話的で深く学ぶ授業改善**に向けた取組を実施した。


## 2 取組の進め方

取組方法について	取組に活用した資料
<p><b>P（計画段階）</b></p> <p>年度当初に学力向上の取組を教員と共通理解を図るために、管理職が、主題研修・学力向上検証委員会の開催や、前年度の成果及び課題を示した資料準備等を、教務担当や学力向上コーディネーター（以降、学力Co.）に指示した。</p> <p>教務担当が、管理職及び学力Co.との協議により決まったことをもとに、<b>ロードマップを作成</b>した。</p> <p>学力Co.が、昨年度の学力向上委員会等で本年度に継続することとなっている<b>取組の目的・内容・方法を整理</b>した。</p> <p>必要な情報を基に自分の考えを数学的に表現し伝え合うことができる児童を育てるために、学級担任は、「一人学び」及び「協働学び」におけるICT活用を通じた算数科の授業を構想した。</p>	<p><b>共通理解を図るために使用した資料</b></p> <p><b>継続した取組等をまとめた研究通信</b></p> <p>(1) 研究主題および副題</p> <p>必要な情報を基に自分の考えを数学的に表現し伝え合う算数科学習指導 —「一人学び」及び「協働学び」におけるICTの活用を通して—</p> <p>イメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決に必要な情報を取り出すことができる。</li> <li>根拠となる情報をもとに自分の考えをつくらることができる。</li> <li>数学的に考えたことを説明することができる。</li> </ul> <p>(2) 今年度の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>算数科の学習において、どのような場面でICTの活用が効果的かを明らかにする。</li> <li>「ICTを活用した算数科学習指導」のための土台作り（子どもを撮る、掲示物作成など）</li> </ul>
<p><b>D（実施段階）</b></p> <p>管理職が、<b>授業チェックリストの視点に沿って日々の授業を参観</b>し、同日の放課後に気づいたことを指導助言した。</p> <p>教務担当は、校内ICT活用指導力向上研修の内容や方法等を研究主任と検討し、実施した。また、この研修内容を他の校内研修でも取り扱い、内容の定着を図った。</p> <p>学力Co.が、各学級のICTを活用した授業（研究授業）における成果と課題を明らかにし、<b>ICT活用場面やICT操作方法等の必要な情報を研究通信にまとめて、随時発信</b>した。</p>	<p><b>ICT活用の情報をまとめた研究通信</b></p> <p>協議会で出されたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□先生より</li> <li>○同じまわりをつくることはできていた。…一人学びに時間がかかっていた。…「見通し」で画用紙を折り曲げて提示する活動を丁寧しておくべきだった。</li> <li>○いろいろな考えが出たので、多様な考え方の理解はできていた。</li> <li>○低学年で、「考えの深まり」が難しかった。（低学年児童でどこまで行うか。）</li> <li>○算数アンケートから「タブレットの方がしやすい」「みんなの意見が知れてよかった」が得られた。</li> </ul> <p>質疑より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○タブレットを使ってよかった点</li> <li>⇒全員の画面を見ることができる。</li> <li>⇒机間指導で支援を必要とする児童や指名する児童の見取りができた。</li> </ul>

学級担任は、日常的にタブレット端末を活用させ、学習過程の「一人学び」の段階で、図をかき等の操作を通して思考を促したり、「協働学び」の段階で互いの考えを比較させたりした。また、「ICTを効果的に活用した算数科学習指導」における研究授業を年間一人一実践し、その内容をレポートにまとめ、全教員で共有した。

・実践レポート

4 授業の実際と考察  
 (1) 着眼1「協働学び」において、個の考えを伝える学習活動の工夫  
 「協働学び」で、個の考えを伝えるために、まずは自分の考えをつくる段階において、ワークシートに様々な情報をかきこんだり、計算したりする活動を行った。その後、書き込んだ情報を整理しながら、発表ノートにまとめる活動を行うことで、相手に伝えるために必要な情報を精選することができた(資料1)。  
 しかし、まとめる時間が足りず、個の考えを伝えるまでに至らなかった児童も数名見られた。「ワークシートにかきこむ」と「発表ノートにまとめる」ことが二度手間となる児童もいるので、他の方法を検討する必要がある。



C (評価段階)

管理職は、定期的(毎月末)に学力向上委員会を開催し、指導助言した。また、学期ごとに教師及び児童による授業アンケートを実施し、集約結果を基に、成果及び課題を職員で共有した。

教務担当は、ロードマップに位置付けた取組に対する評価を行う会議を年3回実施した。

学力Co.が、学力向上とICT活用との関連について、成果と課題を明確にした。

学級担任は、学力向上とICT活用との関連についての成果と課題を踏まえ、これまでの授業を見直した。

教師アンケート(上) 児童アンケート(下)

授業評価 教師用(主体的・対話的で深い学び)

展開		内容	評価
導入	めあて	本時の学習内容に向かうめあてを、これまで学習したことや予習したことをもとに、子どもから引き出している。	
	見通し	本時のめあて達成のため、何に着目し、どのように考えればよいかを一人一人の子どもにつかませている。	
展開	一人学び	本時のめあて達成のため、絵や図、文章等で自分の考えを書かせている。	
	協働学び	自他の考えの共通点や相違点を明らかにし、自分の考えを広げ・深めるための話し合い活動を位置づけている。	

授業を支える基本的な指導技術

ICT活用	ICT機器を活用して、話し合いを活性化させている。学習の定着を図ったりする活動を設定している。
-------	---

ICT活用において、困っていること、こんなことができたらいいな等、ご意見・ご感想があれば記入してください。

授業評価 児童用

	内容	評価
6	何に気をつけ、どのように考えたいか、見通しをもって取り組んでいます。	
7	絵や図、文章などを使って、自分の考えを書く時間があります。	
8	自分の考えを友達とくらべるための話し合いの時間があります。	
9	先生が、学習中の考え方や学び方のよさについて話してくれます。	

A (改善段階)

管理職が、ICT活用に関して、「継続する取組」と「改善の必要がある取組」を分類した。

教務担当が、「改善の必要がある取組」を分析し、新たに取り組む内容を明確にした。

学力Co.が、新たにに取り組む内容について、ICTの活用案を提案した。

学級担任は、新たなICTの活用案をもとに、日常的な授業実践に取り組んだ。

・ICTの活用案

「資料置き場」の画像の大きさ調整  
 ①「資料置き場」に保存後、発表ノートを開いてドラック&ドロップ(押しのまま、離す)。  
 ②画像の大きさを調整後に、「資料置き場」に戻す。

問題の解決(一人学び)  
 発表ノートに画像や動画を貼り付ける  
 ①発表ノートを開いた状態で、「撮影(カメラ)」をタップ  
 画像や動画が発表ノートに貼り付けられます。

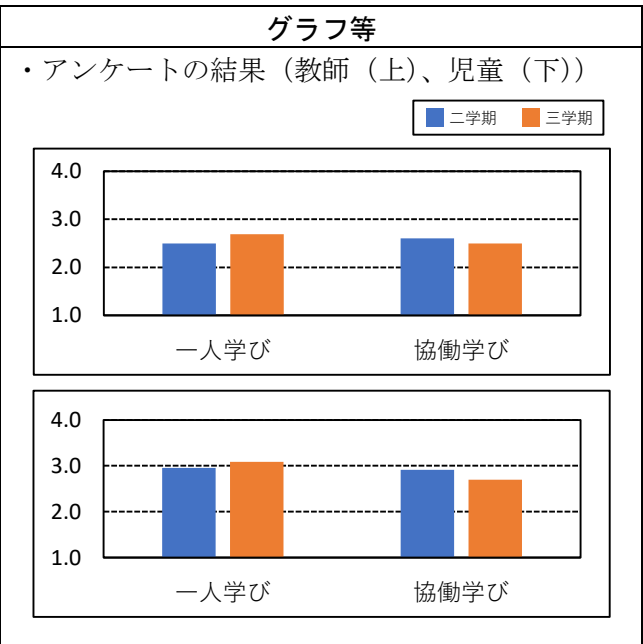
発表ノートに書かせるタイミング

ノートに自分の考えを書く →発表ノートにまとめる。	発表ノート上に解いてみる →ノートに自分の考えをまとめる。
○自分の考えをノートに書く ノートに、試行錯誤しながら説明を書く。 ○発表ノートにまとめる(消書) 発表ノートにまとめることで、自分の考えを整理しながら、発表に必要な情報だけをまとめることができる。	○発表ノート上に解いてみる タブレットは、文字をかいだり消したりすることが容易なので、試行錯誤しながら何度も書き込みをすることが出来る。 ○ノートに自分の考えをまとめる。 ※上書きされる。

3 取組の振り返り

内容

- 取組の進捗状況を定期的に把握したり、全職員で取組を評価・改善したりすることを通して、学力向上に向けたICT活用の日常化を図ることができた。
- タブレット端末の操作を通して思考を促したり、互いの考えを比較させたりすることによって、児童自身が端末を操作しながら試行錯誤し、問題解決のイメージを持ち、考えをより深めることができた。
- 授業アンケートの「協働学び」における数値が、教師と児童のどちらも2学期から3学期にかけて下がった。学びを生かし、児童が主体的に「協働学び」を行う学習を仕組むことができるように教職員で改善策を検討していく。

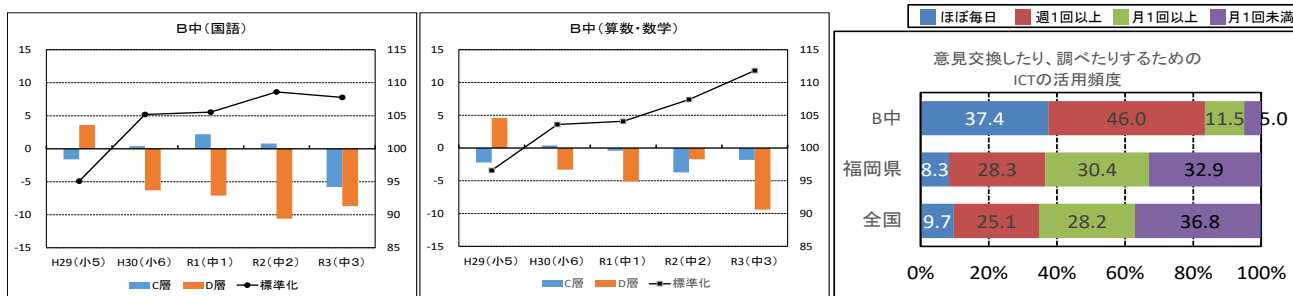


# ICTを効果的に活用（一人一台端末の活用を含む）した授業実践

B 市立 B 中学校（福岡地区）

○同一集団の推移（H29（小5）～R3（中3））と生徒質問紙の結果（R3）

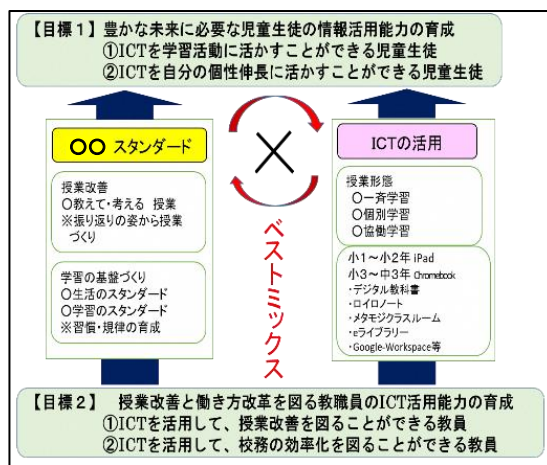
※標準化得点及び四分位層の割合は、指定都市を除く福岡県全体の結果をもとに算出。



## 1 取組の概要

「確かな学力」の育成を図るため、〇〇スタンダード授業モデル（下図）をもとに、ICTを効果的に活用した授業改善を中心に取り組んだ。

- ICTを活用した遠隔授業の実施  
(ALTとのパフォーマンステスト等)
- 動画を活用した反転授業の実施  
(HP上に授業動画をアップし、事前視聴させ、授業を実施)
- ICTを活用した振り返りの位置付け  
(生徒の振り返りの内容を集約し、次時の授業へ活用)
- ICTを活用した研究授業を全校で参観  
(生徒・教師双方へ授業モデルの提示)
- ICTを活用した学力向上の具体的方策（放課後の補充学習の設定、校内の重点教科の設定等）の共有

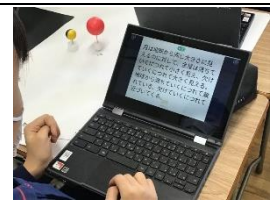


## 2 取組の進め方

取組方法について	取組に活用した資料等																				
<p><b>P（計画段階）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校長は、学力向上のための、ICTを活用した授業改善の方向性を示す。</li> <li>教務担当は、教育課程編成方針の中でICTを活用した学力向上の具体的方策（放課後の補充学習の設定、校内の重点教科の設定）を提案する。</li> <li>学力向上コーディネーター（以降、学力Co.）は、ICT活用を含めた学力向上ロードマップ（右表）を作成、提案する。</li> <li>研究主任は、ICTを活用した授業モデル（遠隔授業、振り返りの活用、動画による反転授業）を研究推進委員会で検討後、全職員に提案する。</li> <li>学年職員は、学年の課題を明確にし学年の重点教科を設定し、朝学習や放課後の補充学習を計画する。</li> </ul> <p><b>D（実施段階）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校長、教頭、教務担当は、授業参観し、ICTを活用した効果的な授業づくりについて、授業チェックリスト等を用いて実施状況を把握する。</li> </ul>	<p>学力向上ロードマップ（一部抜粋）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>業者テスト実施、結果送付</td> <td>全国学力・学習状況調査</td> <td>福岡県学力調査</td> <td></td> <td>全国学力・学習状況調査の結果受領</td> </tr> <tr> <td>校内研修会 研究主任による授業設計の説明及び共通理解</td> <td>学習意欲の持続を実現させる単元ごとの授業設計案の作成及び実施</td> <td>ICT機器を活用した授業実践と手立ての検討</td> <td>教職員アンケートや生徒アンケート等の結果集計及び、結果に基づく学力向上プランの見直しと授業改善案の検討</td> <td></td> </tr> <tr> <td>校内研修会 研究主任によるICT機器の活用説明及び共通理解</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>教科部会による活用事例等の共有</p>	4月	5月	6月	7月	8月	業者テスト実施、結果送付	全国学力・学習状況調査	福岡県学力調査		全国学力・学習状況調査の結果受領	校内研修会 研究主任による授業設計の説明及び共通理解	学習意欲の持続を実現させる単元ごとの授業設計案の作成及び実施	ICT機器を活用した授業実践と手立ての検討	教職員アンケートや生徒アンケート等の結果集計及び、結果に基づく学力向上プランの見直しと授業改善案の検討		校内研修会 研究主任によるICT機器の活用説明及び共通理解				
4月	5月	6月	7月	8月																	
業者テスト実施、結果送付	全国学力・学習状況調査	福岡県学力調査		全国学力・学習状況調査の結果受領																	
校内研修会 研究主任による授業設計の説明及び共通理解	学習意欲の持続を実現させる単元ごとの授業設計案の作成及び実施	ICT機器を活用した授業実践と手立ての検討	教職員アンケートや生徒アンケート等の結果集計及び、結果に基づく学力向上プランの見直しと授業改善案の検討																		
校内研修会 研究主任によるICT機器の活用説明及び共通理解																					
	<p>概要① 遠隔授業（英語）</p> <p>概要② 動画を活用した反転授業</p>																				



- ・研究主任は、授業全体研修を計画し、振り返りを重視した授業をICT活用事例まで含めて生徒と職員に提案する。
- ・教科担当は、授業全体研修を基に、ICTを活用した振り返りの実施とそれを踏まえた授業や遠隔授業等を実践する。
- ・生徒の振り返りカードを蓄積し、単元を通して生徒の理解度や思考力・判断力・表現力の高まりを見取った実践例を職員で共有する。
- ・学年職員は、ICTを活用して、補充学習や週末課題を作成し、実施させる。



概要③ ICT機器を活用した生徒の振り返り（理科）

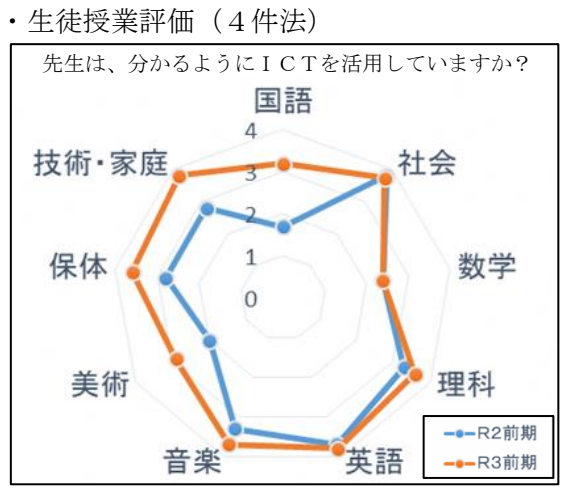


概要④ ICTを活用した研究授業を全校で参観



概要⑤ 補充学習（数学）

- C（評価段階）**
- ・校長、教頭は、授業者に対して、授業参観結果を基に直接指導助言を行うとともに、ICTの活用状況を報告させる。
  - ・教務担当は、生徒による授業評価や職員の自己評価を基に、全職員にICTの効果的な活用推進を指示する。
  - ・学力Co.は、定期考査や実力テストの結果を集約分析し、全職員へ提示する。
  - ・学年職員は、ICT活用の効果についての自己評価をする。また、各調査の結果を基に朝学習や補充学習など学力向上の取組を修正する。



- A（改善段階）**
- ・校長、教頭は進捗状況を確認し、ICTを活用した授業改善の方向性について、教務担当や学力Co.に指導助言する。
  - ・教務担当、学力Co.は、指導助言を基に学力向上プランの修正案を作成し、全職員に提案する。
  - ・学年職員は、学力向上プランの修正案を協議する。また、朝学習や補充学習などの取組や、個別の支援が必要な生徒の支援内容を検討する。

・修正した学力向上プランの一部（下線部が修正点）

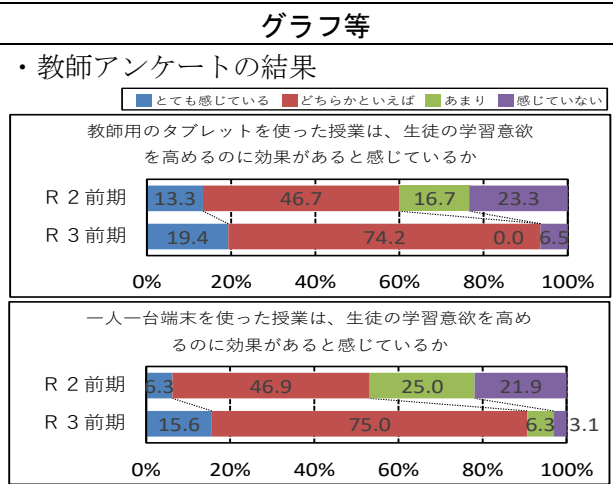
**【授業づくり】**

【学習意欲の持続を促す授業転換】  
 （取組（指標））  
 ③⑥ ICTの活用を導入した授業設計及び、既習事項の活用等、連続的な学びが組み込まれた単元設計（週指導計画案に毎時間分を記入）  
 （成果（指標））  
 ◆授業チェックリスト（「学習内容を確実に定着させ、次時の学習意欲を喚起するための工夫」3.0以上4段階評定尺度）  
 ◆授業チェックリスト（「コンピュータ情報通信ネットワークを活用した学習がなされている。」3.5以上4段階評定尺度）

【自分の考えを構築し、目的に応じて表現する力の育成】  
 （取組（指標））  
 ⑤学習課題に応じた総括レポートや感想文などの作品を作成する場の設定  
 ⑥論理的な思考の構築を促す思考ツール等を用いた手立ての工夫（全教科）  
 （成果（指標））  
 ◆生徒による授業評価（「自分の考えを他の人に説明したり、文章にまとめたりする授業が充実していた。」）

**3 取組の振り返り**

- 内容**
- 教師用タブレットや生徒の一人一台端末を使った授業では、学習意欲を高めるのに効果があったと感じる教師の割合が増加した。
  - 繰り返し学習などの結果、数学、社会の学力向上につながった。
  - 学力向上と因果関係のあるICTの活用方法が明らかになっていない。学習履歴から個別最適な学びにつなげる実践を行っていく必要がある。

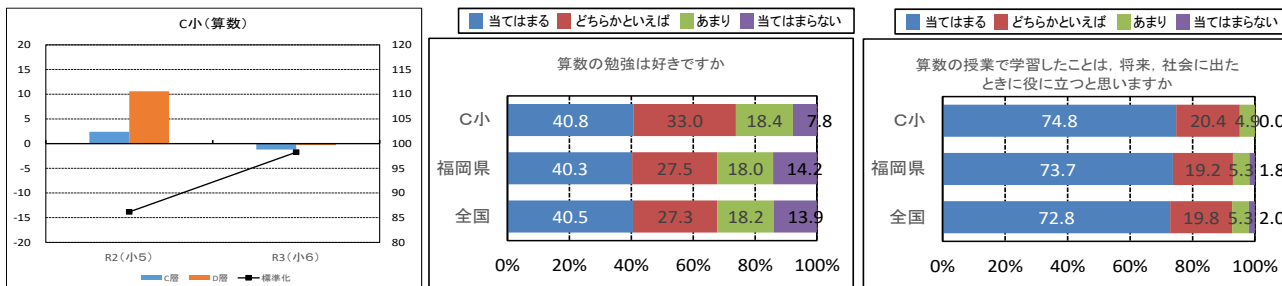


# 個の学びの状況に応じた習熟度別少人数授業等を取り入れた授業実践

C 市立 C 小学校（北筑後地区）

○同一集団の推移（R2（小5）～R3（小6））と児童質問紙の結果（R3）

※標準化得点及び四分位層の割合は、指定都市を除く福岡県全体の結果をもとに算出。





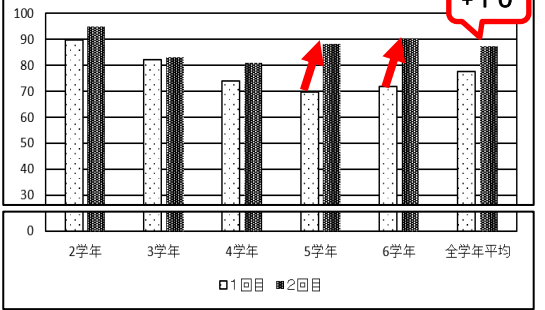
## 1 取組の概要

本校では、児童の計算力不足という課題を解消するため、全学年対象に「数と計算」領域の「100%マスターテスト（計算力を見取る形成的診断テスト）」の実施により、計算力を強化することとした。具体的には、2～6年生の算数科において、通年で学級を2分割（単元ごとに学級を見直す）して実施している習熟度別少人数授業と、C・D層の児童に「100%マスターテスト」で満点合格を手厚く支援する放課後『補充学習』とを結びつけて、全職員が一体となって取り組んだ。

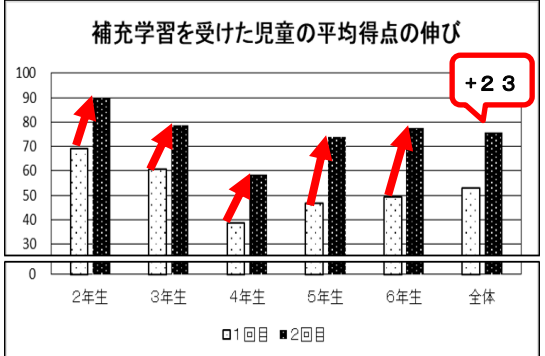
成果として、日常の習熟度別少人数授業における児童の理解力と学習意欲が向上した。

## 2 取組の進め方

取組方法について	取組に活用した資料等																				
<p><b>P（計画段階）</b> 1 2月（2学期末）～冬季休業中                      &lt;対策案&gt;</p> <p>①『補充学習』の目的、取組内容、役割分担等を職員会にて周知（主幹教諭）【2学期末】</p> <p>②習熟度別少人数授業の計画（学級担任）【2学期末】</p> <p>③「100%マスターテスト」の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「100%マスターテスト」の問題作成・解答作成、印刷、先生用ファイル準備。（下学年担当：主幹教諭、上学年担当：学力向上コーディネーター）【冬季休業中】</li> </ul>	<p>・習熟度別少人数授業の計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">学年</th> <th colspan="2">指導者</th> <th rowspan="2">習熟度別授業を実施する単元</th> </tr> <tr> <th>A・B・C層</th> <th>D層</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2年生</td> <td rowspan="5">学級担任</td> <td>教務部教員①</td> <td>重点単元</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>指導方法工夫改善担当①</td> <td>重点単元（3年生と4年生を交互）</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td rowspan="2">教務部教員②</td> <td rowspan="2">全単元</td> </tr> <tr> <td>5年生</td> </tr> <tr> <td>6年生</td> <td>指導方法工夫改善担当②</td> <td>全単元</td> </tr> </tbody> </table>	学年	指導者		習熟度別授業を実施する単元	A・B・C層	D層	2年生	学級担任	教務部教員①	重点単元	3年生	指導方法工夫改善担当①	重点単元（3年生と4年生を交互）	4年生	教務部教員②	全単元	5年生	6年生	指導方法工夫改善担当②	全単元
学年	指導者		習熟度別授業を実施する単元																		
	A・B・C層	D層																			
2年生	学級担任	教務部教員①	重点単元																		
3年生		指導方法工夫改善担当①	重点単元（3年生と4年生を交互）																		
4年生		教務部教員②	全単元																		
5年生																					
6年生		指導方法工夫改善担当②	全単元																		
<p><b>D（実施段階）</b> 1月～2月末                      &lt;取組の実際&gt;</p> <p>①第1回「100%マスターテスト」の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別少人数授業で第1回「100%マスターテスト」を実施し、補充学習対象者を明らかにした。（主幹教諭）【始業式】</li> <li>第1回「100%マスターテスト」の採点は、教務部教員等が行った。</li> </ul> <p>②習熟度別少人数授業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>担任と教務部教員等がそれぞれペアを組んで習熟度別少人数授業を実施した。特に、D層担当教師は問題シートを作成する等、個に応じた支援の充実を図った。</li> </ul> <p>③『補充学習』の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学級担任、教頭、主幹教諭、指導工夫改善担当、学力向上コーディネーター、教務部教員等が学習指導を行った。</li> </ul>	<p>・4年生100%マスターテストの問題一部</p> <p>① <math>7 \overline{)98}</math>      ② <math>4 \overline{)984}</math>      ③ <math>3 \overline{)194}</math></p> <p>④ <math>42 \overline{)58.8}</math>    ⑤ <math>4 \overline{)7}</math>      ⑥ <math>0.35 \times 4</math></p> <p>・習熟度別少人数授業【D層対応】                      考え方付き問題シート</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【問題】じゅりさん、れなさん、さきとさん、まなかさんが4人がけのベンチに座ります。じゅりさんとまなかさんがとなりどうしになる座り方は何通りありますか。</p> <p>じゅりさんとまなかさんを1つのペアとみれば、3組をならべると考えられるね。</p> <p>じ・ま    れ    さ</p> <p>「じゅり・まなか」さんの並び方と「まなか・じゅり」さんの並び方があるから                      式( )通り×( )=( )    答え( )通り</p> </div>																				

<p>(1、2年担任は、C・D層の支援。3～6年担任は、C層の支援。教務部教員等は、3～6年のD層支援。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誤答問題は支援しながら満点取得まで挑戦させた。</li> <li>・満点合格後、次学年「100%マスターテスト」へ進ませた。</li> <li>・児童の学年のテストが合格したら『補充学習』終了。</li> <li>・保護者に対して『補充学習』の取組について便りを配布した。(主幹教諭)</li> </ul>	<p>・習熟度別少人数授業と『補充学習』の様子</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>少人数授業</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>補充学習</p> </div> </div>																					
<p><b>C (評価段階) 2月末</b>          &lt;評価の実際&gt;</p> <p>①第2回「100%マスターテスト」による取組の検証</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度別少人数授業で第2回「100%マスターテスト」を実施し、結果分析から習熟度別少人数授業と『補充学習』の成果と課題を整理した。(採点：教務部教員等)</li> </ul> <p>②「100%マスターテスト」の誤答分析と各層への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた学びが充実するよう、授業、補充学習、家庭学習で活用できるプリント作成を計画した。          (プリント作成：主幹教諭、提案：学力向上コーディネーター)</li> </ul>	<p>・「100%マスターテスト」の平均得点</p>  <table border="1"> <caption>「100%マスターテスト」の平均得点</caption> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>1回目</th> <th>2回目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2学年</td> <td>85</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>3学年</td> <td>80</td> <td>82</td> </tr> <tr> <td>4学年</td> <td>75</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>5学年</td> <td>70</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>6学年</td> <td>65</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>全学年平均</td> <td>70</td> <td>75</td> </tr> </tbody> </table>	学年	1回目	2回目	2学年	85	90	3学年	80	82	4学年	75	80	5学年	70	75	6学年	65	70	全学年平均	70	75
学年	1回目	2回目																				
2学年	85	90																				
3学年	80	82																				
4学年	75	80																				
5学年	70	75																				
6学年	65	70																				
全学年平均	70	75																				
<p><b>A (改善段階) 3月</b>          &lt;対策・改善&gt;</p> <p>①成果と課題の共通理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回「100%マスターテスト」の結果及び成果と課題を職員会議で報告した。(主幹教諭)</li> </ul> <p>②誤答問題対策プリント、応用問題の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・C段階での評価を基に、誤答問題対策プリントを作成し、習熟度別少人数授業での活用を提案した。          (プリント作成：主幹教諭、提案：学力向上コーディネーター)</li> <li>・「100%マスターテスト」を基に応用問題を作成し習熟度別少人数授業、宿題等の活用を計画した。(学級担任)</li> </ul> <p>③支援の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回「100%マスターテスト」でさらに課題がある児童を支援した。(学級担任)</li> </ul>	<p>・誤答問題対策プリントの一部</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(6) 右の筆算を見て、正しいものに○を付けましょう。</p> <p>問題①小数第2位までのがい数で表すときは、( )○、( )○、( )○を四捨五入します。          ★4.057・・・では、【     】となります。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <math display="block">\begin{array}{r} 4.0\text{○}0\text{○} \\ 9 \overline{) 36.52} \\ \underline{36} \phantom{00} \\ 5 \phantom{00} \end{array}</math> </div> <p>問題②小数第2位を四捨五入してがい数で表すときは、( )○、( )○、( )○を四捨五入します。          ★4.057・・・では、【     】となります。</p> <p>問題③四捨五入して整数で表すときは、( )○、( )○、( )○を四捨五入します。          ※4.057・・・では、【     】となります。</p> </div>																					

### 3 取組の振り返り

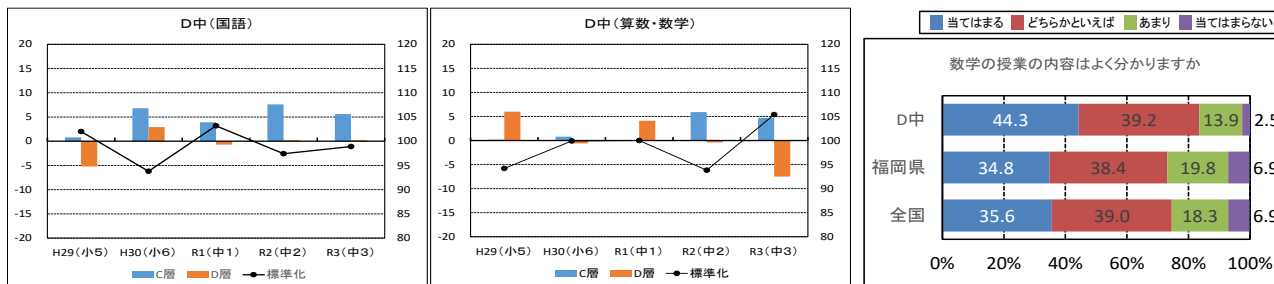
内容	グラフ等																					
<p>習熟度別少人数授業と『補充学習』とを効果的に組み合わせ、組織マネジメントを機能させ、全職員の力を結集して取り組んだ結果、児童への細やかな支援が行き届き、2回目の100%マスターテストにおいて、補充学習対象者の平均得点を約23点上昇させることができた。『補充学習』で弱点を克服した児童は、日常の習熟度別少人数授業で以前より自信をもって取り組むことができるようになった。また、授業者は、誤答しやすい既習内容を授業の導入で触れて新しい学習内容に関連付けるなど、C・D層の実態に応じた授業へと改善が図られた。令和2年度から始まった本取組は、職員の強い希望で次年度以降も継続していくこととなった。</p>	<p>・C・D層の弱点克服の成果</p>  <table border="1"> <caption>補充学習を受けた児童の平均得点の伸び</caption> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>1回目</th> <th>2回目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2年生</td> <td>67</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>60</td> <td>78</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>40</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>5年生</td> <td>45</td> <td>72</td> </tr> <tr> <td>6年生</td> <td>48</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>52</td> <td>75</td> </tr> </tbody> </table> <p>※習熟度別学習を実施している2～6年生の「100%マスターテスト」の平均得点の伸びを示している。</p>	学年	1回目	2回目	2年生	67	90	3年生	60	78	4年生	40	58	5年生	45	72	6年生	48	75	全体	52	75
学年	1回目	2回目																				
2年生	67	90																				
3年生	60	78																				
4年生	40	58																				
5年生	45	72																				
6年生	48	75																				
全体	52	75																				

# 個の学びの状況に応じた習熟度別少人数授業等を取り入れた授業実践

D 市立 D 中学校 (筑豊地区)

○同一集団の推移 (H29 (小5) ~R3 (中3))

※標準化得点及び四分位層の割合は、指定都市を除く福岡県全体の結果をもとに算出。



## 1 取組の概要

校内全体の学力向上に向けた、「C層、D層に視点をあてた習熟度別学習」と「学びの状況を見取る振り返り活動」の組織的な推進

## 2 取組の進め方

取組方法について	取組に活用した資料等																																							
<p><b>P (計画段階)</b></p> <p>管理職の指導のもと、教務担当と指導方法工夫改善担当教員 (以降、指改担当) が中心となり、習熟度別学習等の年間計画を作成した。</p> <p><b>[方針の共通理解]</b></p> <p>校長が、教科部会において、実効性のある授業改善を図って組織的・計画的に実施するよう指示した。</p> <p><b>[実態を踏まえた学力向上プランの作成]</b></p> <p>教務担当が、学力分析結果を職員に周知するとともに、学力向上コーディネーター (以降、学力 Co.) と連携し、学力分析結果を基に<b>学力向上プランに習熟度別学習や生徒が毎日の授業を振り返る取組を位置付け、共通理解を図った。</b></p> <p><b>[習熟度別学習と振り返り活動の計画]</b></p> <p>指改担当が、国語科、数学科、理科の教科部会と協議し、<b>習熟度別学習の計画を作成した。</b></p> <p>学力 Co. が、生徒自身で補充内容を選んで家庭学習を行えるように、帰りの会に1日の各授業について<b>振り返る時間を設定するよう提案した。</b></p>	<p>・習熟度別学習の計画の一部 (数学科)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>単元名</th> <th>一次関数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th>内容</th> <th>形態等</th> </tr> <tr> <td>一次関数</td> <td rowspan="5">一斉授業 (対象学級の数学科担当で)</td> </tr> <tr> <td>一次関数の値の変化</td> </tr> <tr> <td>一次関数のグラフ</td> </tr> <tr> <td>一次関数の式</td> </tr> <tr> <td>方程式とグラフ</td> </tr> <tr> <td>連立方程式</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一次関数の利用①~③</td> <td colspan="2">習熟度別少人数授業 (数学科担当全員で)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>A (発展コース)</td> <td>B (通常コース)</td> <td>C (じっくりコース)</td> </tr> <tr> <td colspan="4">一次関数の利用での各コースの内容</td> </tr> <tr> <td></td> <td>A (発展コース)</td> <td>B (通常コース)</td> <td>C (じっくりコース)</td> </tr> <tr> <td>一次関数の利用①</td> <td>例題</td> <td>例題</td> <td>これまでの復習</td> </tr> <tr> <td>一次関数の利用②</td> <td>類似問題</td> <td>例題 (自分で)</td> <td>例題 (先生と)</td> </tr> <tr> <td>一次関数の利用③</td> <td>発展的な問題</td> <td>類似問題</td> <td>例題 (自分で)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※習熟度別少人数授業は、主につまずきやすい単元の終末等に位置付けた。単元のまとめ及び習熟を図る場面では、担当学年の枠を超えて教科担任全員が関わることを計画した。</p>	単元名	一次関数	内容	形態等	一次関数	一斉授業 (対象学級の数学科担当で)	一次関数の値の変化	一次関数のグラフ	一次関数の式	方程式とグラフ	連立方程式		一次関数の利用①~③	習熟度別少人数授業 (数学科担当全員で)			A (発展コース)	B (通常コース)	C (じっくりコース)	一次関数の利用での各コースの内容					A (発展コース)	B (通常コース)	C (じっくりコース)	一次関数の利用①	例題	例題	これまでの復習	一次関数の利用②	類似問題	例題 (自分で)	例題 (先生と)	一次関数の利用③	発展的な問題	類似問題	例題 (自分で)
単元名	一次関数																																							
内容	形態等																																							
一次関数	一斉授業 (対象学級の数学科担当で)																																							
一次関数の値の変化																																								
一次関数のグラフ																																								
一次関数の式																																								
方程式とグラフ																																								
連立方程式																																								
一次関数の利用①~③	習熟度別少人数授業 (数学科担当全員で)																																							
	A (発展コース)	B (通常コース)	C (じっくりコース)																																					
一次関数の利用での各コースの内容																																								
	A (発展コース)	B (通常コース)	C (じっくりコース)																																					
一次関数の利用①	例題	例題	これまでの復習																																					
一次関数の利用②	類似問題	例題 (自分で)	例題 (先生と)																																					
一次関数の利用③	発展的な問題	類似問題	例題 (自分で)																																					
<p><b>D (実施段階)</b></p> <p>教務担当と指改担当、各教科部会が、計画に則って習熟度別学習を実施した。</p> <p><b>[C層、D層の生徒の明確化]</b></p> <p>教務担当と指改担当が、管理職の指導助言を受け、学力分析結果をもとに、<b>C層、D層の生徒を明確にし、各教科担当と共有の上、分割コース設定等の計画を行った。</b></p>	<p>・習熟度別学習の確認資料の一部</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">1年生分割授業について</th> </tr> <tr> <th>A (発展コース)</th> <th>B (通常コース)</th> <th>C (じっくりコース)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>活用問題も多く取り入れ、自力解決を中心として学習を進める。</td> <td>習熟を図る学習活動や問題解決的な学習を行う場をこれまで通り行う。</td> <td>教師と対面で一緒に学習したり、生徒同士で教え合ったりする。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※習熟度別少人数学習を行うことで、各コースとも一人一人の学習状況を把握しやすくし、個別対応を充実させる。</p>	1年生分割授業について			A (発展コース)	B (通常コース)	C (じっくりコース)	活用問題も多く取り入れ、自力解決を中心として学習を進める。	習熟を図る学習活動や問題解決的な学習を行う場をこれまで通り行う。	教師と対面で一緒に学習したり、生徒同士で教え合ったりする。																														
1年生分割授業について																																								
A (発展コース)	B (通常コース)	C (じっくりコース)																																						
活用問題も多く取り入れ、自力解決を中心として学習を進める。	習熟を図る学習活動や問題解決的な学習を行う場をこれまで通り行う。	教師と対面で一緒に学習したり、生徒同士で教え合ったりする。																																						

**[生徒の割り振り]**  
指改担当が、名簿を作成し、**習熟度別学習の目的や方法等に関するガイダンス**を行った。

**[実施方法の決定]**  
教務担当が、習熟度別学習を行う教科担任全員が授業に入れるように時間割を調整した。

**[進捗状況の確認]**  
習熟度別指導を行った教師同士が、**授業後すぐに進捗状況の共有**と課題の難易度に対する生徒の反応等の情報交換を行った。**管理職が、授業訪問**をし、全体的な状況を教科担任と共有した。

**[振り返り活動の実施]**  
教務担当と学力 Co. が、帰りの会前の10分間を「振り返りの時間」に設定し、全校で日常的に実施した。学級担任等が、**各生徒の振り返りと自学ノートへの反映を見取り、継続的に指導**した。

・習熟度別学習（Cコース）の授業の様子



・前頁計画「一次関数の利用①」におけるCコースの復習学習課題の一部

1 次の直線の傾きと切片をそれぞれ答えなさい。 (1) $y = 2x - 3$	2 次の直線や一次関数の式を求めなさい。 (1) 傾きが4で、切片が8である (2) $x$ の増加量が2のとき $y$ の増加量が-1で点(0,1)を通る (3) 変化の割合が-3で、 $x = 2$ のとき $y = -1$ である (4) $y = -\frac{2}{3}x + 2$ と $y$ 軸上で交わり、点(2,4)を通る (5) グラフが $y = 3x + 1$ と平行で、点(4,5)を通る
(2) $y = -x - 6$	
(3) $y = -\frac{2}{3}x$	

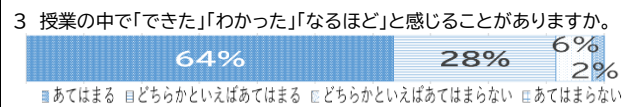
**C（評価段階）**  
教務担当と指改担当が、各種学力調査等をもとに、習熟度別学習等の取組を評価した。

**[評価方法]**  
教務担当と学力 Co. が、学期末に授業アンケート（全生徒、全教科対象）を実施したり、**定期考査や実力テストの結果を分析**したりした。それをもとに、管理職から指導助言を受け、学力向上策の実施状況や改善策、**C層、D層の学習状況等について検討**し、共通理解を図った。

学力 Co. が、学期末に「振り返りの時間」のアンケート（全生徒、全教科）を実施し、職員研修で全職員に集計結果を周知し共通理解を図った。

・生徒に対する授業アンケート項目と達成感に関する「項目3」の結果

1	1時間の「めあて」や「学習課題」が示されていますか。
2	授業では1時間の学習の流れをつかんだり、見通しをもったりして受けることができますか。
3	授業の中で「できた」「わかった」「なるほど」と感じることがありますか。
4	授業に話し合いの場面はありますか。
5	授業の中で、自分の思いや考えをみんな（活動のグループや学級の仲間）に言葉で伝えることができますか。
6	話し合い活動をすることで、話し合う前より自分の考えが深まりましたか。
7	板書や学習プリントは分かりやすいですか。
8	授業の終わりに、「まとめ」や「振り返りの時間」がありますか。（発表、記述、まとめのテスト等）
9	授業での学びが将来の自分に役に立つと思いますか。



**A（改善段階）**  
教務担当と指改担当が、各種調査等をもとに、習熟度別学習等を改善、修正した。

**[計画の見直し]**  
学力 Co. と指改担当が、学力向上プランに照らしながら、**教科部会と協議し、習熟度別学習の重点単元等を見直し**した。

・学力向上プランの視点3（取組指標）

IV-1-1(1) D市立D中学校 学力向上プラン

**【学力基盤づくり】**

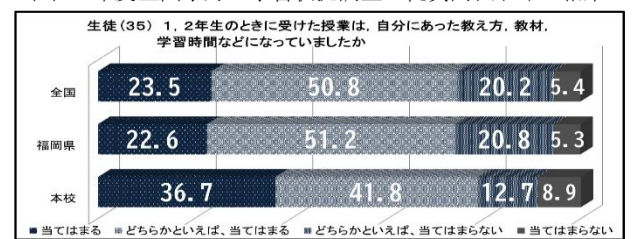
①学力下位層に視点をあてた習熟度別少人数学習を実施(全学年実施:随時重点単元を見直す)  
 ①学力下位層に対する手立てを含めた毎日の振り返り学習時間の設定(全学年実施:通年)  
 ⑤主体的に家庭学習を行うための自学ノート取組方法の徹底(全学年実施:通年)

【取組(指標)】 ①学力下位層に視点をあてた習熟度別少人数学習を実施(全学年実施:随時重点単元を見直す)  
 ①学力下位層に対する手立てを含めた毎日の振り返り学習時間の設定(全学年実施:通年)  
 ⑤主体的に家庭学習を行うための自学ノート取組方法の徹底(全学年実施:通年)

### 3 取組の振り返り

**内容**  
校長の方針のもと、教務担当や指改担当が中心となり、組織的に取り組むことができた。  
「生徒質問紙(35)」の結果から、全国及び県と比較して、**肯定的な回答をしている生徒の割合が高く、習熟度別学習の取組の効果があつたと考えられる**。今後もC層、D層の実態に応じた取組を推進していくことが必要である。

**グラフ等**  
・令和3年度全国学力・学習状況調査生徒質問紙(35)の結果

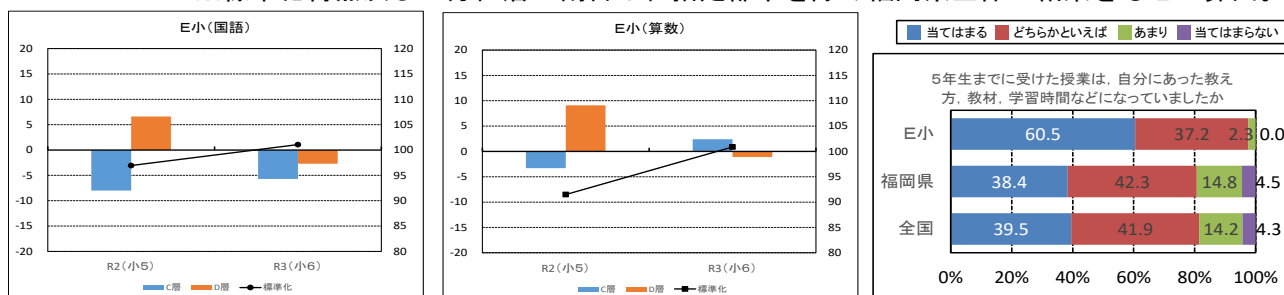


# 学力層（C・D層）に焦点を当てた取組

E 市立 E 小学校（南筑後地区）

○同一集団の推移（R2（小5）～R3（小6））と児童質問紙の結果（R3）

※標準化得点及び四分位層の割合は、指定都市を除く福岡県全体の結果をもとに算出。



## 1 取組の概要

学校の重点目標の達成に向けて、表現する力と伝え合う力を育むために、「書く」⇒「話す・聞く」⇒「書く」活動を取り入れた授業や、それぞれの学力層に対応した習熟度別学習の取組を行った。

## 2 取組の進め方

取組方法について	取組に活用した資料等														
<p><b>P（計画段階）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「国語科」と「算数科」を重点教科とし、一部の内容項目で重点配当した。主幹教諭が担任に重点単元と配時を設定するよう指示した。</li> <li>教頭が学力向上の取組や分析の準備・実施・評価・改善の計画を学力向上推進チーム（Head部会）で策定するよう指示し、全職員に周知し、共通理解を図った。</li> </ul>	<p>3 H部会の組織図（一部）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3 H部会とは、                     <ul style="list-style-type: none"> <li>Head 部会：知育（確かな学力）、</li> <li>Heart 部会：徳育（豊かな心）、</li> <li>Health 部会：体育（豊かな体）である。</li> </ul> </li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>知育</b> 自分の考えをつくり、理由や根拠をもとに表現できる子供</p> <p><b>Head部会</b> ・学力向上・主題研究・一般研修</p> <p><b>算数部会</b> 生活・総合部会</p> <p><b>環境部会</b> 評価部会 学力向上部会</p> </div>														
<p><b>D（実施段階）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究主任が、各教科の学習過程に応じて「書く活動①（考えを持つ）」→「話す・聞く活動（伝え合う）」→「書く活動②（捉え直す）」を位置付けることを提案し、共通実践した。</li> <li>管理職が、教員の指導力向上を図るために、同学年及び教科部会（算数、生活、総合）において模擬授業を通して教材研究や授業構想、指導法などを共通理解した上で、互いに授業を参観し合うよう指示した。</li> <li>Head 部会が、ノート名人（書く）や音読名人（読む）などの「表現〇〇めいじん」を選出し、各学年の掲示板で全校児童に知らせた。</li> <li>5校時始業前の基礎タイム（毎週4回、10分）において、基礎・基本を確実に身に付ける繰り返し学習と思考力・表現力を身に付ける学習を設定した。</li> <li>学級担任が、市販テストや学力調査の結果をもとに、児童がA層からD層までの学力層のいずれに属するかを把握した。</li> <li>毎週金曜日6校時に「拡大版基礎タイム」</li> </ul>	<p>・Head 部会が作成した「書く」「話す・聞く」活動における表現モデル</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> </div> <p>・「書く」「話す・聞く」活動を取り入れた指導</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>学習活動</th> <th>教師の支援</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 既習学習を想起し、本時学習のめあてをつかむ。</td> <td>見方・考え方を働かせる「書く」活動（★） 「話す・聞く」活動（◆）</td> </tr> <tr> <td>2 既習を想起しながら、解決の見通しを持つ。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3 見通しをもとに、自力解決する。【書く①】</td> <td>★ ～するために～のと同じように数直線図を使って考えさせる。</td> </tr> <tr> <td>4 自力解決した内容を説明し合い、単位量あたりの大きさについてまとめる。【話す・聞く】</td> <td>◆ ～するために、数直線図を指し示しながら、式とつなげて説明させる。</td> </tr> <tr> <td>5 適用問題を解き、本時学習を振り返る。 ○ 適用問題を解く。【書く②】 690÷5=138 360÷3=120 A 5冊で690円のノートの方が高い。</td> <td>★ 数直線図を書いたヒントカードを使い、1冊あたりの値段が高い方を求めるために、ノートの冊数と代金を使って、比べさせる。</td> </tr> <tr> <td>○ 学んだことや分かったことを自分の言葉で振り返り、まとめる。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	学習活動	教師の支援	1 既習学習を想起し、本時学習のめあてをつかむ。	見方・考え方を働かせる「書く」活動（★） 「話す・聞く」活動（◆）	2 既習を想起しながら、解決の見通しを持つ。		3 見通しをもとに、自力解決する。【書く①】	★ ～するために～のと同じように数直線図を使って考えさせる。	4 自力解決した内容を説明し合い、単位量あたりの大きさについてまとめる。【話す・聞く】	◆ ～するために、数直線図を指し示しながら、式とつなげて説明させる。	5 適用問題を解き、本時学習を振り返る。 ○ 適用問題を解く。【書く②】 690÷5=138 360÷3=120 A 5冊で690円のノートの方が高い。	★ 数直線図を書いたヒントカードを使い、1冊あたりの値段が高い方を求めるために、ノートの冊数と代金を使って、比べさせる。	○ 学んだことや分かったことを自分の言葉で振り返り、まとめる。	
学習活動	教師の支援														
1 既習学習を想起し、本時学習のめあてをつかむ。	見方・考え方を働かせる「書く」活動（★） 「話す・聞く」活動（◆）														
2 既習を想起しながら、解決の見通しを持つ。															
3 見通しをもとに、自力解決する。【書く①】	★ ～するために～のと同じように数直線図を使って考えさせる。														
4 自力解決した内容を説明し合い、単位量あたりの大きさについてまとめる。【話す・聞く】	◆ ～するために、数直線図を指し示しながら、式とつなげて説明させる。														
5 適用問題を解き、本時学習を振り返る。 ○ 適用問題を解く。【書く②】 690÷5=138 360÷3=120 A 5冊で690円のノートの方が高い。	★ 数直線図を書いたヒントカードを使い、1冊あたりの値段が高い方を求めるために、ノートの冊数と代金を使って、比べさせる。														
○ 学んだことや分かったことを自分の言葉で振り返り、まとめる。															

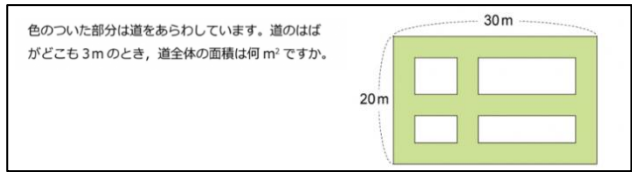
(4・5・6年生)を設定した。A層からD層までの4つの習熟度別グループに分けて、児童の実態に応じた学習内容・学習方法による指導を行った(下表参照)。その際、校長と教頭がD層を担当した。なお、使用する問題は学校で作成した学習プリントを活用した。

A層	自力解決を主体とする
B層	自力解決後に解説を行う
C層	解説しながら自力解決をする
D層	解説しながら一緒に解決する

・中学校の定期テストに合わせて、家庭学習強調週間を設定し、家庭学習の定着を図った。

・学校で作成した学習プリント

対象：A層、B層



対象：C層、D層

① 次の(1)、(2)の問いに答えましょう。  
 (1)左の図形の①②の長さを求めましょう。  
 ①  ②   
 (2)左の図形の面積を求めましょう。  
 式   
 答え

C (評価段階)

- ・全国学力・学習状況調査や福岡県学力調査、チャレンジテスト、TK式標準学力検査(全学年実施：2月)の各調査について、教員による自校採点や主幹教諭と学力向上コーディネーターを中心に結果の分析と課題の洗い出しをするよう、教頭が指示した。
- ・学級担任は授業チェックリストを活用し、毎学期1回以上、授業の自己評価を行い、授業づくりについて管理職が指導・助言した。
- ・家庭学習強調週間に「ふり回りカード」を活用し、児童の学習に対する自己調整力を伸ばすことができるようにするとともに、保護者からもコメントを記入してもらい家庭学習定着に対する啓発を促した。

・家庭学習強調週間「ふり回りカード」

家庭学習振り返りカード

※お家の人といっしょにかきましょう。毎日担任の先生に出しましょう。

日づけ	宿題	1 テレビをけして机を整理して勉強をほしましたか?	2 60分以上集中して勉強ができましたか?	3 自主学習に取り組みましたか?	お家の人のサイン	担任の先生のサイン
11月15日(月)	社会：東ア 社会新聞	○	○	○		
16日(火)	漢字：算7	○	○	○		
17日(水)	漢字：算7	○	○	○		
18日(木)	漢字：算7	○	○	○		
19日(金)	漢字：算7	○	○	○		
20日(土)	漢字：算7	○	○	○		
21日(日)	漢字：算7	○	○	○		

◎の数の合計 7 個 7 個 7 個

ふり回り 10月1日... 頑張る！

お家の人からの一言 継続は力なりです。日々コツコツ頑張ってください。

A (改善段階)

- ・主幹教諭が、前学期の市販テストの結果をもとに、次学期の数値目標を設定するよう、担任に指示した。
- ・各調査の分析をもとに、「書く①」「話す・聞く」「書く②」の課題を出し合い、改善ポイントを明らかにした。ポイントは「文章を読む習慣づくり」「文章を読み返す」「適切に表現する」「設定された条件のもとで書く」であり、全職員で実践していくことを確認した。

・次学期の目標設定

1学期	単元テスト	平均点	めざす2学期平均点
算数	知識・技能	83	85
	思考・判断・表現	70	75

CD層は何人いますか？ (D:0~50, C:51~70, B:71~90, A:91~100)

層	人数	名前
C層	2人	
D層	4人	

1学期の授業を振り返って

課題 思考・判断・表現が弱く、自分の考えを持っていない児童がいる  
問違えた問題のやり直しに意識の差がある  
友達の見解を聞いたときの反応や問い返しが少ない

2学期に向けて(CD層を減らすための取組)

改善策 児童の学力に応じた適用問題を用意する  
やり直しを必ず行わせ、提出させる  
自分の考えをノートに書かせ、友達との考えと違うところがあれば青で記入させる

3 取組の振り返り

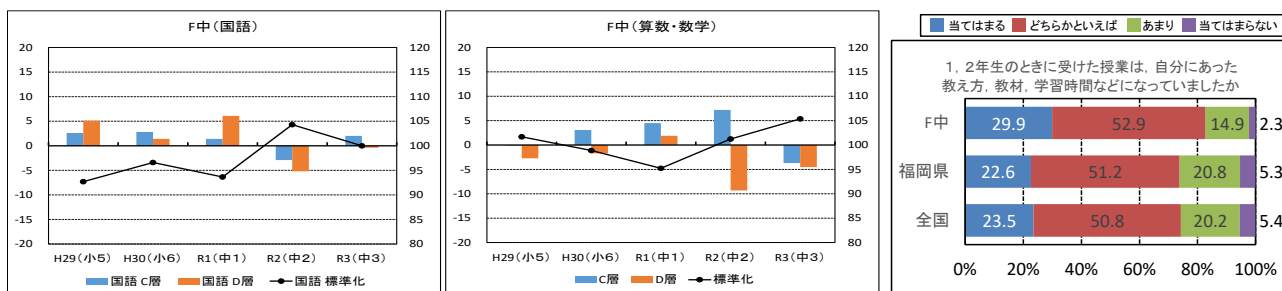
内容	グラフ等								
児童一人一人の学力を4つの学力層に分けたことで、授業での指導の個別化への支援を考えた。また、「拡大版基礎タイム」でも学力に応じて細やかに指導したりすることができた。学力低位層においては学習意欲が向上し、学力上位層においてはさらに自力解決過程を明確にしながら問題解決する姿が見られた。教員の授業改善に対する姿勢が能動的になった。	<p>・1学期の児童質問紙の結果(4件法)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>質問</th> <th>児童平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>③問いや課題に対し、根拠を基に理由をつけながら、絵や図、文章などで自分の考えを書く。</td> <td>3.44</td> </tr> <tr> <td>④絵や図、文章などを使ってまとめた自分の考えを他者にわかりやすく伝える。</td> <td>3.44</td> </tr> <tr> <td>⑤最後まで諦めずに課題に取り組むことができる。</td> <td>3.48</td> </tr> </tbody> </table>	質問	児童平均	③問いや課題に対し、根拠を基に理由をつけながら、絵や図、文章などで自分の考えを書く。	3.44	④絵や図、文章などを使ってまとめた自分の考えを他者にわかりやすく伝える。	3.44	⑤最後まで諦めずに課題に取り組むことができる。	3.48
質問	児童平均								
③問いや課題に対し、根拠を基に理由をつけながら、絵や図、文章などで自分の考えを書く。	3.44								
④絵や図、文章などを使ってまとめた自分の考えを他者にわかりやすく伝える。	3.44								
⑤最後まで諦めずに課題に取り組むことができる。	3.48								

# 学力層（C・D層）に焦点を当てた取組

F 町立 F 中学校（京築地区）

○同一集団の推移（H29（小5）～R3（中3））と生徒質問紙の結果（R3）

※標準化得点及び四分位層の割合は、指定都市を除く福岡県全体の結果をもとに算出。



## 1 取組の概要

個別支援の視点を共有した上で、授業内外での取組を行っている。具体的には、主題研究として取り組んできた「UDL (Universal Design for Learning) によるわかる授業づくり」を継続し、「学び方チェックリスト」等を活用して、全ての生徒の「得意な学び方」を把握したり、授業における生徒の振り返りを活用したりした上で、○中授業スタンダードを徹底し、わかる授業づくり及び生徒が安心して取り組める教え合いや個別支援、補充学習、家庭学習の充実につなげている。

## 2 取組の進め方

取組方法について	取組に活用した資料等																																																																																								
<p><b>P（計画段階）</b></p> <p>管理職は、授業改善のための校内研究推進体制を整備する。研究の構想及び計画について、ミドルリーダーへ指導する。</p> <p>教務担当（学力向上コーディネーター兼務）は、管理職や研究主任と、研究の構想【資料1】及び計画を検討する。</p> <p>研究主任は、教務担当等と校内研修を実施し、「UDLによるわかる授業づくり」について、全職員と共通理解を図る。「得意な学び方チェックリスト」結果データを職員に提供し、CD層の生徒の個別指導について、友達との教え合いや教員による指導が有効かを確認できるようにする【資料2】。</p> <p>教科担当は、生徒個別の「得意な学び方」について、学力層と併せて把握する。また、各学級における支援として、視覚優位の生徒に対応できるICTの活用（写真や動画で見本を投影、動画で自分の動きを撮影等）や、個に応じた手立て（習熟度別プリント、日常生活を関連付けて考えさせる等【資料3】）等を検討する。</p>	<p>思考力・判断力・表現力等を育成する学習指導のあり方 ～身につけさせたい力を明確にした問題の活用を通して～</p> <p><b>学習過程の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①○中授業スタンダードの徹底・根拠を明確にした「書く活動」の位置づけ</li> <li>②UDLによるわかる授業づくり・学び方チェックリストの活用・ICTの有効活用</li> </ul> <p><b>調査問題等の活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「Ⅰ型」調査問題等を、導入・展開場面において、自分の考えを深める問題として活用する</li> <li>「Ⅱ型」調査問題等を、まとめ場面において、評価問題として活用する</li> <li>「Ⅲ型」調査問題等を、単元末や定期考査等において、単元評価問題として活用する</li> </ul> <p>生徒の実態</p> <p>【資料1「UDLによるわかる授業づくり」を位置付けた研究構想図】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">2年 得意な学び方チェックリスト</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>Aさん</td> <td>Bさん</td> <td>Cさん</td> <td>Dさん</td> <td>Eさん</td> </tr> <tr> <td></td> <td>【国語】令和元年度 福岡県学力調査 学力層（四分位）</td> <td>D</td> <td>C</td> <td>D</td> <td>C</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td></td> <td>【数学】令和元年度 福岡県学力調査 学力層（四分位）</td> <td>D</td> <td>B</td> <td>D</td> <td>C</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>ア</td> <td>先生の説明を聞く</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td></td> <td>生徒（発表者や友達、班の仲間）の説明を聞く</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td></td> <td>声に出して読む</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>エ</td> <td>班やグループで学び合う</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1対1で先生からおしえてもらう</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1対1で生徒（友達や班の仲間）から教えてもらう</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td></td> <td>好きなことと関連付ける</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>【資料2「得意な学び方チェックリスト」抜粋】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th colspan="2">手立て</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">努力や頑張りを継続させるためのオプション</td> <td>習熟度別学習プリント</td> <td>ヒントの提示</td> </tr> <tr> <td>班活動での話し合い</td> <td>仲間意識も向上させるような小集団での協働を仕組む</td> </tr> <tr> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> </tr> </tbody> </table> <p>【資料3「個に応じた手立て」抜粋】</p>	2年 得意な学び方チェックリスト		1	2	3	4	5			Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん		【国語】令和元年度 福岡県学力調査 学力層（四分位）	D	C	D	C	B		【数学】令和元年度 福岡県学力調査 学力層（四分位）	D	B	D	C	C	ア	先生の説明を聞く	◎	◎	◎	◎	◎		生徒（発表者や友達、班の仲間）の説明を聞く	○	○	○	○	○		声に出して読む	◎	◎	◎	◎	◎	エ	班やグループで学び合う	○	◎	◎	◎	◎		1対1で先生からおしえてもらう	○	○	○	○	○		1対1で生徒（友達や班の仲間）から教えてもらう	◎	◎	◎	◎	◎		好きなことと関連付ける	○	○	○	○	○	オプション	手立て		努力や頑張りを継続させるためのオプション	習熟度別学習プリント	ヒントの提示	班活動での話し合い	仲間意識も向上させるような小集団での協働を仕組む	...	...	...
2年 得意な学び方チェックリスト		1	2	3	4	5																																																																																			
		Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん																																																																																			
	【国語】令和元年度 福岡県学力調査 学力層（四分位）	D	C	D	C	B																																																																																			
	【数学】令和元年度 福岡県学力調査 学力層（四分位）	D	B	D	C	C																																																																																			
ア	先生の説明を聞く	◎	◎	◎	◎	◎																																																																																			
	生徒（発表者や友達、班の仲間）の説明を聞く	○	○	○	○	○																																																																																			
	声に出して読む	◎	◎	◎	◎	◎																																																																																			
エ	班やグループで学び合う	○	◎	◎	◎	◎																																																																																			
	1対1で先生からおしえてもらう	○	○	○	○	○																																																																																			
	1対1で生徒（友達や班の仲間）から教えてもらう	◎	◎	◎	◎	◎																																																																																			
	好きなことと関連付ける	○	○	○	○	○																																																																																			
オプション	手立て																																																																																								
努力や頑張りを継続させるためのオプション	習熟度別学習プリント	ヒントの提示																																																																																							
	班活動での話し合い	仲間意識も向上させるような小集団での協働を仕組む																																																																																							
...	...	...																																																																																							
<p><b>D（実施段階）</b></p> <p>管理職、教務担当は、日常的な授業参観及び価値付け、指導助言をする。</p>																																																																																									



研究主任は、公開授業、協議を伴う校内研修を実施する。

各教科担当は、**前時授業の「振り返り」を生かした導入段階での工夫**などの○中授業スタンダードや、計画段階で検討した支援を実践する。**CD層への個別支援**としては、習熟度別のワークシート【資料4】を作成し、生徒が**自分の理解度に応じて学習**できるようにする。

学級担任及び学年所属職員は、学年ごとに補充学習及び確認テストを実施する。再テストの際は、**習熟度別の問題やタブレットドリル等**を活用することで、**全員が合格できるまで粘り強く指導**する。さらに、学級ごとに自主学習（1日1ページの家庭学習）を点検し、不十分な生徒には、昼休みに学年所属職員で指導する。

**2. 日本語に合うように、英文を書きなさい。**

(1) 彼は何度も柔道を練習したことがあります。

① He ( practiced / has ) judo many times.

He \_\_\_\_\_ judo many times.

(2) あなたは今までに沖縄（Okinawa）に行ったことがありますか。

① Have you ( ever / been ) to Okinawa?

Have you \_\_\_\_\_ to Okinawa?

**2. 日本語に合うように、英文を書きなさい。**

(1) 彼は何度も柔道を練習したことがあります。

①

He \_\_\_\_\_ judo many times.

(2) あなたは今までに沖縄（Okinawa）に行ったことがありますか。

①

Have you \_\_\_\_\_ to Okinawa?

【資料4 外国語（英語）科習熟度別ワークシート（抜粋）】

**C（評価段階）**

管理職、教務担当は、**生徒及び教師授業評価アンケート**を実施する。**結果を分析**して取組を評価し、全職員と共有する【資料5】。

教科担当は、授業内外の取組について検証するために、**定期考査の思考・判断・表現を問う問題の結果分析**（正答率、無解答率、誤答分析）を行う。その際、CD層支援の取組の成果や課題についても個別に検証する。

項目	R 2（平均）	R 3（1学期）
1 「おもしろそうだ」「やってみよう」「なぜだろう」と思うことが多かった。	3.08	3.29
2 授業でやること（めあて）がわかった。	3.34	3.63
3 考えたり、話し合ったりしたことを書く活動や時間があった。	3.10	3.40
4 考えたり、話し合ったりするためのヒント（資料など）があった。	3.08	3.48
5 努力すれば何とか答えられたり、できたりするヒント（資料や道具など）があった。	3.11	3.52
6 授業の最後に学んだこと（わかったこと、できたこと）を自分で確かめる活動（書く、発表する）があった。	2.78	3.26
7 「なるほど」「わかった」「できた」と思うことが多かった。	3.16	3.43

【資料5 生徒授業評価アンケート結果】

**A（改善段階）**

管理職、教務担当、学級担任（学年所属職員）は、生徒個別の「得意な学び方」を再確認するとともに、**個に応じた手立ての成果（有効な手立て）**【資料6】、課題を共有し、今後の方向性を検討する。

※生徒アンケート項目「印象に残った学習内容」の記述内容からみた有効な手立て

- ・班活動での話し合い（努力や頑張りを継続させるためのオプション）
- ・自分の考えを絵で表す（表出やコミュニケーションに関するオプション）
- ・プロジェクターや動画の活用（知覚するためのオプション）
- ・ヒントの提示（努力や頑張りを継続させるためのオプション）
- ・重要語句を色分けする（知覚するためのオプション）
- ・習熟度別学習プリント（努力や頑張りを継続させるためのオプション）
- ・日常生活と関連させて考える（理解のためのオプション）

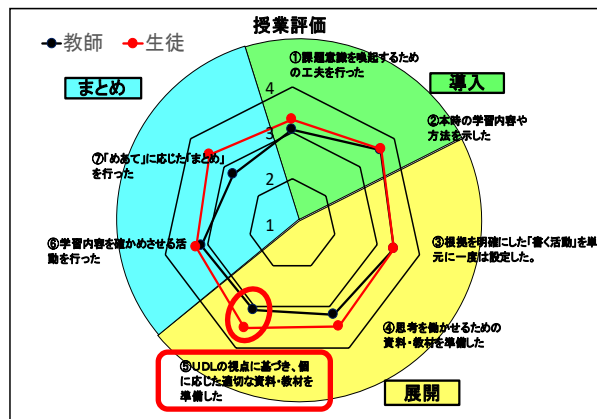
【資料6 改善段階で共有した「有効な手立て」】

**3 取組の振り返り**

「UDLによるわかる授業づくり」を基盤として、主題研究、学力向上に取り組むことで、各教科担当によるCD層に対する個別支援と、学年ごとの補充学習、家庭学習が徹底されるようになった。そのことが、**生徒の粘り強く学習に取り組む態度につながっている**。また、評価段階の確実な実施により、授業づくりの成果や課題を明確にすることができ、「UDLによるわかる授業づくり」が**日常的な取組として徹底**されるようになった。【資料7】

**内容**

**グラフ等**



【資料7 教師及び生徒による授業評価結果】

## V 児童生徒質問紙に関する調査結果と分析

### ◇ 児童生徒質問紙調査の目的

小学校第6学年の児童及び中学校第3学年の生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する質問調査を行い、児童生徒の学習意欲や学習習慣の改善・充実のための教育活動や教育施策の改善を図る。

### ◇ 本報告書において分析の対象とした質問項目

ア 前回（令和元年度）報告書に掲載した質問項目のうち、「**肯定的な回答**」をして**いる方が、教科の「平均正答率が高い」傾向が見られる**主な質問項目

	視点	番号	カテゴリー	質問番号	質問項目	頁番号
				小・中		
1	学力基盤づくり	(1)	基本的な生活習慣	1	朝食を毎日食べていますか。	62
		(2)	自己有用感	6	自分には、よいところがあると思いますか。	62
		(3)	学習に対する関心・意欲・態度等	52	算数／数学の勉強は好きですか。	63
2	授業づくり	(1)	各教科の内容理解	54	算数／数学の授業の内容はよくわかりますか。	63
		(2)	課題解決に向けた取組	33	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	64
		(3)	自分の考えを深めたり広げたりすること	37	学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。	64
3	家庭・関係との連携	(1)	家庭学習	17	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。	65
				18	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師、インターネットの活用も含む）。	65
		(2)	地域・社会とのかかわり	25	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。	66

### イ 非認知的能力に係る主な質問項目

※ X資料では、「肯定的な回答」をしている方が教科の「平均正答率が高い」傾向が、小・中学校ともに見られる場合のみ、回答状況と教科の正答率のクロス分析の棒グラフを示す。

	視点	番号	カテゴリー	質問番号	質問項目	頁番号
				小・中		
1	学力基盤づくり	(1)	将来に関する意識	7	将来の夢や目標を持っていますか。	66
		(2)	規範意識	11	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	67
		(3)	達成感	8	自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。	67
		(4)	粘り強く学習に取り組む態度	57	算数／数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。	68

### ウ ICTの活用状況についての主な質問項目

※ X資料では、「肯定的な回答」をしている方が教科の「平均正答率が高い」傾向が、小・中学校ともに見られる場合のみ、回答状況と教科の正答率のクロス分析の棒グラフを示す。

	視点	番号	カテゴリー	質問番号	質問項目	頁番号
				小・中		
2	授業づくり	(1)	ICTを活用した学習状況	26	授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか。	68
				27	あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達／生徒と意見交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか。	69
				28	学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。	69

### ◇ 資料を読み取る際の留意点

質問紙に対する回答状況は、選択肢以外の回答や無回答を除外しているため、合計が100%にならない場合がある。なお、各質問項目の結果は、X資料を参照のこと。

## VI 学校質問紙に関する調査結果と分析

### ◇ 学校質問紙調査の目的

学校における指導内容、指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等を調査することにより、市町村教育委員会や学校の教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

### ◇ 本報告書において分析の対象とした質問項目

ア 前回（令和元年度）報告書に掲載した質問項目のうち、「肯定的な回答」をしている方が、教科の「平均正答率が高い」傾向が見られる主な質問項目

	視点	番号	カテゴリー	質問番号	質問項目	頁番号
				小・中		
1	学力基盤づくり	(1)	学習規律	7	授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか。	70
				10	前年度までに、学習規律(他の人が話をしている時はしっかりと聞く、授業開始のチャイムを守るなど)を維持しましたか。	70
2	授業づくり	(1)	教職員の取組	21	言語活動について、国語科だけではなく、各教科、特別の教科道徳、(外国語活動、)総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか。	71
3	教員の意識・指導力の向上	(1)	カリキュラム・マネジメント	19	児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。	71
4	家庭・関係機関との連携	(1)	家庭学習	86	前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか(教科共通)。	72

### イ 非認知的能力に係る主な質問項目

※ X資料では、「肯定的な回答」をしている方が教科の「平均正答率が高い」傾向が、小・中学校ともに見られる場合のみ、回答状況と教科の正答率のクロス分析の棒グラフを示す。

	視点	番号	カテゴリー	質問番号	質問項目	頁番号
				小・中		
1	学力基盤づくり	(1)	将来に関する意識	8	前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか。	72
		(2)	よい点や可能性の評価	11	前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行いましたか。	73

### ウ ICTの活用状況についての主な質問項目

※ X資料では、「肯定的な回答」をしている方が教科の「平均正答率が高い」傾向が、小・中学校ともに見られる場合のみ、回答状況と教科の正答率のクロス分析の棒グラフを示す。

	視点	番号	カテゴリー	質問番号	質問項目	頁番号
				小・中		
2	授業づくり	(1)	ICTを活用した学習状況	66	前年度に、教員が大型提示装置(プロジェクター、電子黒板など)などのICT機器を活用した授業を、1クラス当たり、どの程度行いましたか。	73
				67	教員は、学習履歴(スタディ・ログ)をはじめとした様々な教育データを、児童生徒の状況に応じた指導に活用していますか。	74

### ◇ 資料を読み取る際の留意点

特定の選択肢を回答した学校が少ない場合には、極端な傾向を示す場合がある。また、質問紙に対する回答状況は、選択肢以外の回答や無回答を除外しているため、合計が100%にならない場合がある。なお、各質問項目の結果は、X資料を参照のこと。

## Ⅶ 児童生徒質問紙と学校質問紙の調査結果の比較分析

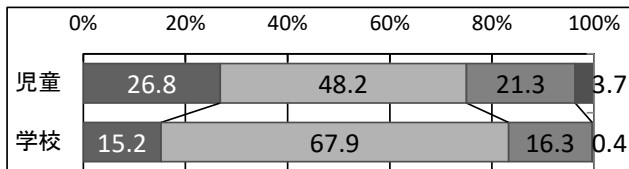
児童生徒質問紙と学校質問紙で共通の内容や関連する内容の質問について、本県における児童生徒の意識と教師の意識に差があることから、児童生徒と教師とで学習の目標を共有したり、教師の指導を児童生徒に浸透させる指導を工夫したりすることが求められる。

※ 表内の数字は、児童生徒質問紙及び学校質問紙中の質問番号（小・中共通）

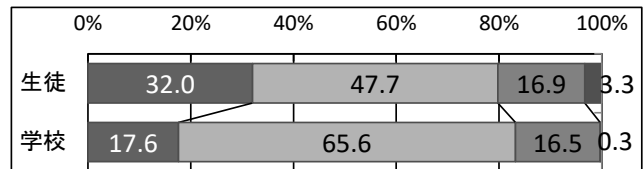
児童生徒質問紙	33	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。
学校質問紙	29	児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。

児童生徒質問紙	<input type="checkbox"/> 当てはまる <input type="checkbox"/> どちらかといえば <input type="checkbox"/> あまり <input type="checkbox"/> 全く
学校質問紙	<input type="checkbox"/> そう思う <input type="checkbox"/> どちらかといえば <input type="checkbox"/> あまり <input type="checkbox"/> そう思わない

### ■ 小学校



### ■ 中学校

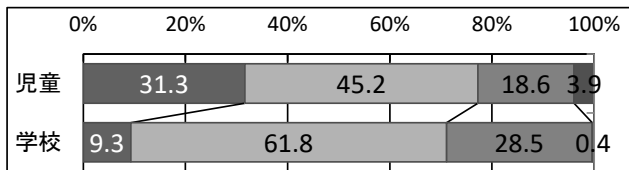


児童生徒質問紙	37	学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。
学校質問紙	32	児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。

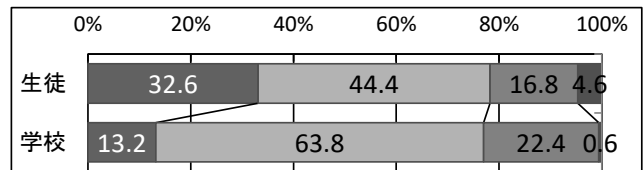
※児童生徒質問紙は、「話し合う活動を行っていない。」と回答した結果は除いているため、数値の合計が100%とならない。

児童生徒質問紙	<input type="checkbox"/> 当てはまる <input type="checkbox"/> どちらかといえば <input type="checkbox"/> あまり <input type="checkbox"/> 全く
学校質問紙	<input type="checkbox"/> そう思う <input type="checkbox"/> どちらかといえば <input type="checkbox"/> あまり <input type="checkbox"/> そう思わない

### ■ 小学校



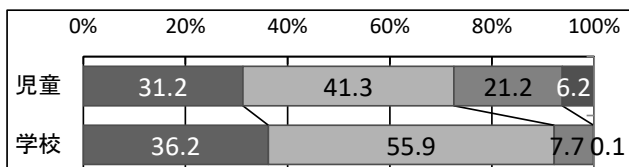
### ■ 中学校



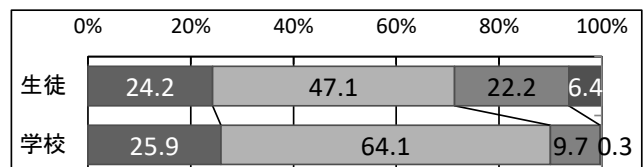
児童生徒質問紙	40	学級では、学級生活をよりよくするために学級会（学級活動）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。
学校質問紙	42	学級生活をよりよくするために、学級会（学級活動）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行っていますか。

児童生徒質問紙	<input type="checkbox"/> 当てはまる <input type="checkbox"/> どちらかといえば <input type="checkbox"/> あまり <input type="checkbox"/> 全く
学校質問紙	<input type="checkbox"/> よくしている <input type="checkbox"/> どちらかといえば <input type="checkbox"/> あまり <input type="checkbox"/> 全く

### ■ 小学校



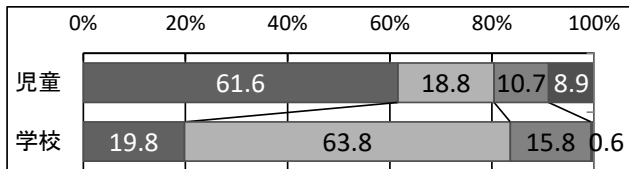
### ■ 中学校



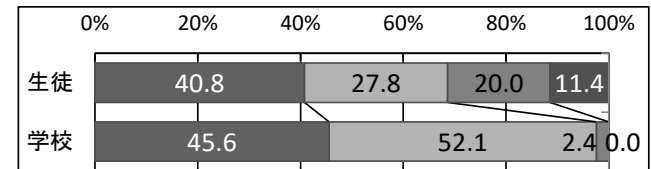
児童生徒 質問紙	7	将来の夢や目標を持っていますか。
学校質問紙	8	将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか。

児童生徒質問紙  当てはまる  どちらかといえば  あまり  全く  
 学校質問紙  よく行った  どちらかといえば  あまり  全く

■ 小学校



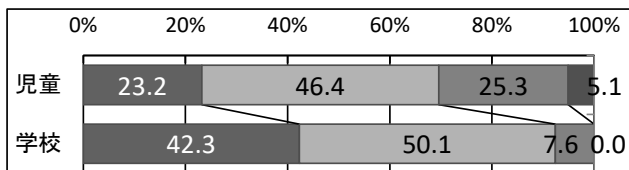
■ 中学校



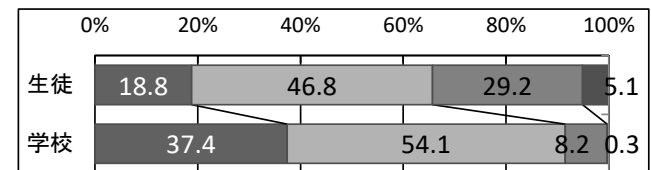
児童生徒 質問紙	9	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。
学校質問紙	9	学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか。

児童生徒質問紙  当てはまる  どちらかといえば  あまり  全く  
 学校質問紙  よく行った  どちらかといえば  あまり  全く

■ 小学校



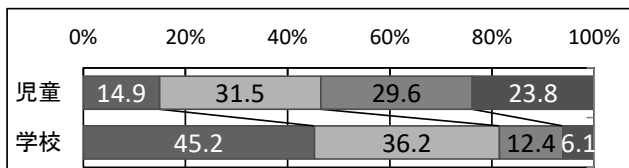
■ 中学校



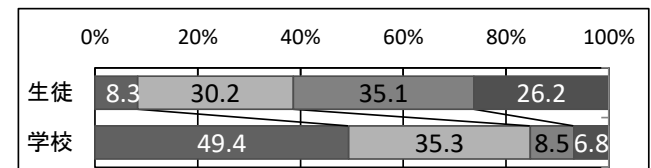
児童生徒 質問紙	26	授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか。
学校質問紙	66	教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICT機器を活用した授業を、1クラス当たり、どの程度行いましたか。

児童生徒質問紙  ほぼ毎日  週1回以上  月1回以上  月1回未満  
 学校質問紙  ほぼ毎日  週1回以上  月1回以上  月1回未満

■ 小学校



■ 中学校



## Ⅷ 小学校と中学校の質問紙回答状況を比較分析

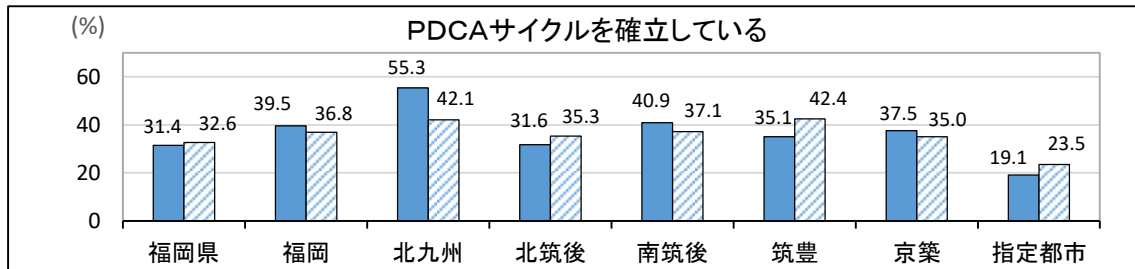
共通の質問について、本県における小・中学校の回答状況に違いがあり、「小・中9年間を通して児童生徒を育てる」という認識に立った取組の改善が求められる。

※棒グラフの値は「よくしている」など、「①」と回答した学校の割合

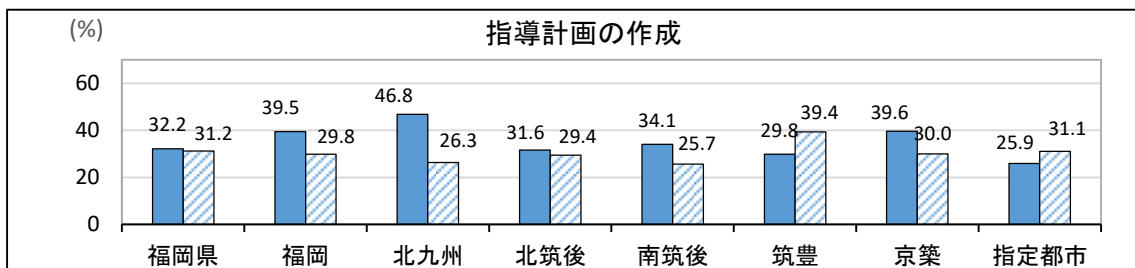
### (1) 学校質問紙



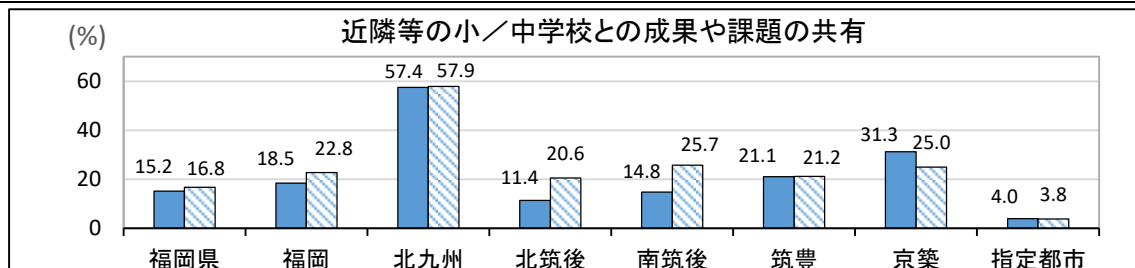
小 19	児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編
中 19	成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。



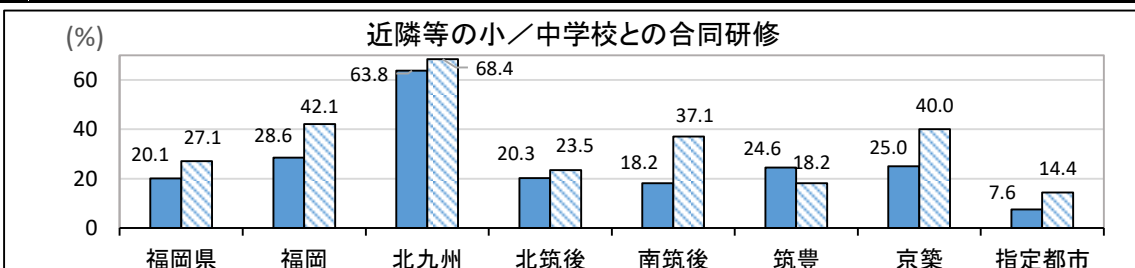
小 18	指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の
中 18	教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか。



小 79	平成 31 (令和元) 年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等
中 79	の小／中学校と成果や課題を共有しましたか。



小 78	前年度までに、近隣等の小／中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行
中 78	いましたか。



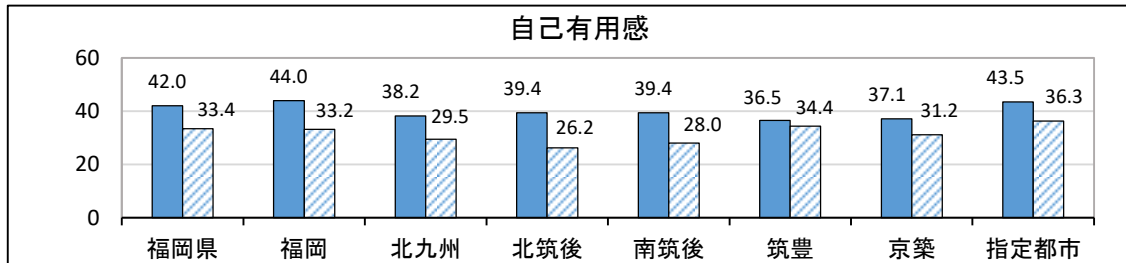
共通の質問について、本県における同一児童生徒集団（H30（小6）、R3（中3））の回答状況に違いがあり、児童生徒の意識が伸長するような指導の充実が求められる。

※質問番号は実施年度の番号。棒グラフの値は「そう思う」など、「①」と回答した児童生徒の割合

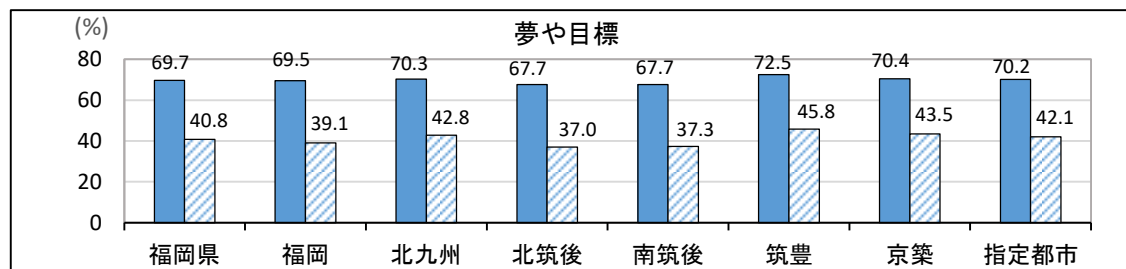
(2) 児童生徒質問紙

■ 小学校（H30）    ▨ 中学校（R3）

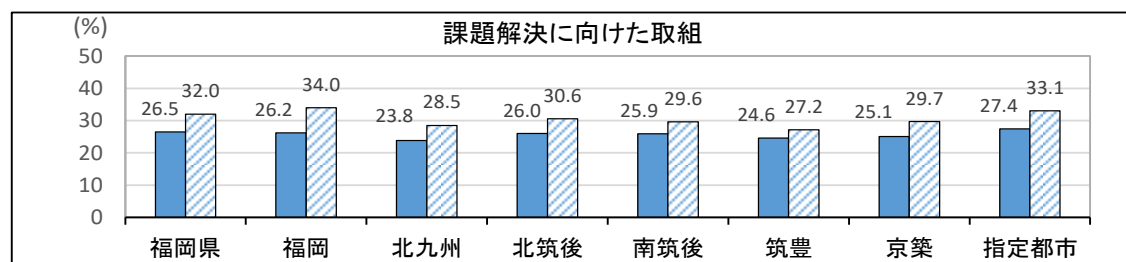
小1  
中6    自分には、よいところがあると思いますか。



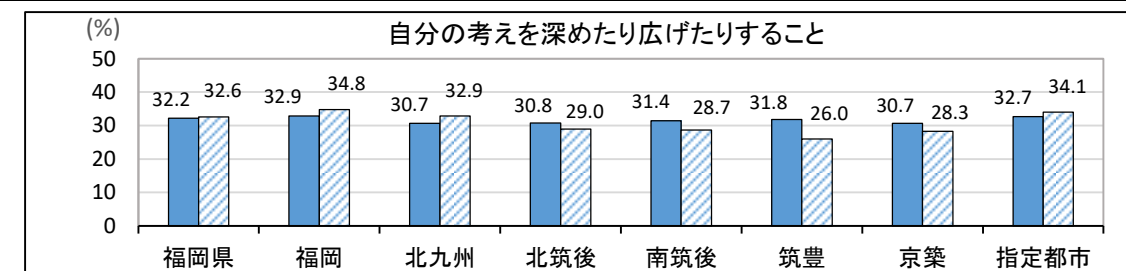
小3  
中7    将来の夢や目標を持っていますか。



小55  
中33    授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。



小57  
中37    学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。



# 令和3年度 福岡県学力調査

## Ⅹ 調査結果

### 1 調査の概要

#### (1) 調査の目的

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、県内各地域における児童生徒の学力の状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 各市町村（学校組合）教育委員会（指定都市を除く。）、学校が自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルの維持・向上を支援する。
- ③ 各学校が、児童生徒の学力の状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

#### (2) 調査の対象学年（指定都市を除く。）

- 公立の小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5学年、特別支援学校小学部第5学年
- 公立の中学校第1・2学年、義務教育学校後期課程第1・2学年、中等教育学校前期課程第1・2学年、特別支援学校中学部第1・2学年

※ 当該学年における当該教科の目標及び内容に準じて指導を受けている場合は、原則として調査の対象とする。

#### (3) 調査の教科

- 小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5学年、特別支援学校小学部第5学年  
国語、算数（1教科45分で実施）
- 中学校第1・2学年、義務教育学校後期課程第1・2学年、中等教育学校前期課程第1・2学年、特別支援学校中学部第1・2学年  
国語、数学（1教科50分で実施）

#### (4) 調査の内容

出題範囲は調査対象学年の前学年までの指導事項（中学校調査第1学年においては小学校までの指導事項）とし、出題内容はそれぞれの学年・教科に関し、主として「知識」に関する問題及び主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

#### (5) 調査日

令和3年6月15日（火）



## (6) 6月15日に調査を実施した県内公立学校・児童生徒数

### ○ 小学校

学年	学校数（校）		児童数（人）	
	国語	算数	国語	算数
第5学年	443	444	23、509	23、564

### ○ 中学校

学年	学校数（校）		生徒数（人）	
	国語	数学	国語	数学
第1学年	211	211	22、584	22、584
第2学年	209	209	21、919	21、932

※学校数は、分校を含む。

## (7) 調査問題の内容

### ○ 調査範囲等

- ・ 出題の範囲は、原則として当該学年の前学年までの指導事項とする。
- ・ 評価の観点として、小学校第5学年、中学校第1学年は、国語、算数・数学ともに「知識・技能」、「思考・判断・表現」に関わるものを出題する。中学校第2学年は、国語については、「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」に関わるものを出題し、数学については、「数量や図形などについての知識・理解」、「数学的な技能」、「数学的な見方や考え方」に関わるものを出題する。

### ○ 設問（解答）形式

「選択式」、「短答式」及び「記述式」の3形式とする。

\*選択式：選択肢から選ぶ（基本は4択）問題。

\*短答式：語句などを答える問題。グラフや図を描く問題も含む。

\*記述式：文で答える問題。考え方の筋道を図や式で答える問題も含む。

なお、形式ごとの問題数は下表のとおりである。

	小学校第5学年		中学校第1学年		中学校第2学年	
	国語	算数	国語	数学	国語	数学
選択式	7	4	7	3	13	3
短答式	8	11	8	12	3	12
記述式	3	4	3	4	4	4

## 2 調査結果の概要

### (1) 県全体及び地区別の平均正答率、最大・最小の差

	小学校第5学年						中学校第1学年						中学校第2学年						
	国語			算数			国語			数学			国語			数学			
	全体	知・技	思・判・表	全体	知・技	思・判・表	全体	知・技	思・判・表	全体	知・技	思・判・表	全体	知識	活用	全体	知識	活用	
県全体の平均正答率 (指定都市を除く)	57.3	68.9	45.8	58.8	74.4	44.9	69.1	75.0	61.7	52.2	68.6	37.6	55.1	57.1	53.7	52.1	65.0	40.5	
地区	福岡	58.7	69.7	47.8	60.8	75.6	47.5	71.5	77.0	64.6	54.3	69.8	40.2	58.0	60.5	56.4	55.3	68.0	43.9
	北九州	59.2	72.0	46.5	61.1	79.1	45.0	68.5	74.6	60.7	51.2	68.9	35.2	52.6	54.0	51.7	49.3	63.3	36.6
	北筑後	55.0	66.0	44.0	56.3	70.9	43.2	67.8	73.9	60.3	51.0	67.8	35.9	53.4	54.3	52.8	51.3	63.9	40.1
	南筑後	57.2	68.9	45.5	56.6	72.0	42.8	66.9	73.0	59.4	49.9	66.5	35.0	52.7	54.6	51.5	48.7	61.9	36.8
	筑豊	54.9	69.1	40.8	56.1	73.9	40.1	63.8	70.9	54.9	47.0	64.4	31.4	49.8	52.1	48.3	45.2	58.5	33.3
	京築	56.9	68.3	45.4	59.1	75.8	44.0	66.1	72.3	58.4	50.2	67.9	34.4	52.1	54.5	50.6	49.8	63.6	37.4
最大・最小の差	4.3	6.0	7.0	5.0	8.2	7.4	7.7	6.1	9.7	7.3	5.4	8.8	8.2	8.4	8.1	10.1	9.5	10.6	

### (2) 全体の状況

- 国語は、「全体」及び「知識・技能（小5、中1）、知識（中2）」ともに学年が上がるにつれて、地区間の差が大きくなっている。
- 算数・数学は、「全体」及び「思考・判断・表現（小5、中1）、活用（中2）」ともに学年が上がるにつれて、地区間の差が大きくなっている。
- 中学校第2学年数学の「活用」が地区間の差が最大となっている。

### (3) 小学校の状況

- 「全体」の地区間の差は、国語より算数の方が大きい。
- 「知識・技能」に関する問題についての地区間の差は、国語より算数の方が大きい。
- 「思考・判断・表現」に関する問題についての地区間の差は、国語より算数の方が大きい。
- 最も地区間の差が大きいのは、算数の「知識・技能」に関する問題である。

### (4) 中学校の状況

- 「全体」の地区間の差は、第1学年は国語が大きく、第2学年は数学が大きい。
- 「知識・技能（中1）、知識（中2）」についての地区間の差は、第1学年では、国語、第2学年では数学が大きい。
- 「思考・判断・表現（中1）、活用（中2）」についての地区間の差は、第1学年では国語が大きく、第2学年では数学が大きい。
- 最も地区間の差が大きいのは、第2学年数学の「活用」に関する問題である。

### (5) 地区別の標準化得点

- ※ 標準化得点は、県の平均正答数を100としたときの各地区の平均得点。
- ※ 網掛け部分は、開始年度の値と比較して、本年度の値が向上しているもの。
- ※ 中学校第1学年は、H29年度から実施のためH27、H28の標準化得点を示していない。
- ※ 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響等を踏まえ例年と異なる実施方法であったため、表には反映していない。

(福岡地区)

	小学校第5学年						中学校第1学年						中学校第2学年					
	国語			算数			国語			数学			国語			数学		
	全体	H27～R1基礎 R3知・技	H27～R1活用 R3思・判・表	全体	H27～R1基礎 R3知・技	H27～R1活用 R3思・判・表	全体	H29～R1基礎 R3知・技	H29～R1活用 R3思・判・表	全体	H29～R1基礎 R3知・技	H29～R1活用 R3思・判・表	全体	H27～R1基礎 R3知識	活用	全体	H27～R1基礎 R3知識	活用
H27	103.2	102.7	104.2	104.2	103.2	107.8	—	—	—	—	—	—	104.1	104.0	104.6	106.3	105.6	109.1
H28	103.6	102.5	106.9	103.6	103.3	104.5	—	—	—	—	—	—	103.4	103.1	104.0	105.7	106.0	104.5
H29	103.1	101.9	107.6	103.2	102.4	105.8	102.5	102.0	104.1	102.7	102.5	103.3	103.2	102.7	104.7	105.5	105.3	105.8
H30	103.9	102.4	110.0	103.4	101.8	105.0	103.8	103.2	105.3	102.7	102.6	106.5	104.1	104.3	103.4	107.1	107.3	106.7
R1	104.2	103.7	105.3	104.2	103.8	105.4	104.0	103.4	105.1	103.4	102.7	105.7	104.3	103.7	103.0	106.9	106.4	105.3
R3	102.9	101.6	104.9	103.6	101.5	106.7	104.0	102.7	106.1	104.0	101.6	105.3	105.5	104.3	106.3	106.1	103.4	110.0
差	-0.3	-1.1	0.7	-0.6	-1.7	-1.1	1.5	0.7	2.0	1.3	-0.9	2.0	1.4	0.3	1.7	-0.2	-2.2	0.9

(北九州地区)

	小学校第5学年						中学校第1学年						中学校第2学年					
	国語			算数			国語			数学			国語			数学		
	全体	H27～R1基礎 R3知・技	H27～R1活用 R3思・判・表	全体	H27～R1基礎 R3知・技	H27～R1活用 R3思・判・表	全体	H29～R1基礎 R3知・技	H29～R1活用 R3思・判・表	全体	H29～R1基礎 R3知・技	H29～R1活用 R3思・判・表	全体	H27～R1基礎 R3知識	活用	全体	H27～R1基礎 R3知識	活用
H27	96.0	96.7	94.5	93.9	94.7	91.2	—	—	—	—	—	—	95.9	96.7	93.5	91.9	93.2	86.4
H28	95.9	97.7	90.4	97.0	97.6	95.3	—	—	—	—	—	—	97.7	97.9	97.0	93.4	93.3	93.5
H29	94.8	96.9	87.7	96.1	97.4	91.8	97.5	98.2	94.8	97.0	97.3	96.0	98.5	99.5	95.0	90.5	91.0	89.4
H30	96.1	96.3	95.0	96.0	97.3	90.0	97.0	97.9	97.4	95.9	97.4	96.8	95.9	96.7	96.6	90.2	91.5	86.7
R1	98.3	97.5	97.4	95.8	97.1	91.9	96.8	97.7	94.9	95.2	96.4	94.3	95.7	96.3	93.9	91.6	90.4	92.1
R3	103.9	104.8	102.4	103.6	106.0	100.0	99.2	100.0	100.0	98.0	100.0	92.1	95.5	93.5	96.9	94.9	96.6	92.5
差	7.9	8.1	7.9	9.7	11.3	8.8	1.7	1.8	5.2	1.0	2.7	-3.9	-0.4	-3.2	3.4	3.0	3.4	6.1

(北筑後地区)

	小学校第5学年						中学校第1学年						中学校第2学年					
	国語			算数			国語			数学			国語			数学		
	全体	H27～R1基礎 R3知・技	H27～R1活用 R3思・判・表	全体	H27～R1基礎 R3知・技	H27～R1活用 R3思・判・表	全体	H29～R1基礎 R3知・技	H29～R1活用 R3思・判・表	全体	H29～R1基礎 R3知・技	H29～R1活用 R3思・判・表	全体	H27～R1基礎 R3知識	活用	全体	H27～R1基礎 R3知識	活用
H27	98.5	98.1	99.3	98.4	99.1	95.8	—	—	—	—	—	—	99.4	99.2	100.0	98.7	98.8	98.2
H28	97.7	98.3	95.7	98.5	98.8	97.4	—	—	—	—	—	—	98.7	99.0	97.7	98.3	98.4	97.7
H29	97.3	97.8	95.5	97.3	98.0	94.9	99.0	99.0	98.9	98.7	98.7	98.7	97.7	97.7	97.7	99.9	100.0	99.8
H30	96.1	95.1	100.0	98.7	99.1	97.5	99.2	100.0	100.0	99.3	100.0	103.2	97.5	97.8	100.0	98.2	98.8	96.7
R1	97.5	97.5	100.0	97.9	98.1	97.3	99.2	98.9	100.0	99.3	99.1	97.1	97.4	97.6	100.0	97.7	96.8	97.4
R3	96.1	95.2	97.6	95.5	95.5	95.6	98.4	98.7	98.0	98.0	98.4	94.7	97.3	93.5	98.4	99.0	96.6	100.0
差	-2.4	-2.9	-1.7	-2.9	-3.6	-0.2	-0.6	-0.3	-0.9	-0.7	-0.3	-4.0	-2.1	-5.7	-1.6	0.3	-2.2	1.8

(南筑後地区)

	小学校第5学年						中学校第1学年						中学校第2学年					
	国語			算数			国語			数学			国語			数学		
	全体	H27～R1基礎 R3知・技	H27～R1活用 R3思・判・表	全体	H27～R1基礎 R3知・技	H27～R1活用 R3思・判・表	全体	H29～R1基礎 R3知・技	H29～R1活用 R3思・判・表	全体	H29～R1基礎 R3知・技	H29～R1活用 R3思・判・表	全体	H27～R1基礎 R3知識	活用	全体	H27～R1基礎 R3知識	活用
H27	101.2	101.7	100.4	101.1	100.9	101.6	—	—	—	—	—	—	97.5	97.8	96.8	98.9	99.0	98.5
H28	100.8	100.4	102.2	100.6	100.2	101.5	—	—	—	—	—	—	99.1	99.1	99.1	98.4	97.8	100.8
H29	102.7	102.5	103.5	102.4	102.0	104.0	98.6	98.7	98.3	98.9	98.9	99.0	97.5	98.0	95.6	95.6	95.6	95.6
H30	101.0	101.2	100.0	100.0	99.1	100.0	97.7	98.9	94.7	98.6	99.1	100.0	97.5	98.9	96.6	96.4	96.3	96.7
R1	99.2	100.0	97.4	100.0	100.0	100.0	99.2	100.0	100.0	98.6	99.1	97.1	96.5	97.6	97.0	97.7	97.9	94.7
R3	100.0	100.0	100.0	96.4	97.0	95.6	96.8	97.3	95.9	96.0	96.8	92.1	95.5	95.7	96.9	93.9	94.9	92.5
差	-1.2	-1.7	-0.4	-4.7	-3.9	-6.0	-1.8	-1.4	-2.4	-2.9	-2.1	-6.9	-2.0	-2.1	0.1	-5.0	-4.1	-6.0

(筑豊地区)

	小学校第5学年						中学校第1学年						中学校第2学年					
	国語			算数			国語			数学			国語			数学		
	全体	H27～R1基礎 R3知・技	H27～R1活用 R3思・判・表	全体	H27～R1基礎 R3知・技	H27～R1活用 R3思・判・表	全体	H29～R1基礎 R3知・技	H29～R1活用 R3思・判・表	全体	H29～R1基礎 R3知・技	H29～R1活用 R3思・判・表	全体	H27～R1基礎 R3知識	活用	全体	H27～R1基礎 R3知識	活用
H27	93.6	94.8	90.9	91.9	93.4	86.4	—	—	—	—	—	—	91.5	91.9	90.4	87.0	88.5	80.5
H28	93.6	95.3	88.2	92.5	93.3	90.1	—	—	—	—	—	—	90.3	90.9	88.5	85.2	85.1	85.5
H29	96.1	98.4	88.1	94.2	95.6	89.2	94.0	95.3	88.9	93.3	94.1	90.8	91.2	91.7	89.8	87.1	87.9	85.4
H30	98.0	98.8	95.0	94.0	95.5	87.5	91.7	92.6	89.5	90.5	92.2	90.3	89.3	90.2	89.7	86.6	87.8	83.3
R1	92.4	93.8	89.5	91.5	92.4	89.2	91.3	93.1	87.2	91.2	92.0	85.7	90.4	91.5	87.9	87.0	86.2	86.8
R3	96.1	100.0	90.2	95.5	98.5	88.9	92.7	94.7	89.8	89.9	93.5	81.6	90.9	91.3	90.6	86.9	89.8	82.5
差	2.5	5.2	-0.7	3.6	5.1	2.5	-1.3	-0.6	0.9	-3.4	-0.6	-9.2	-0.6	-0.6	0.2	-0.1	1.3	2.0

(京築地区)

	小学校第5学年						中学校第1学年						中学校第2学年					
	国語			算数			国語			数学			国語			数学		
	全体	H27～R1基礎 R3知・技	H27～R1活用 R3思・判・表	全体	H27～R1基礎 R3知・技	H27～R1活用 R3思・判・表	全体	H29～R1基礎 R3知・技	H29～R1活用 R3思・判・表	全体	H29～R1基礎 R3知・技	H29～R1活用 R3思・判・表	全体	H27～R1基礎 R3知識	活用	全体	H27～R1基礎 R3知識	活用
H27	97.7	97.9	97.1	97.5	98.5	94.2	—	—	—	—	—	—	96.4	96.6	95.8	91.4	92.0	88.8
H28	98.3	99.0	96.1	97.0	96.4	98.4	—	—	—	—	—	—	96.5	96.3	96.8	95.1	94.8	96.4
H29	94.7	95.6	91.7	96.5	96.4	96.8	97.1	97.8	94.5	97.1	97.4	95.9	98.6	99.5	95.5	93.4	94.4	91.1
H30	96.1	97.6	95.0	97.3	97.3	95.0	97.0	96.8	94.7	95.9	97.4	93.5	95.1	95.7	100.0	93.8	95.1	90.0
R1	96.6	96.3	97.4	95.1	97.1	91.9	96.0	96.6	94.9	94.6	94.6	91.4	95.7	96.3	93.9	93.9	93.6	92.1
R3	99.0	98.4	100.0	100.0	101.5	97.8	96.0	96.0	95.9	96.0	98.4	89.5	94.5	95.7	95.3	96.0	96.6	92.5
差	1.3	0.5	2.9	2.5	3.0	3.6	-1.1	-1.8	1.4	-1.1	1.0	-6.4	-1.9	-0.9	-0.5	4.6	4.6	3.7

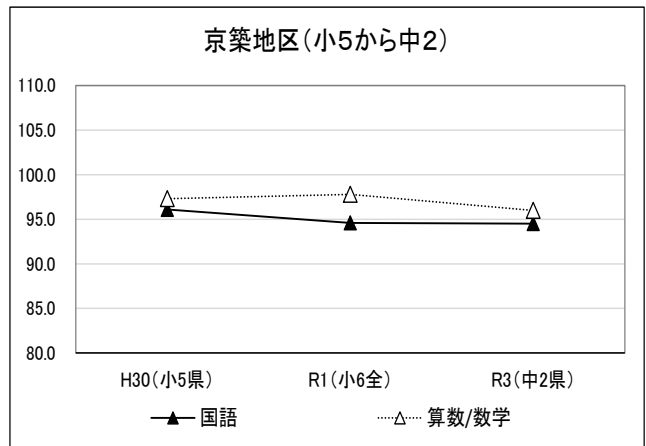
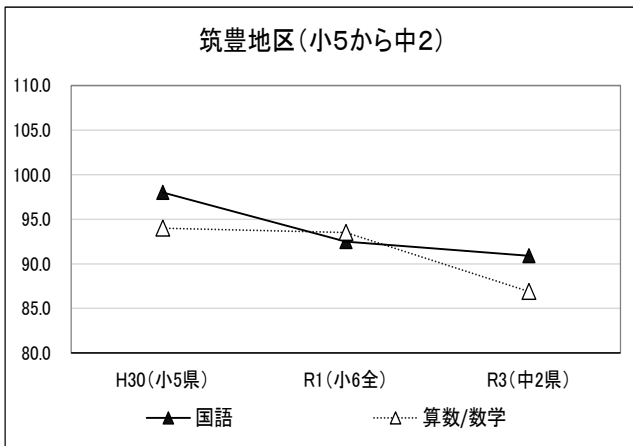
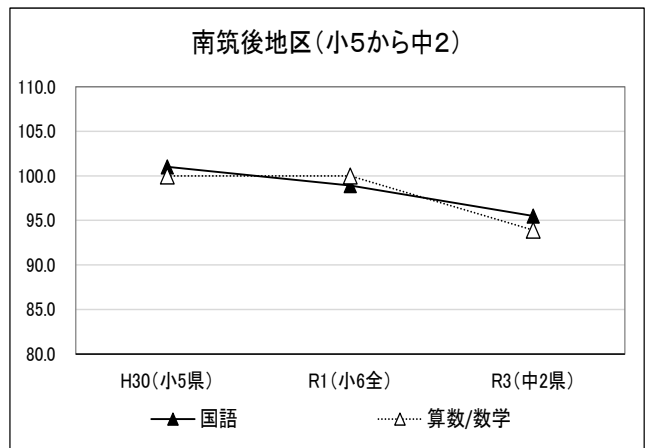
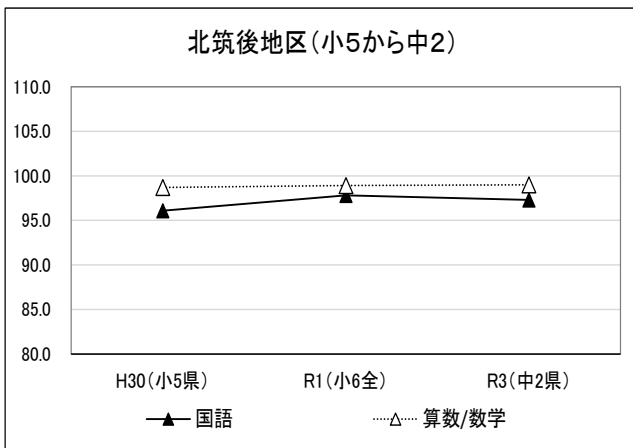
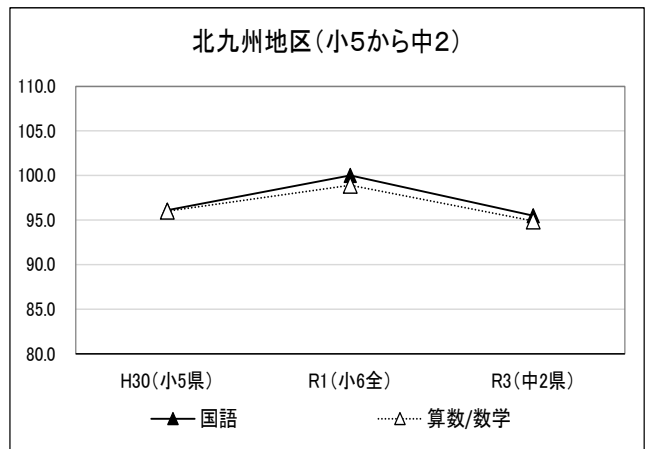
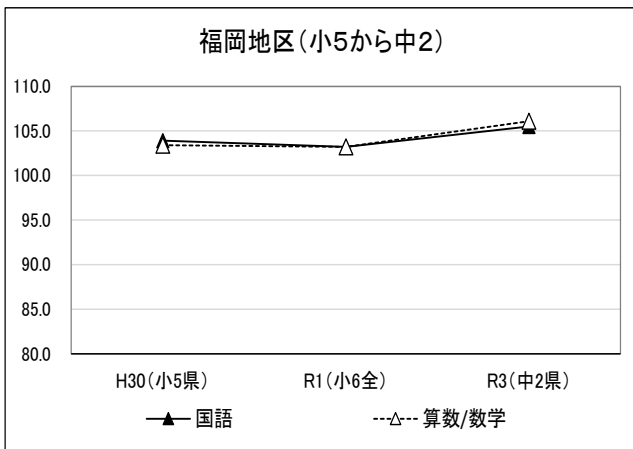
## (6) 各地区の同一集団（本年度中学校第2学年）の標準化得点の推移

※ グラフは、県平均を100とした場合の同一集団標準化得点である。

※ 以下は、H30(小5)からR3(中2)の推移を分析した内容である。

※ 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響等を踏まえ例年と異なる実施方法であったため、経年変化のグラフには反映していない。

- 福岡地区は、国語、算数・数学ともに上昇傾向である。
- 北九州地区は、国語、算数・数学ともに下降傾向である。
- 北筑後地区は、国語が下降傾向、算数・数学がほぼ横ばい傾向である。
- 南筑後地区は、国語、算数・数学ともに下降傾向である。
- 筑豊地区は、国語、算数・数学ともに下降傾向である。
- 京築地区は、国語、算数・数学ともに下降傾向である。



### 3 各学年の調査結果は 次のページから



ふくおか教育月間イメージキャラクター「ミライル」  
これからの社会をはばたく子どもたちの「翼」をイメージした妖精です

### 3 各学年の調査結果

#### (1) 小学校第5学年国語

- 教科全体では、期待正答率 63.3%に対して平均正答率 57.3%であり、6.0ポイント下回っている。
- 評価の観点別に見ると、期待正答率を「知識・技能」及び「思考・判断・表現」では、それぞれ3.3、8.6ポイント下回っている。
- 解答形式別に見ると、期待正答率を「選択式」、「短答式」及び「記述式」では、それぞれ0.9、4.1、22.9ポイント下回っている。
- 領域別に見ると、期待正答率を「知識及び技能(1)(2)(3)」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」では、それぞれ3.3、4.9、12.6、8.6ポイント下回っている。

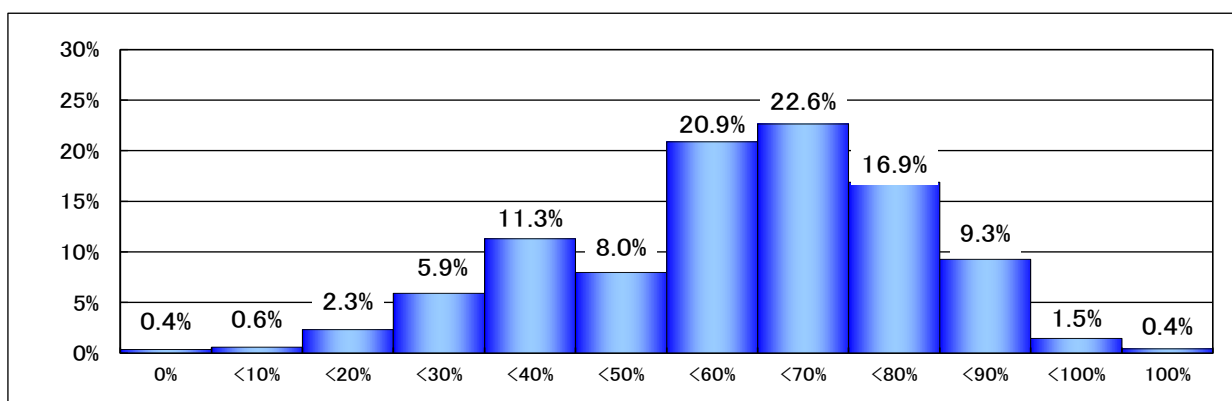
#### ■ 教科全体と評価の観点別、解答形式別の正答率 (%)

	教科全体 正答率	評価の観点別正答率		解答形式別正答率		
		知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式
期待正答率	63.3	72.2	54.4	61.4	73.8	40.0
平均正答率	57.3	68.9	45.8	60.5	69.7	17.1
差	-6.0	-3.3	-8.6	-0.9	-4.1	-22.9

#### ■ 領域別の正答率 (%)

	領域別正答率			
	知識及び技能 (1)・(2)・(3)	話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと
期待正答率	72.2	56.7	56.7	50.0
平均正答率	68.9	51.8	44.1	41.4
差	-3.3	-4.9	-12.6	-8.6

#### ■ 正答率分布 横軸：正答率（10%刻み） 縦軸：児童の割合 (%)



## (2) 小学校第5学年算数

- 教科全体では、期待正答率 63.7%に対して平均正答率 58.8%であり、4.9 ポイント下回っている。
- 評価の観点別に見ると、期待正答率を「知識・技能」では 1.6 ポイント上回り、「思考・判断・表現」では、10.6 ポイント下回っている。
- 解答形式別に見ると、期待正答率を「選択式」及び「記述式」では、それぞれ 10.1、13.4 ポイント下回り、「短答式」では、0.1 ポイント上回っている。
- 領域別に見ると、期待正答率を「数と計算」及び「図形」では、それぞれ 8.0、12.3 ポイント下回り、「測定、変化と関係」及び「データの活用」では、それぞれ 6.2、0.5 ポイント上回っている。

### ■ 教科全体と評価の観点別、解答形式別の正答率（％）

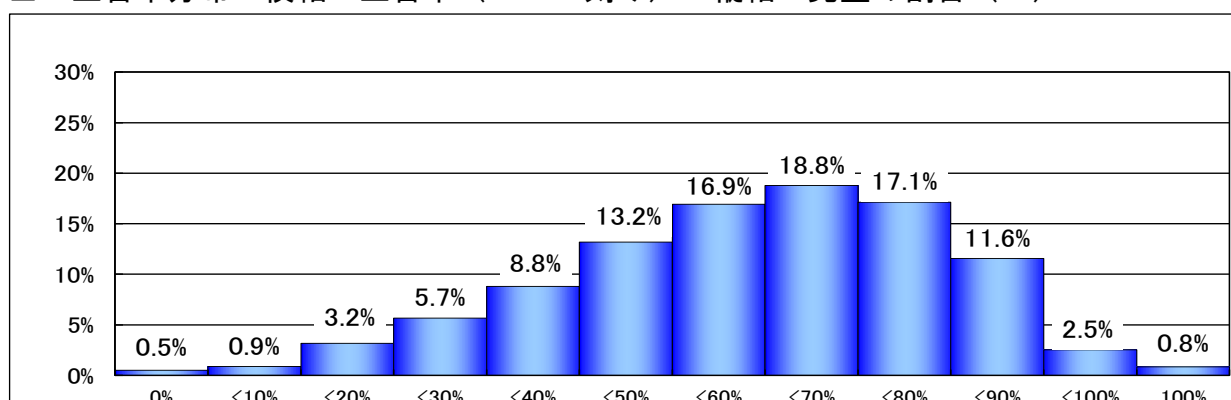
	教科全体 正答率	評価の観点別正答率		解答形式別正答率		
		知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式
期待正答率	63.7	72.8	55.5	63.8	73.2	37.5
平均正答率	58.8	74.4	44.9	53.7	73.3	24.1
差	-4.9	1.6	-10.6	-10.1	0.1	-13.4

※網掛け部分は期待正答率を上回っているもの。

### ■ 領域別の正答率（％）

	領域別正答率			
	数と計算	図形	測定 変化と関係	データの活用
期待正答率	65.0	67.5	61.7	58.8
平均正答率	57.0	55.2	67.9	59.3
差	-8.0	-12.3	6.2	0.5

### ■ 正答率分布 横軸：正答率（10％刻み） 縦軸：児童の割合（％）



### (3) 中学校第1学年国語

- 教科全体では、期待正答率 68.1%に対して平均正答率 69.1%であり、1.0 ポイント上回っている。
- 評価の観点別に見ると、期待正答率を「知識・技能」では 3.0 ポイント上回り、「思考・判断・表現」では、1.4 ポイント下回っている。
- 解答形式別に見ると、期待正答率を「選択式」及び「短答式」では、それぞれ 2.9、1.0 ポイント上回り、「記述式」では、3.5 ポイント下回っている。
- 領域別に見ると、期待正答率を「知識及び技能（1）（2）（3）」及び「話すこと・聞くこと」では、それぞれ 3.0、12.0 ポイント上回り、「書くこと」及び「読むこと」では、それぞれ 1.5、10.3 ポイント下回っている。

#### ■ 教科全体と評価の観点別、解答形式別の正答率（％）

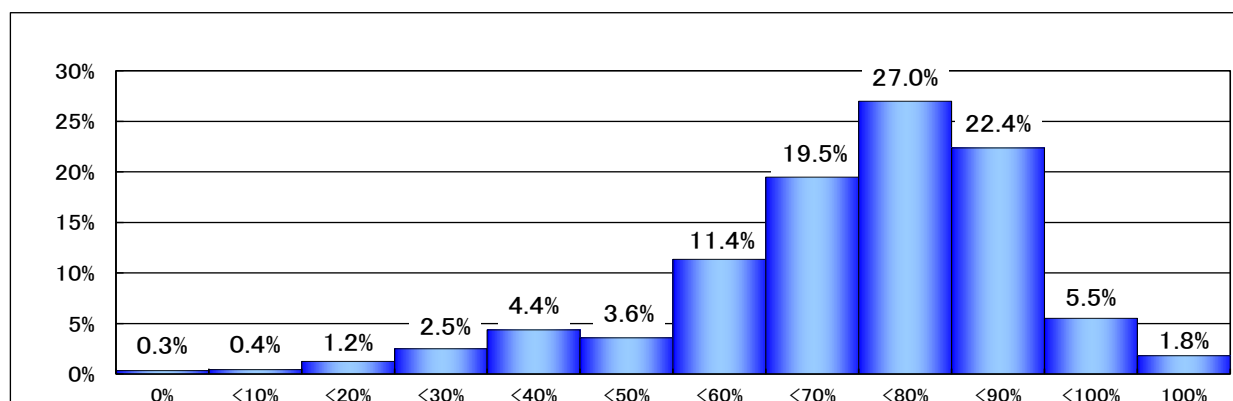
	教科全体 正答率	評価の観点別正答率		解答形式別正答率		
		知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式
期待正答率	68.1	72.0	63.1	69.3	74.4	48.3
平均正答率	69.1	75.0	61.7	72.2	75.4	44.8
差	1.0	3.0	-1.4	2.9	1.0	-3.5

※網掛け部分は期待正答率を上回っているもの。

#### ■ 領域別の正答率（％）

	領域別正答率			
	知識及び技能 (1)・(2)・(3)	話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと
期待正答率	72.0	72.5	60.0	60.0
平均正答率	75.0	84.5	58.5	49.7
差	3.0	12.0	-1.5	-10.3

#### ■ 正答率分布 横軸：正答率（10％刻み） 縦軸：生徒の割合（％）





#### (4) 中学校第1学年数学

- 教科全体では、期待正答率 62.4%に対して平均正答率 52.2%であり、10.2 ポイント下回っている。
- 評価の観点別に見ると、期待正答率を「知識・技能」及び「思考・判断・表現」ではそれぞれ 3.6、15.9 ポイント下回っている。
- 解答形式別に見ると、期待正答率を「選択式」、「短答式」及び「記述式」では、それぞれ 1.4、10.6、15.3 ポイント下回っている。
- 領域別に見ると、期待正答率を「数と計算」、「図形」、「測定、変化と関係」、及び「データの活用」では、それぞれ 6.4、13.7、11.4、17.4 ポイント下回っている。

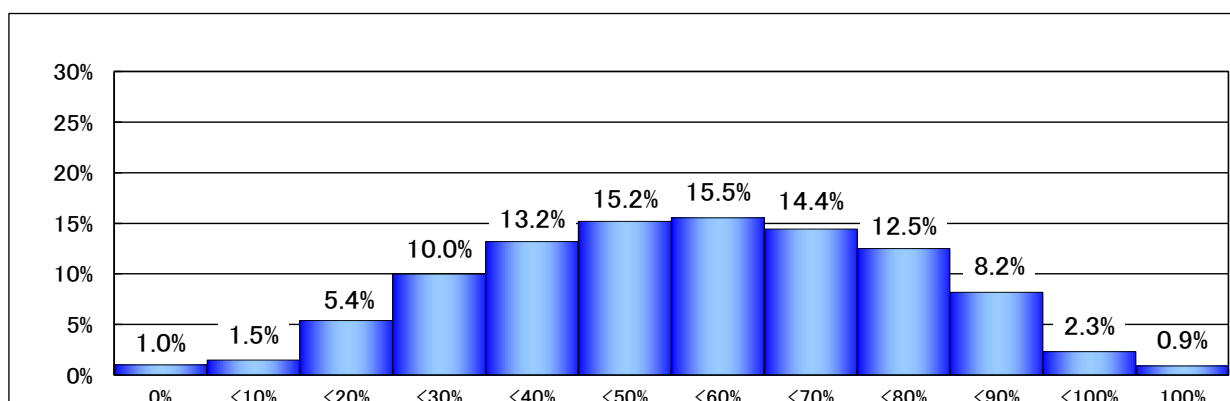
#### ■ 教科全体と評価の観点別、解答形式別の正答率（％）

	教科全体 正答率	評価の観点別正答率		解答形式別正答率		
		知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式
期待正答率	62.4	72.2	53.5	61.7	67.9	46.3
平均正答率	52.2	68.6	37.6	60.3	57.3	31.0
差	-10.2	-3.6	-15.9	-1.4	-10.6	-15.3

#### ■ 領域別の正答率（％）

	領域別正答率			
	数と計算	図形	測定 変化と関係	データの活用
期待正答率	70.0	61.3	50.0	55.0
平均正答率	63.6	47.6	38.6	37.6
差	-6.4	-13.7	-11.4	-17.4

#### ■ 正答率分布 横軸：正答率（10％刻み） 縦軸：生徒の割合（％）



## (5) 中学校第2学年国語

- 教科全体では、期待正答率 64.5%に対して平均正答率 55.1%であり、9.4ポイント下回っている。
- 問題形式別に見ると、期待正答率を「知識」及び「活用」では、それぞれ8.5、10.1ポイント下回っている。
- 評価の観点別に見ると、期待正答率を「話す・聞く能力」、「書く能力」、「読む能力」及び「言語についての知識・理解・技能」では、それぞれ9.2、10.1、6.0、13.9ポイント下回っている。
- 解答形式別に見ると、期待正答率を「選択式」、「短答式」及び「記述式」では、それぞれ6.1、9.1、20.3ポイント下回っている。
- 領域別に見ると、期待正答率を「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、それぞれ9.2、10.1、6.0、13.9ポイント下回っている。

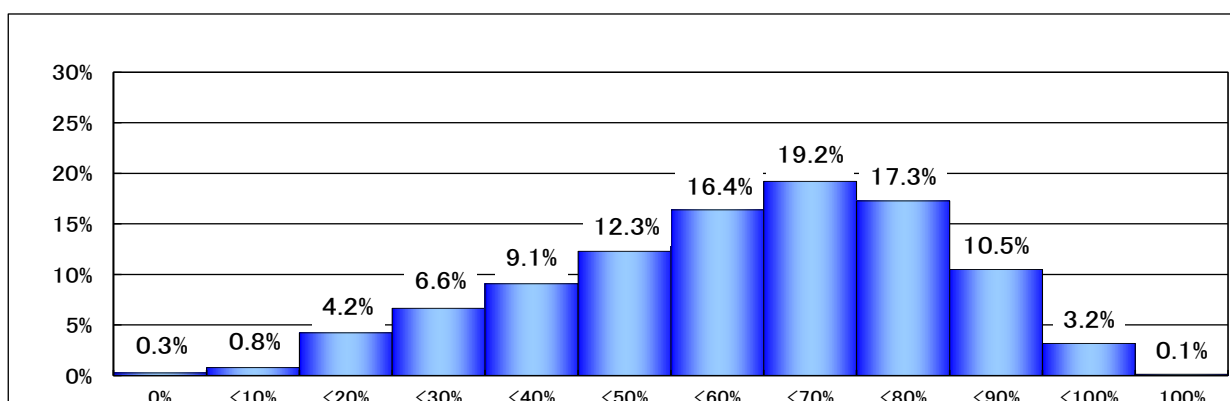
### ■ 教科全体と問題形式別、評価の観点別、解答形式別の正答率（％）

	問題形式別正答率			評価の観点別正答率				解答形式別正答率		
	全体	知識	活用	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式
期待正答率	64.5	65.6	63.8	62.5	73.8	58.6	67.0	68.1	53.3	61.3
平均正答率	55.1	57.1	53.7	53.3	63.7	52.6	53.1	62.0	44.2	41.0
差	-9.4	-8.5	-10.1	-9.2	-10.1	-6.0	-13.9	-6.1	-9.1	-20.3

### ■ 領域別の正答率（％）

	領域別正答率			
	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
期待正答率	62.5	73.8	58.6	67.0
平均正答率	53.3	63.7	52.6	53.1
差	-9.2	-10.1	-6.0	-13.9

### ■ 正答率分布 横軸：正答率（10％刻み） 縦軸：生徒の割合（％）



## (6) 中学校第2学年数学

- 教科全体では、期待正答率 56.8%に対して平均正答率 52.1%であり、4.7ポイント下回っている。
- 問題形式別に見ると、期待正答率を「知識」及び「活用」では、それぞれ1.1、8.0ポイント下回っている。
- 評価の観点別に見ると、期待正答率を「数学的な見方や考え方」及び「数学的な技能」では、それぞれ10.1、2.7ポイント下回り、「数量や図形などについての知識・理解」では、1.5ポイント上回っている。
- 解答形式別に見ると、期待正答率を「選択式」では、0.3ポイント上回り、「短答式」及び「記述式」では、それぞれ4.2、10.4ポイント下回っている。
- 領域別に見ると、期待正答率を「数と式」、「関数」及び「資料の活用」では、それぞれ5.2、9.2、4.8ポイント下回り、「図形」では、0.7ポイント上回っている。

### ■ 教科全体と問題形式別、評価の観点別、解答形式別の正答率（%）

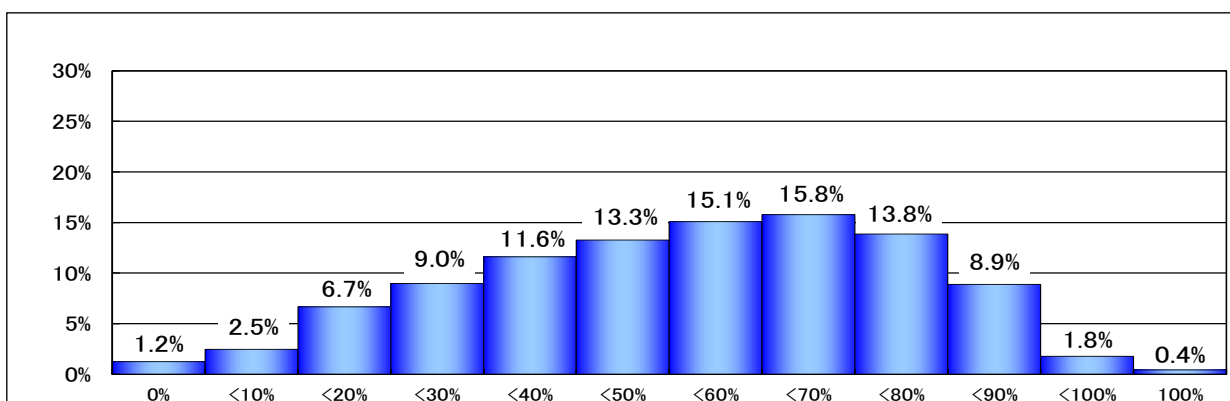
	問題形式別正答率			評価の観点別正答率			解答形式別正答率		
	全体	知識	活用	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式
期待正答率	56.8	66.1	48.5	45.6	60.8	70.0	65.0	61.3	37.5
平均正答率	52.1	65.0	40.5	35.5	58.1	71.5	65.3	57.1	27.1
差	-4.7	-1.1	-8.0	-10.1	-2.7	1.5	0.3	-4.2	-10.4

※網掛け部分は期待正答率を上回っているもの。

### ■ 領域別の正答率（%）

	領域別正答率			
	数と式	図形	関数	資料の活用
期待正答率	60.6	56.3	50.0	56.7
平均正答率	55.4	57.0	40.8	51.9
差	-5.2	0.7	-9.2	-4.8

### ■ 正答率分布 横軸：正答率（10%刻み） 縦軸：生徒の割合（%）



## X 資料

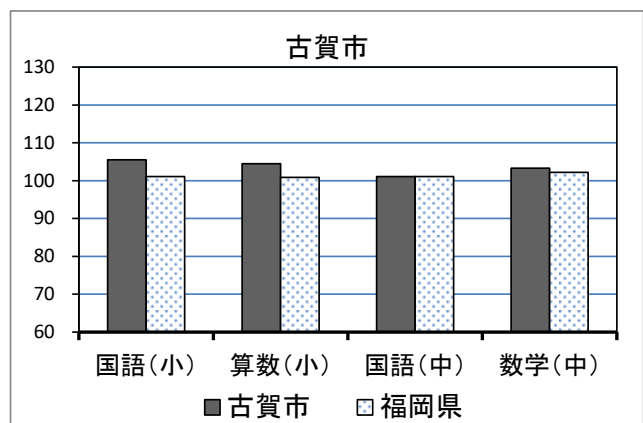
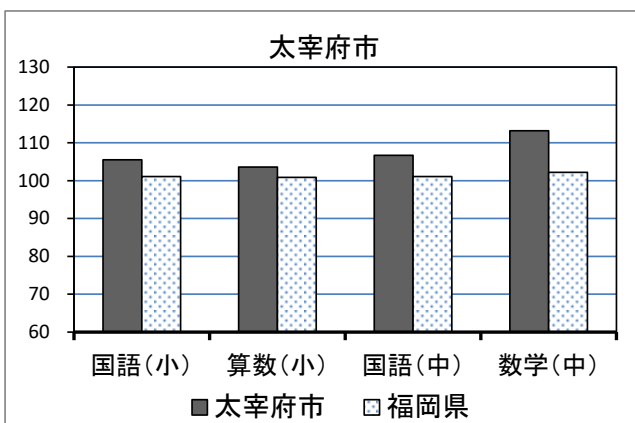
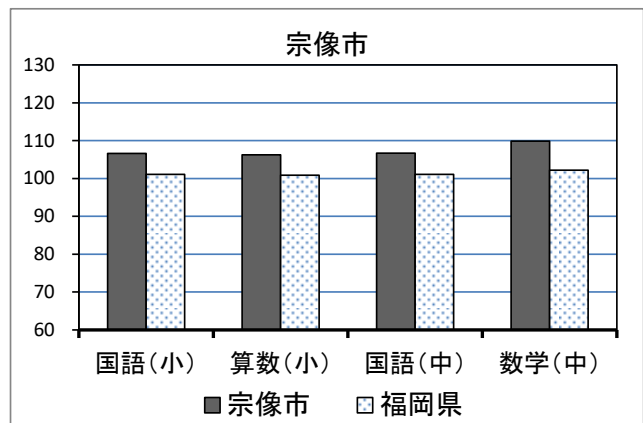
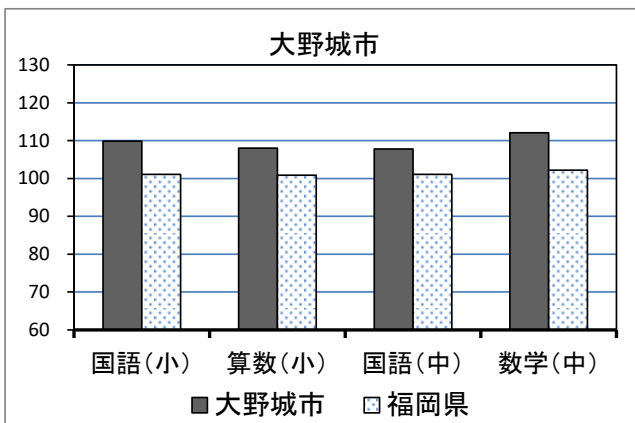
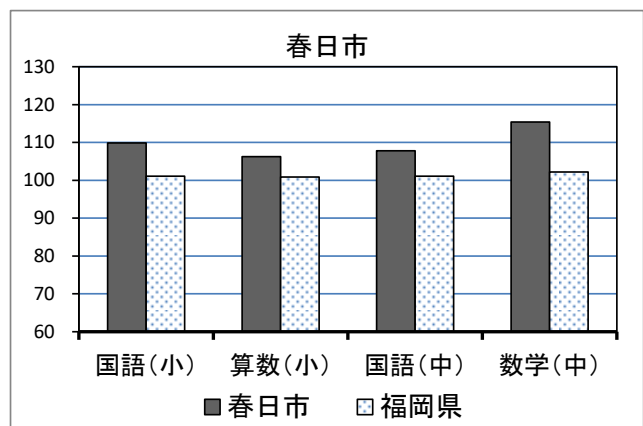
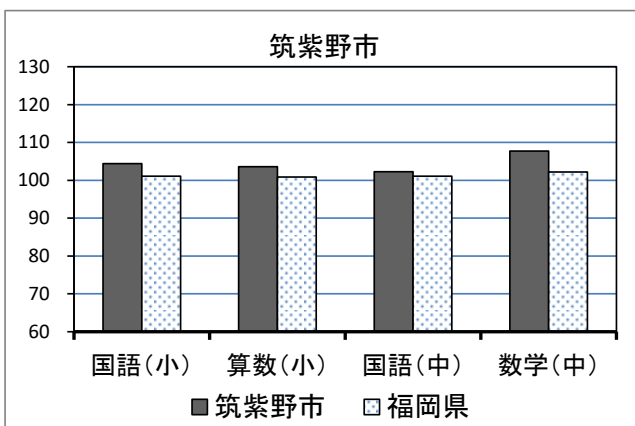
### 1 各教科結果の市町村別の状況

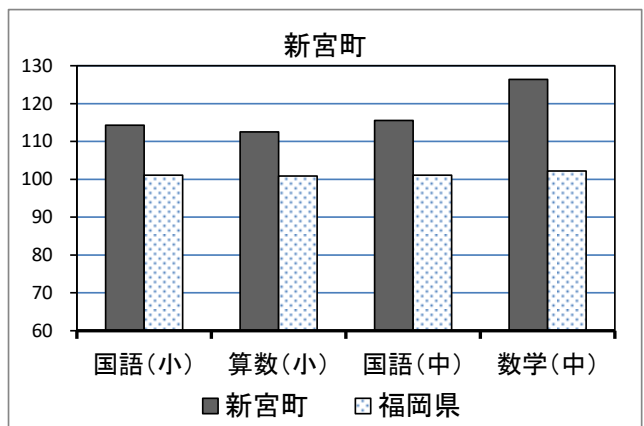
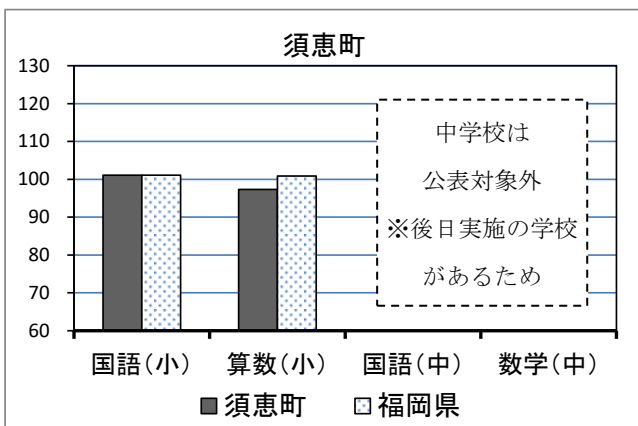
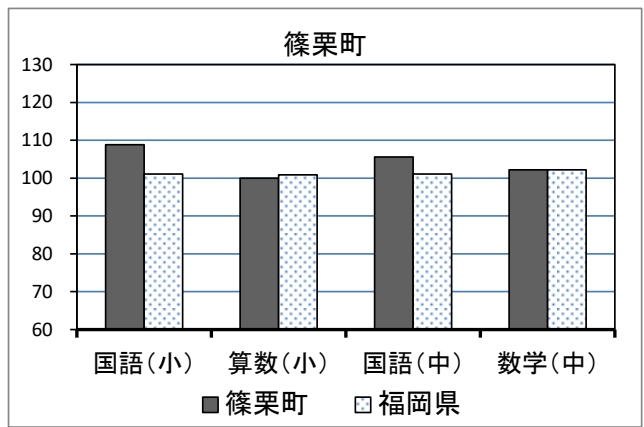
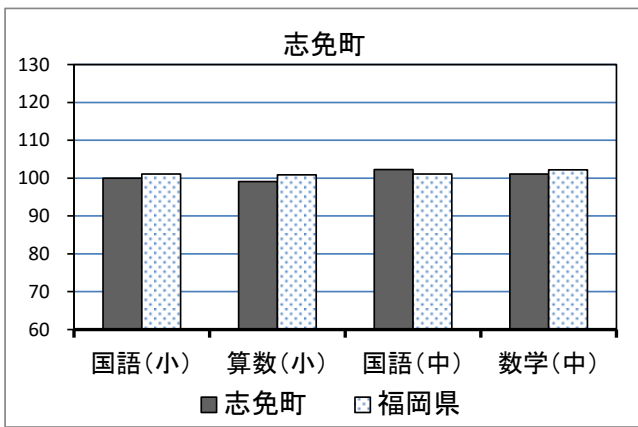
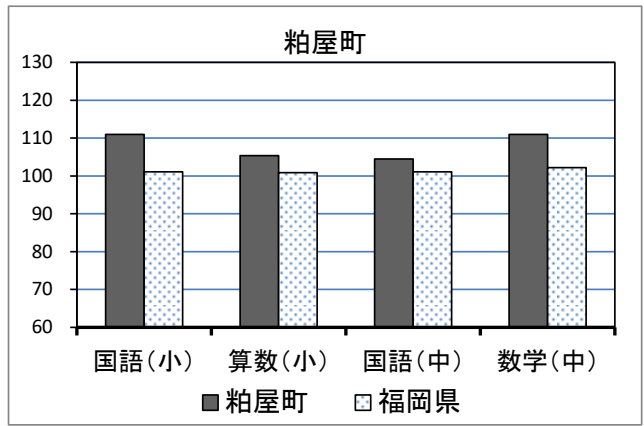
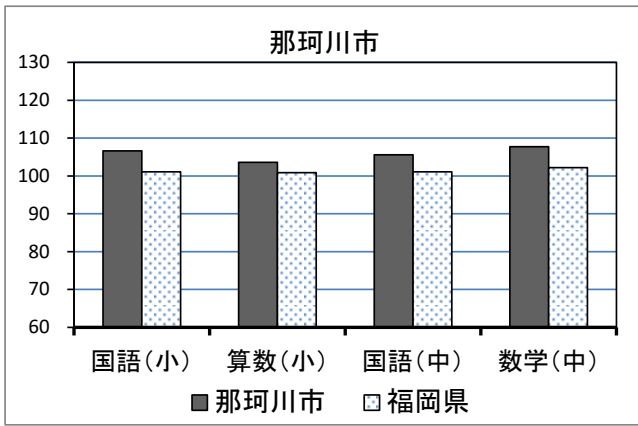
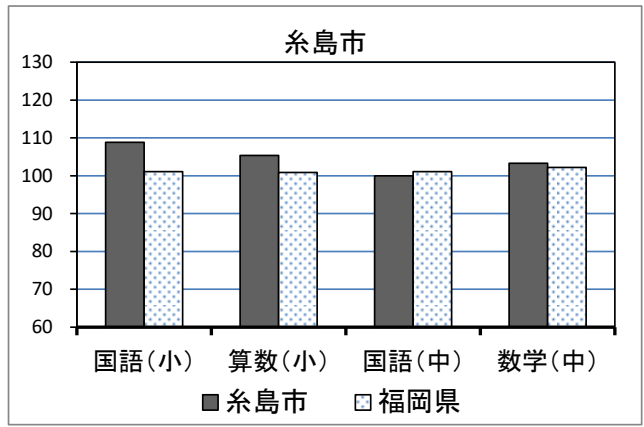
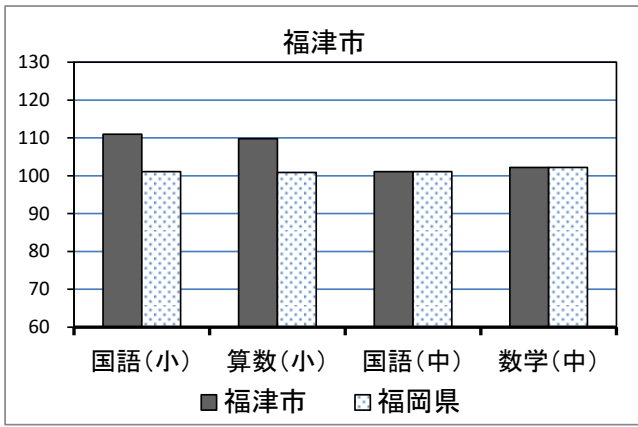
令和3年度は、全ての市町村教育委員会が公表に同意した。

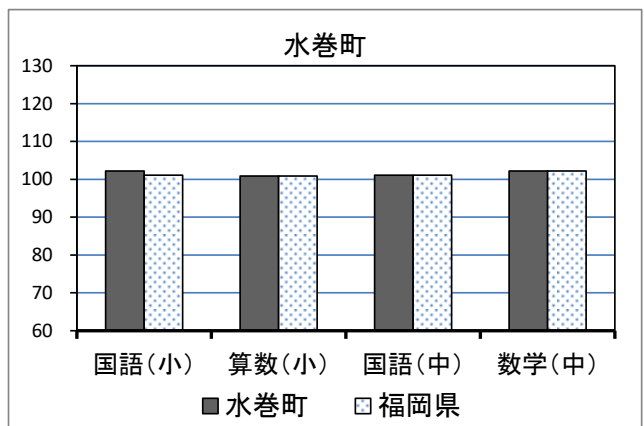
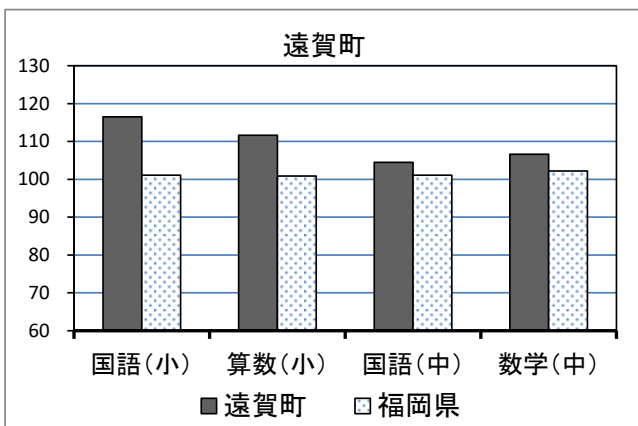
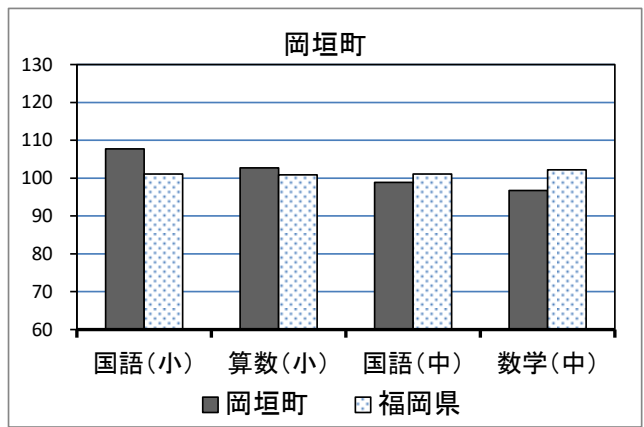
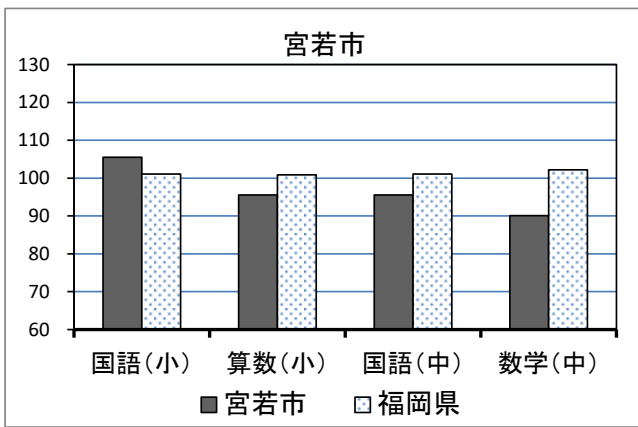
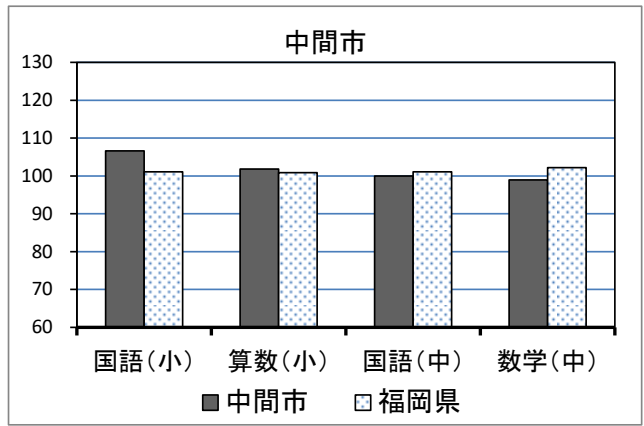
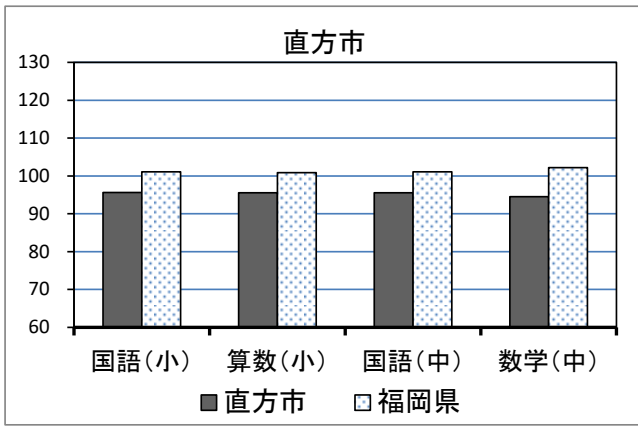
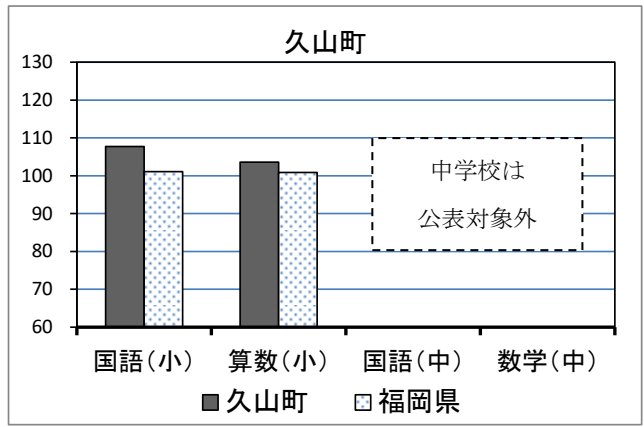
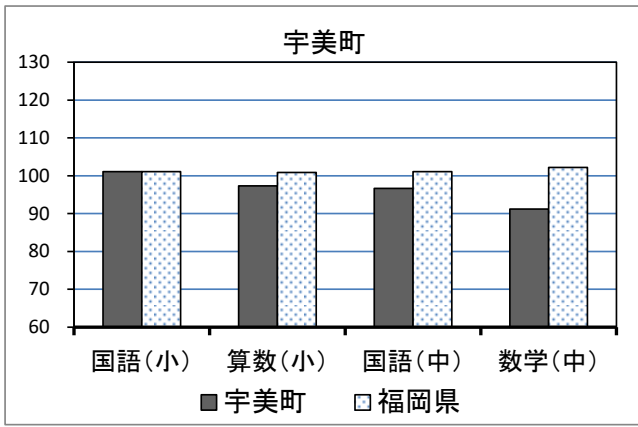
なお、市町村内の学校数が1小学校、1中学校又は1義務教育学校である場合は、当該学校を公表の対象外としている（以下「公表対象外」と表記）。

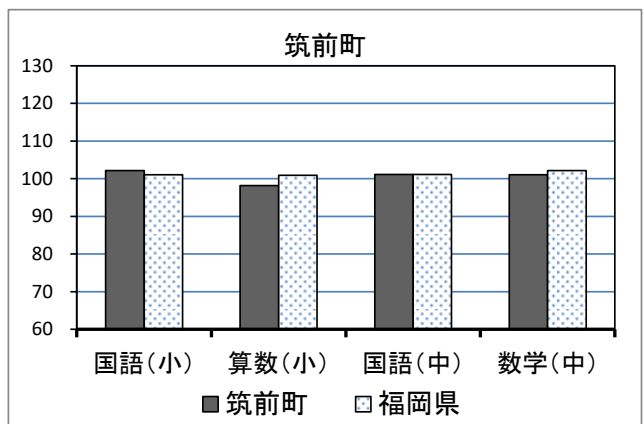
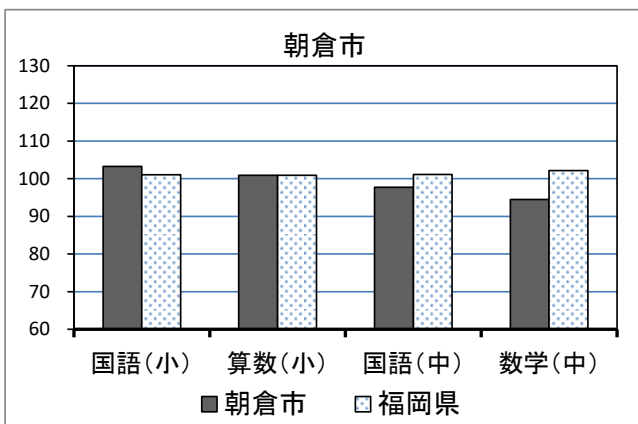
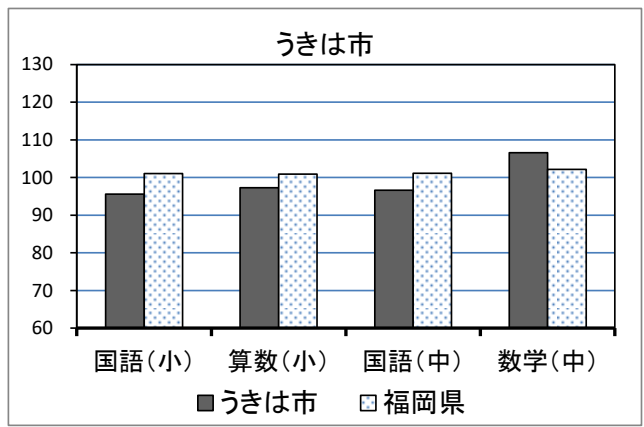
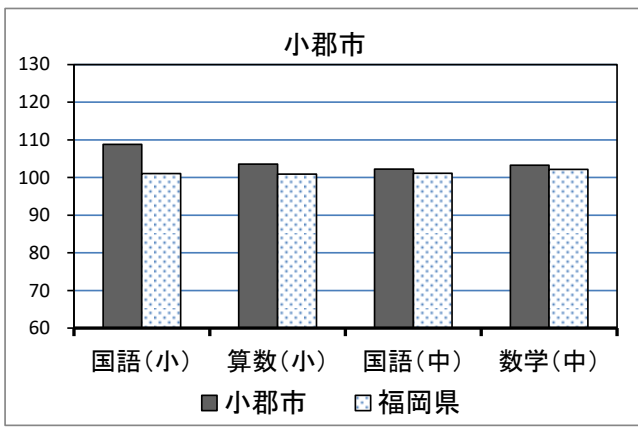
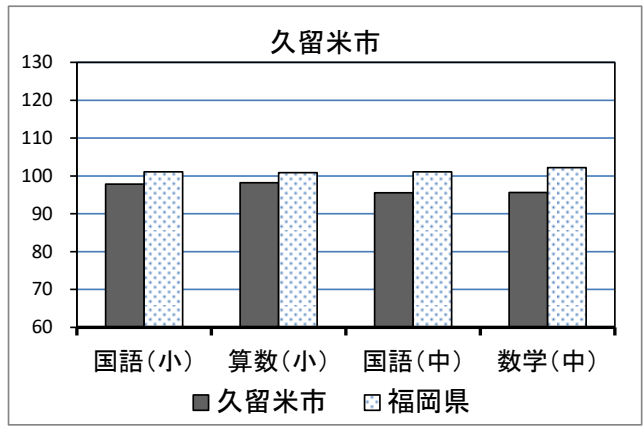
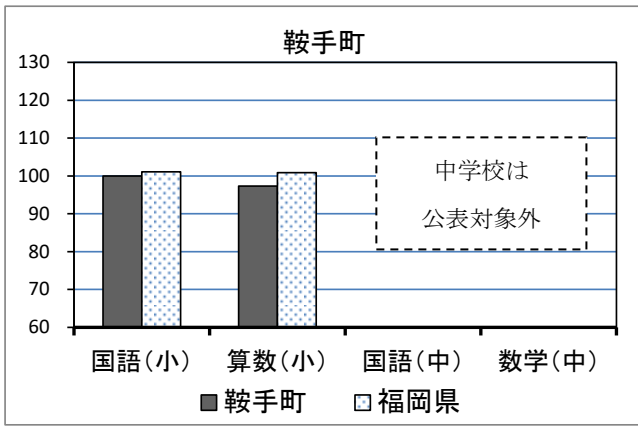
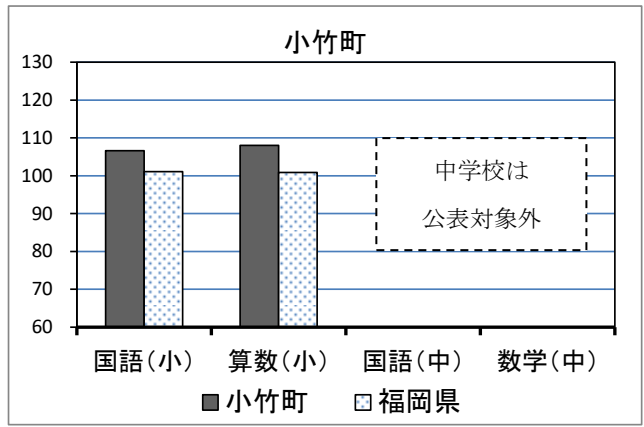
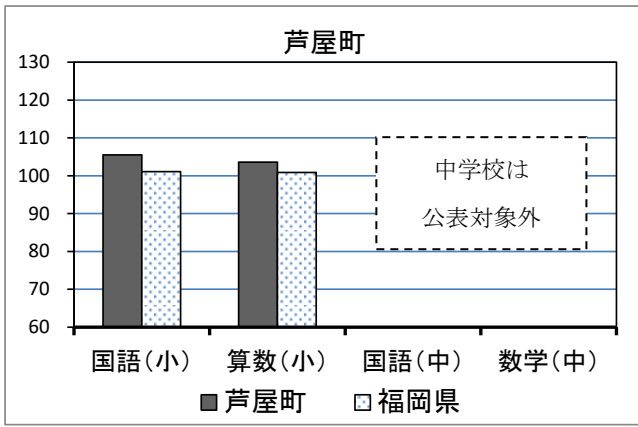
したがって、「東峰村」「香春町」「糸田町」「赤村」「吉富町・吉富町外一市中学校組合」は1小学校、1中学校又は1義務教育学校のため掲載していない。

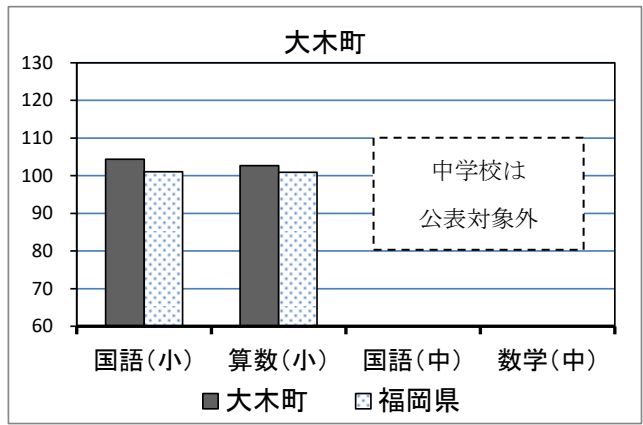
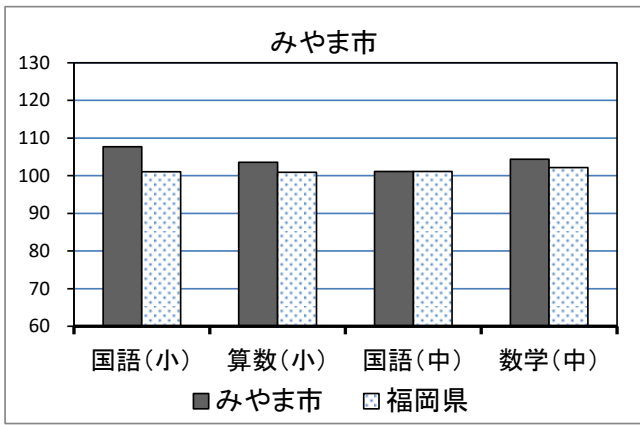
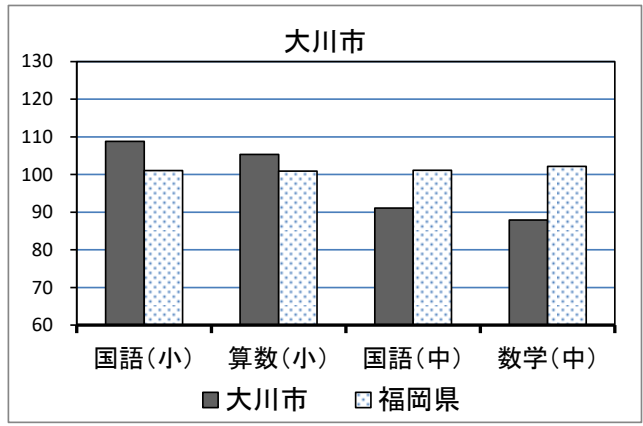
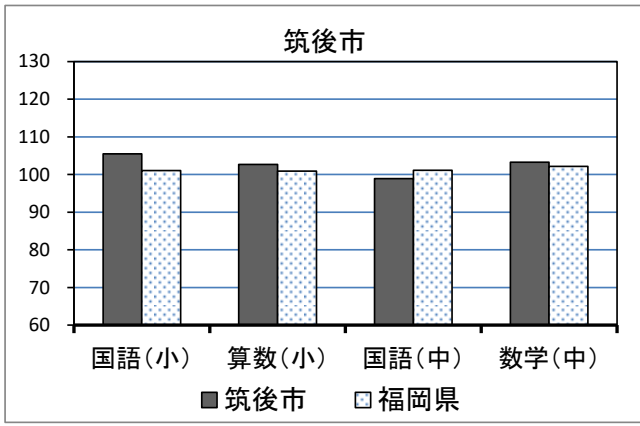
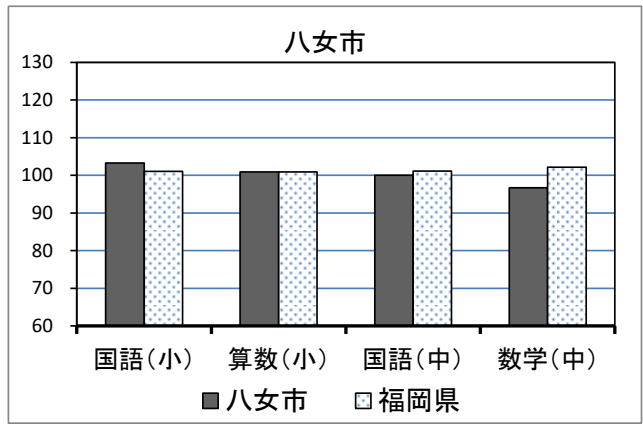
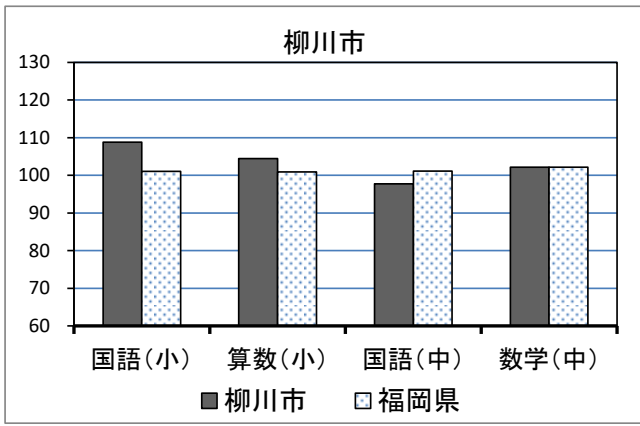
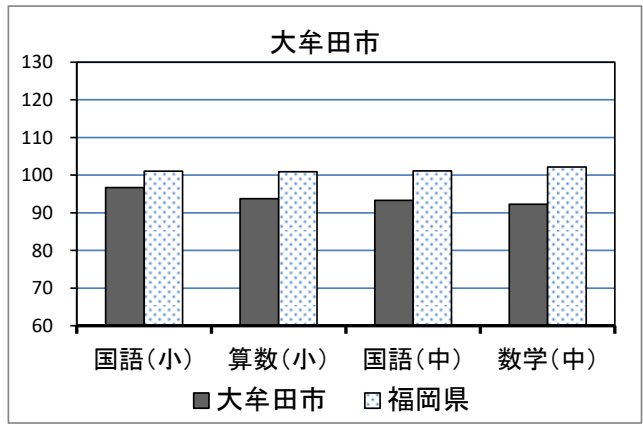
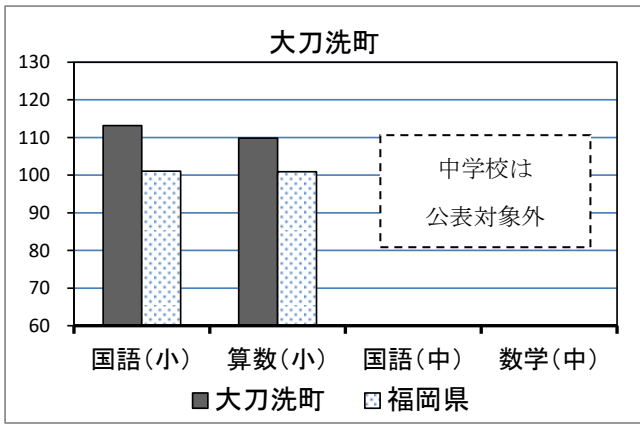
また、各グラフの値は、全国の平均正答数をそれぞれ100となるよう標準化した「標準化得点」である。



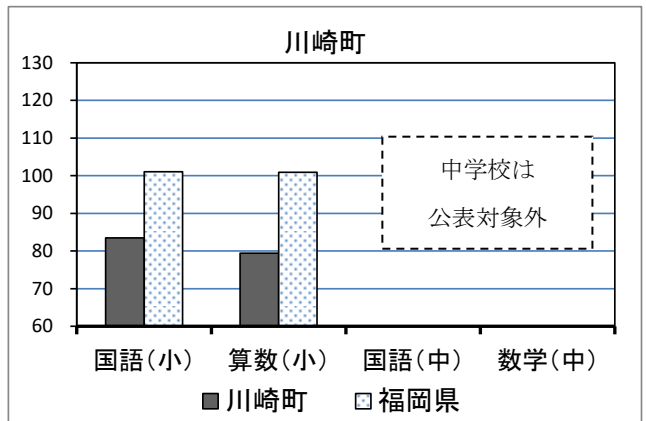
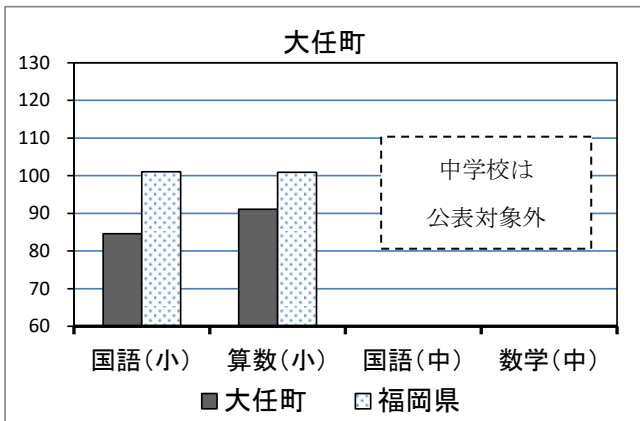
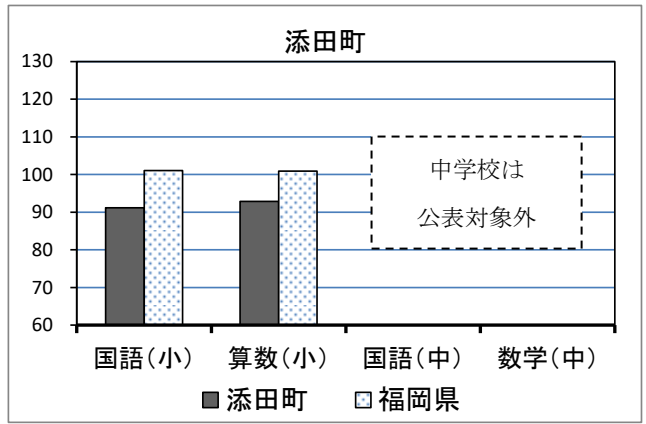
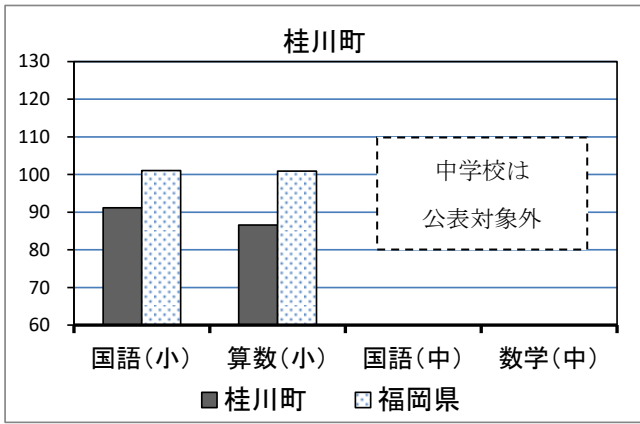
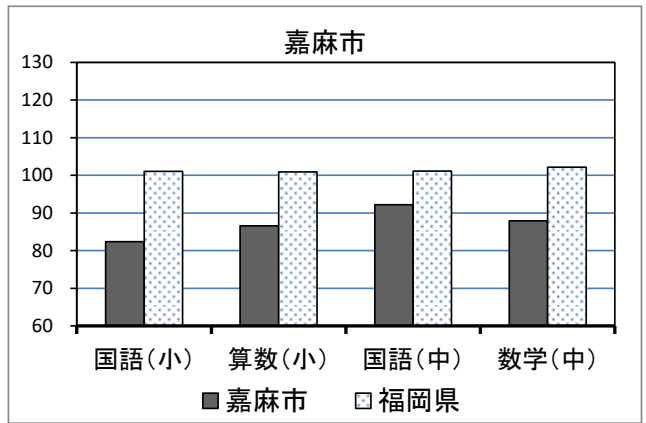
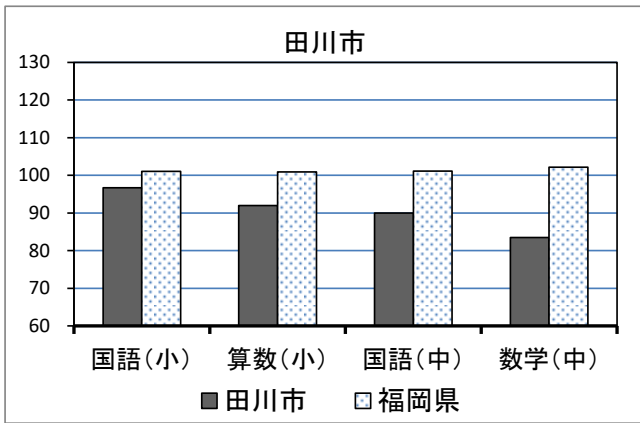
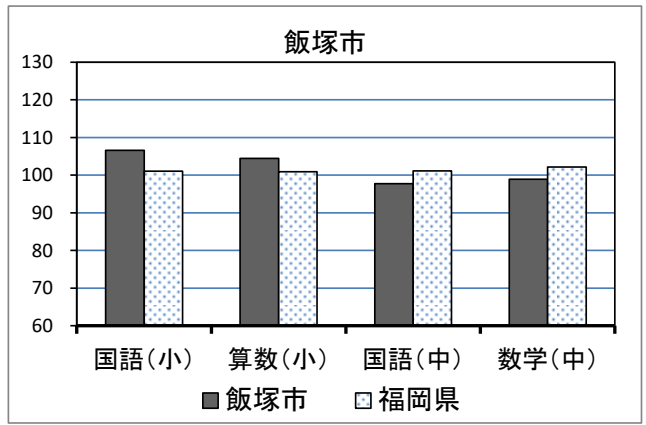
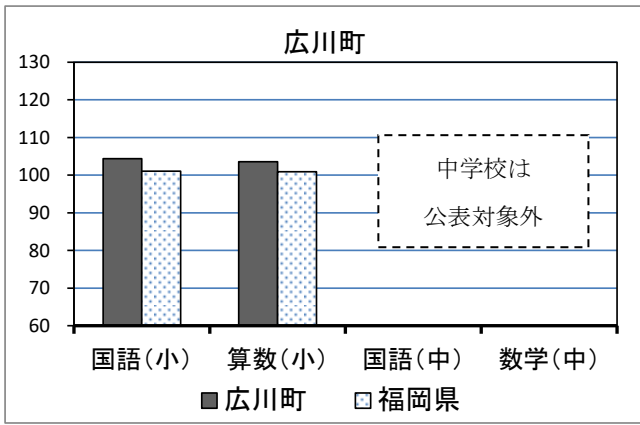


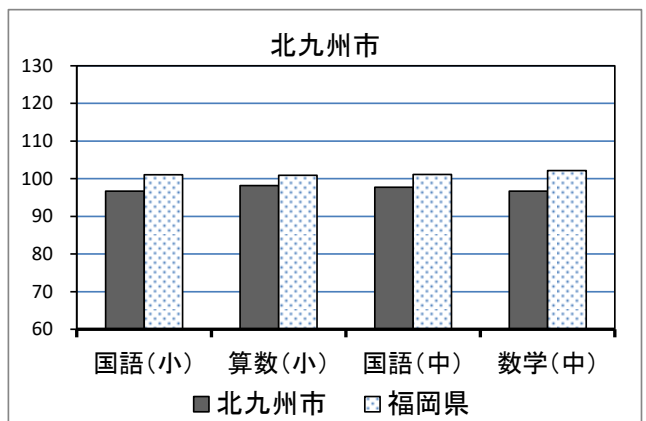
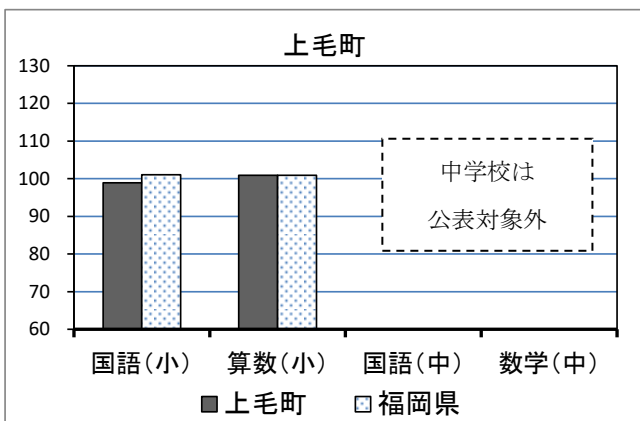
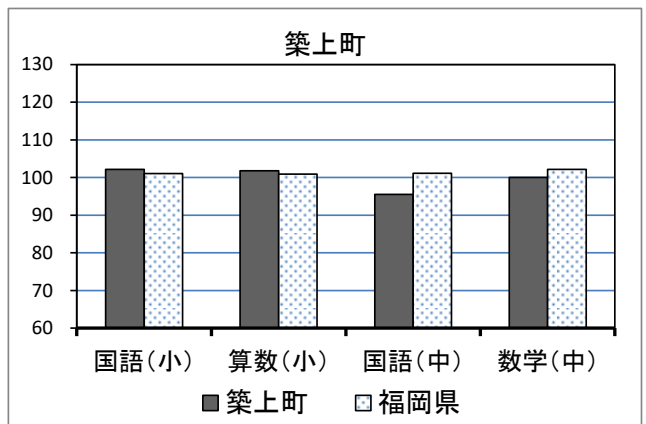
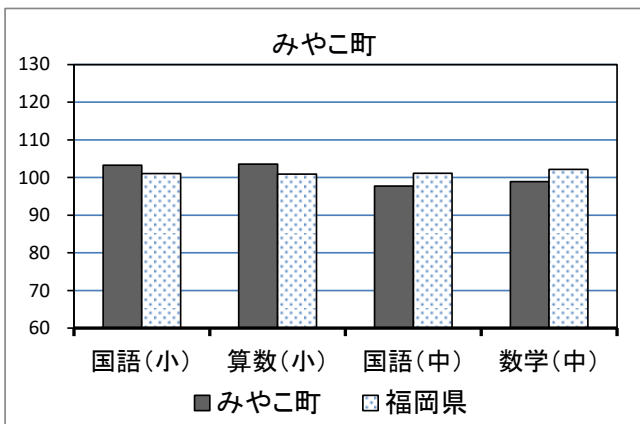
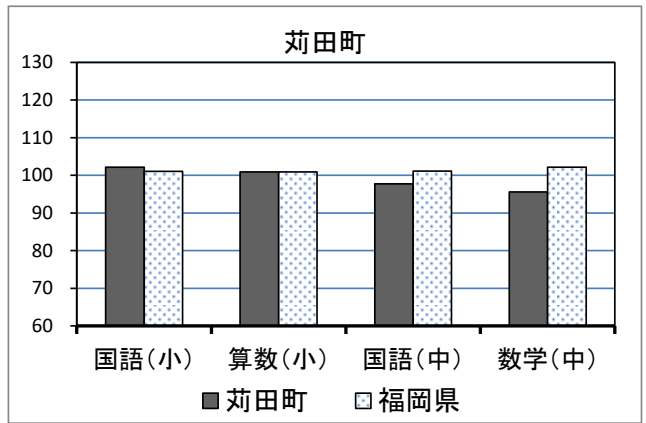
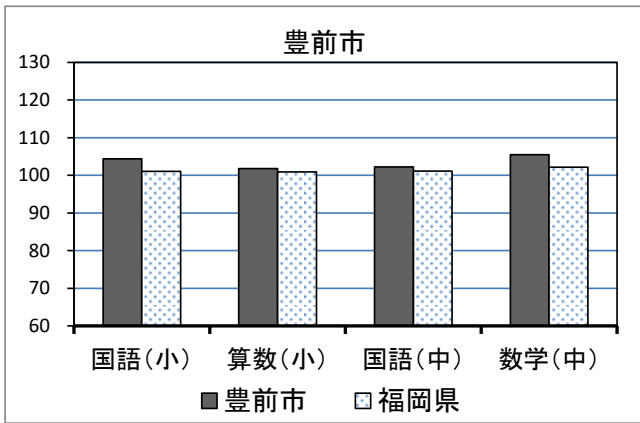
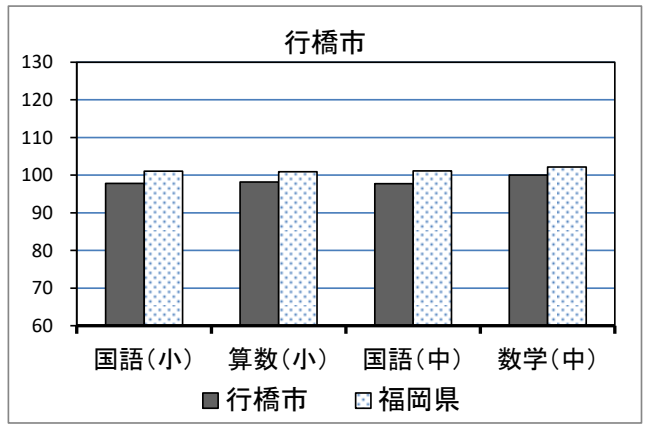
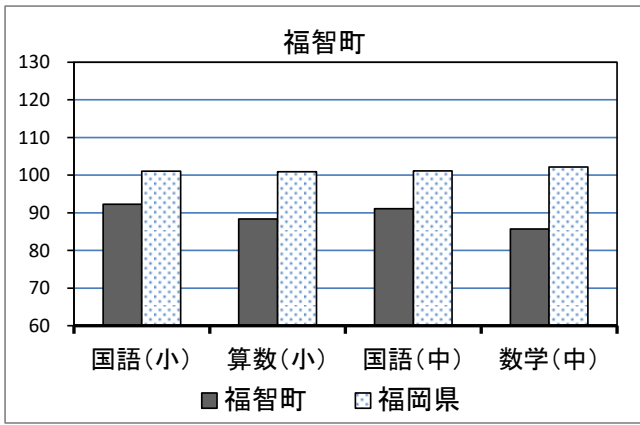


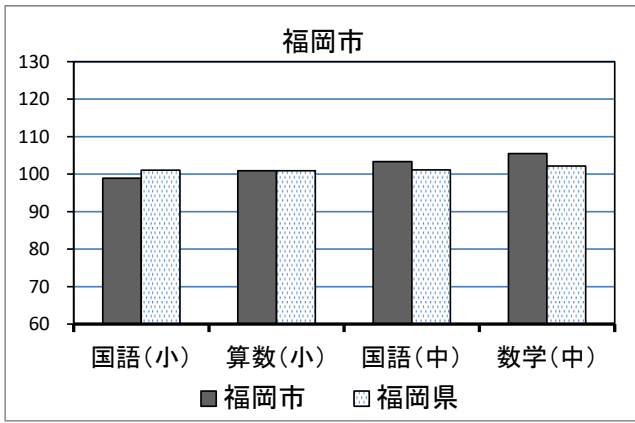












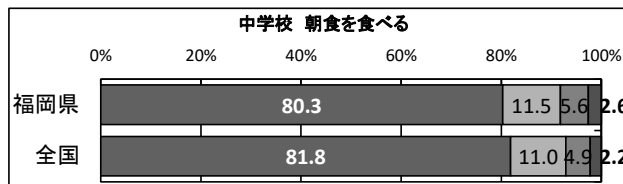
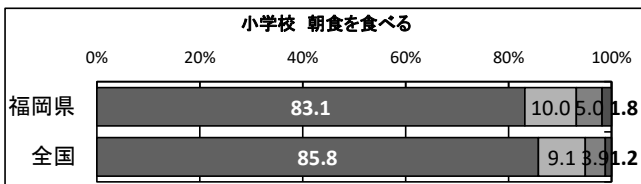
2 児童生徒質問紙の回答状況

※表内の数字は、質問番号（小・中共通）

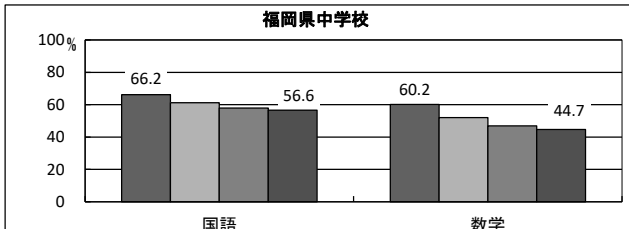
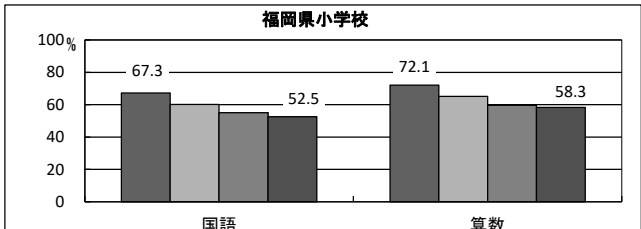
1 朝食を毎日食べていますか。

回答状況

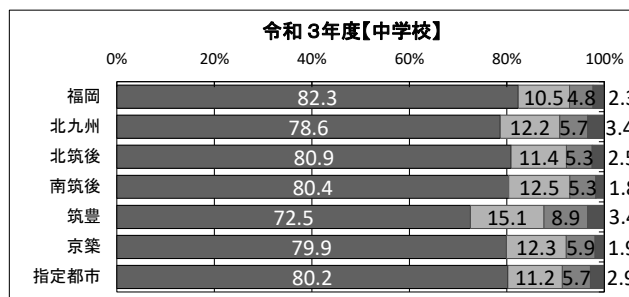
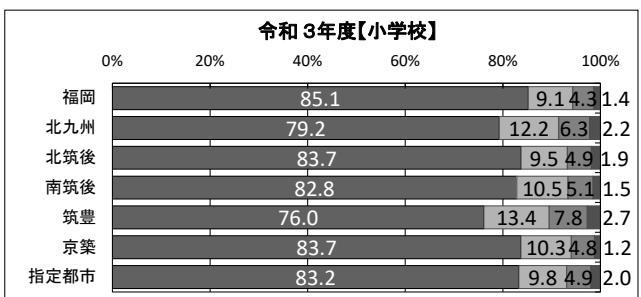
■ している ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 全くしていない



回答状況と教科の正答率のクロス分析



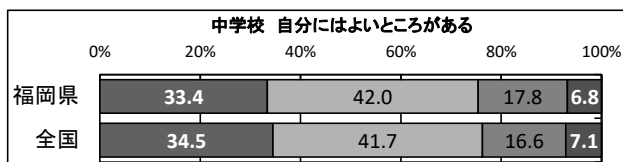
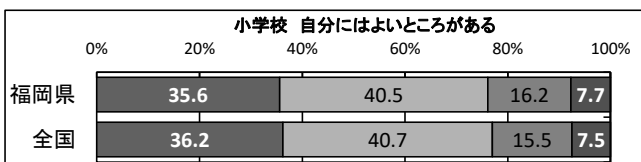
地区別回答状況



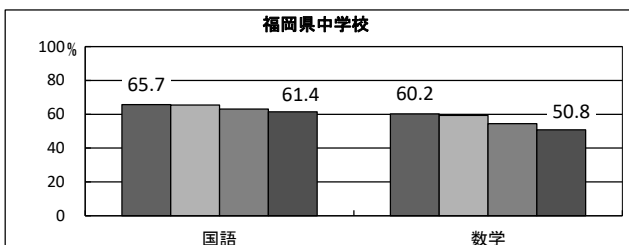
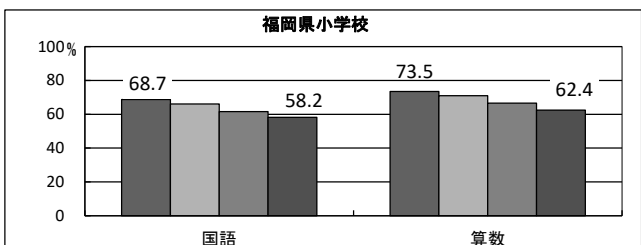
6 自分には、よいところがあると思いますか。

回答状況

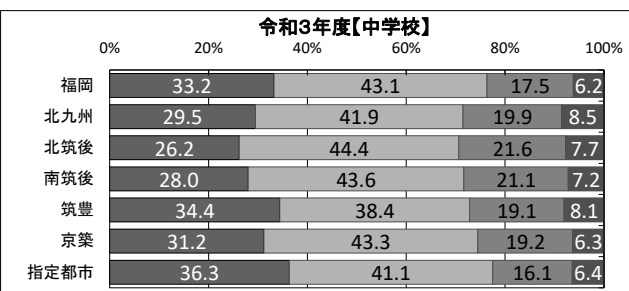
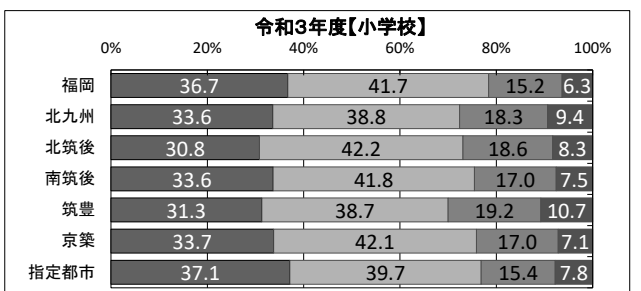
■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない



回答状況と教科の正答率のクロス分析

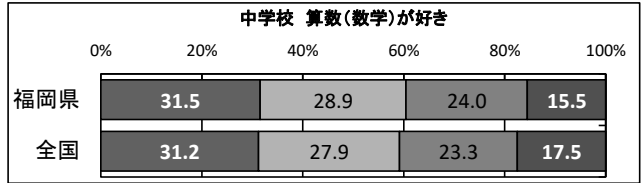
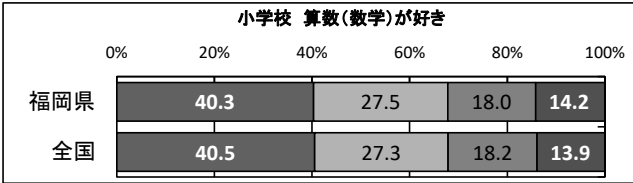


地区別回答状況

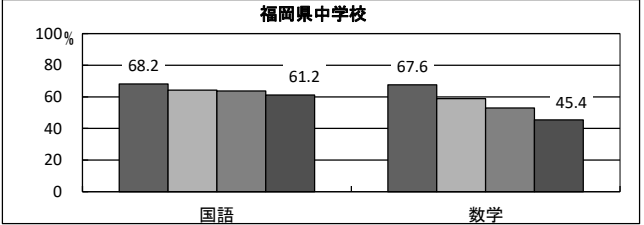
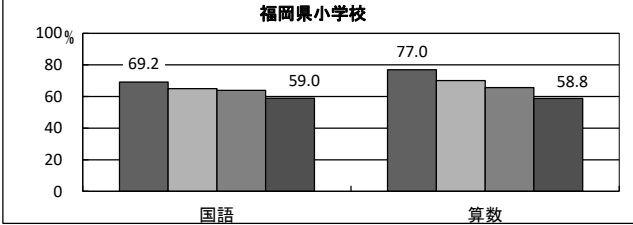


■ 回答状況

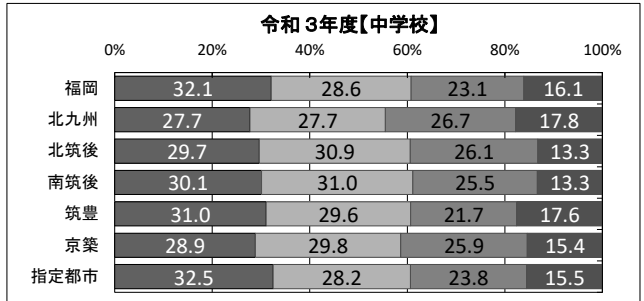
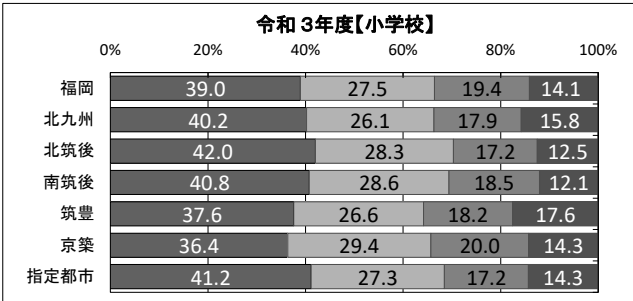
■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析

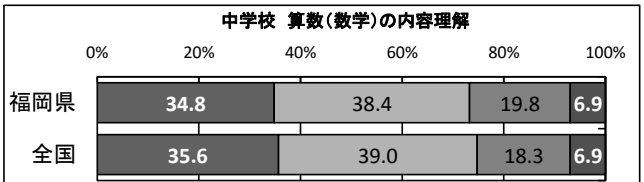
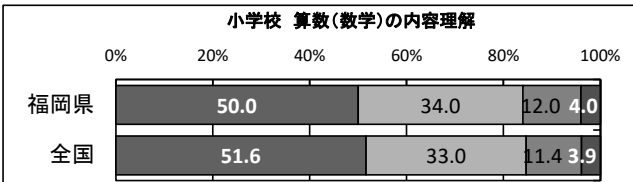


■ 地区別回答状況

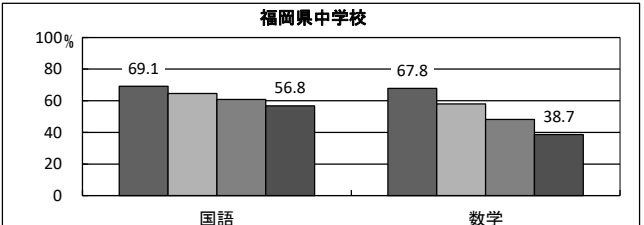
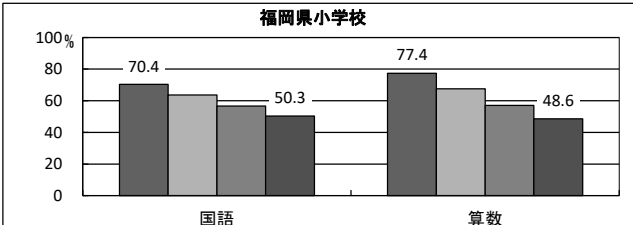


■ 回答状況

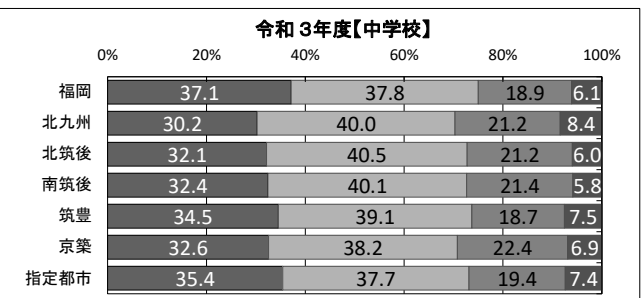
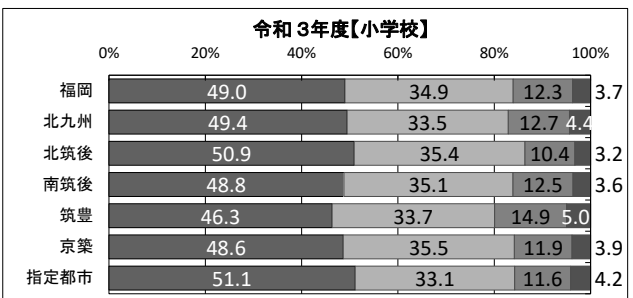
■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析



■ 地区別回答状況

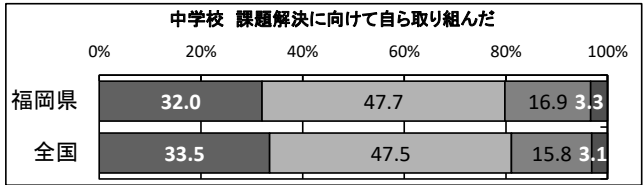
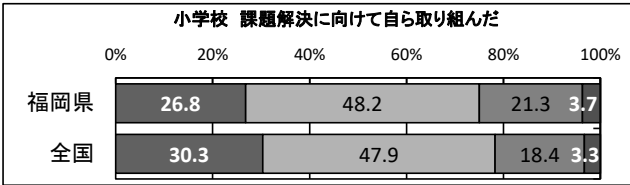


33

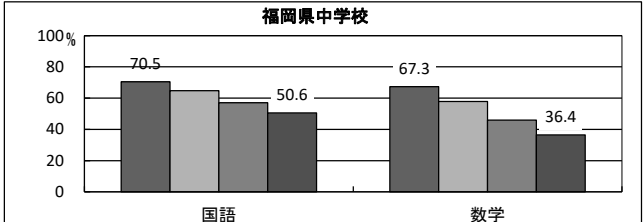
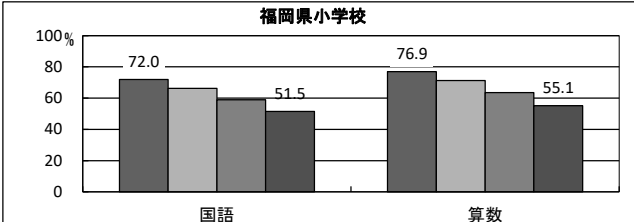
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

■ 回答状況

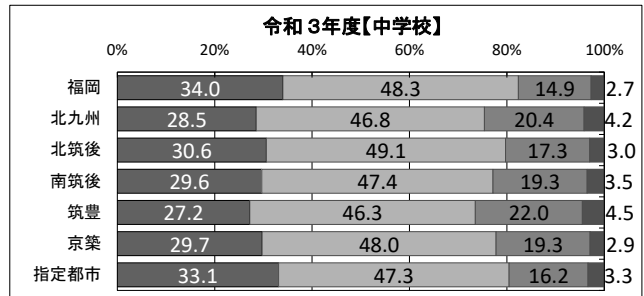
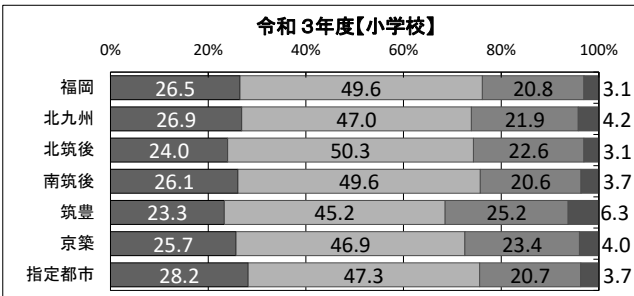
■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析



■ 地区別回答状況



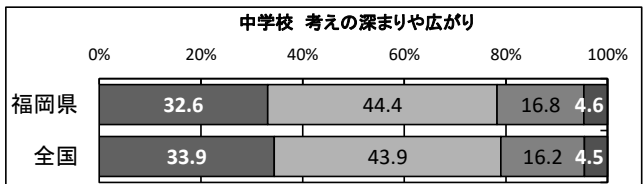
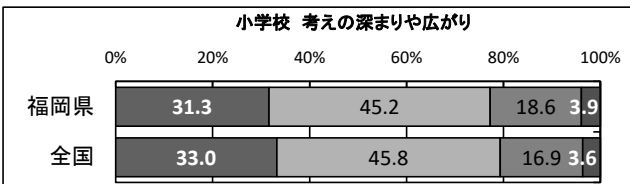
37

学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。

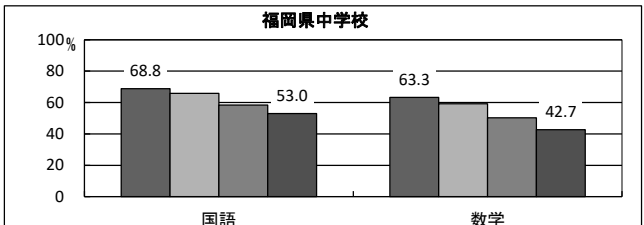
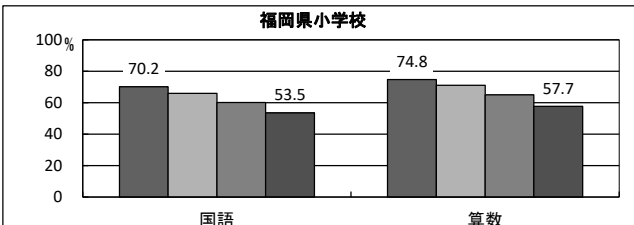
※「話し合う活動を行っていない。」と回答した結果は除いているため、数値の合計が100%とならない。

■ 回答状況

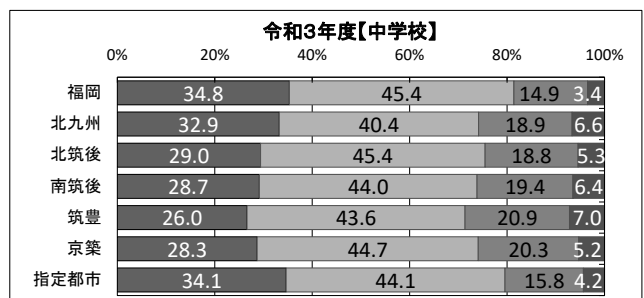
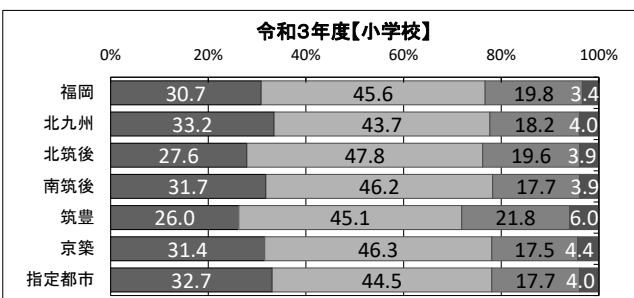
■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析



■ 地区別回答状況

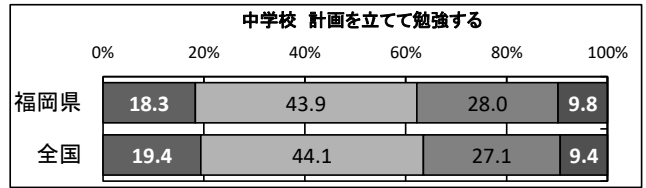
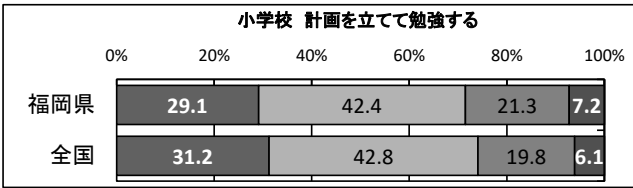


17

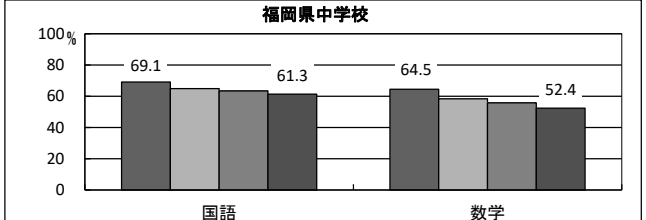
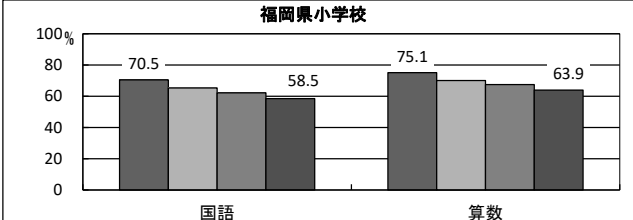
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。

■ 回答状況

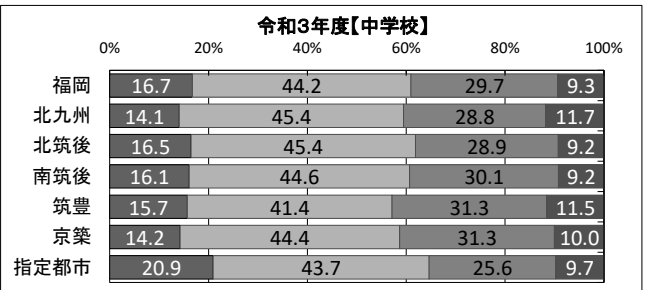
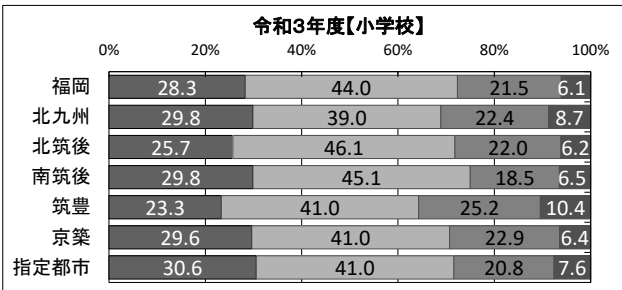
■ よくしている ■ ときどき ■ あまり ■ 全くしていない



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析



■ 地区別回答状況

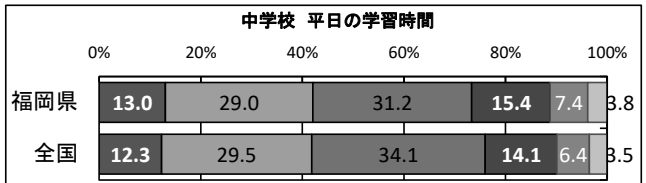
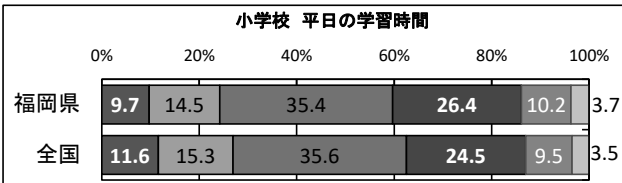


18

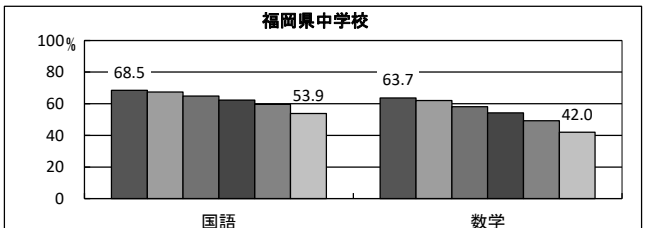
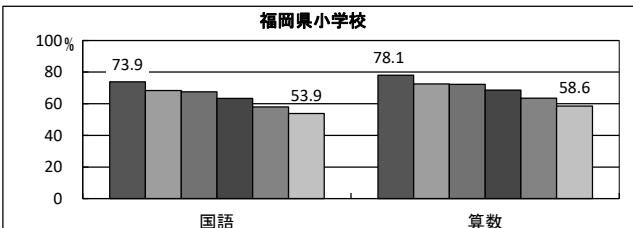
学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師、インターネットの活用も含む）。

■ 回答状況

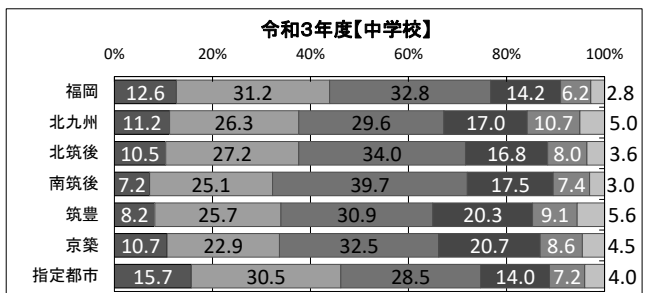
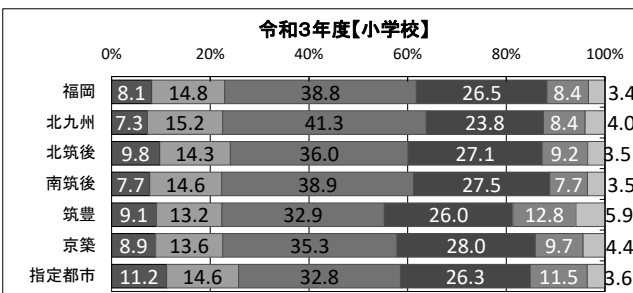
■ 3時間以上 ■ 2時間以上 ■ 1時間以上 ■ 30分以上 ■ 30分未満 ■ 全く



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析



■ 地区別回答状況

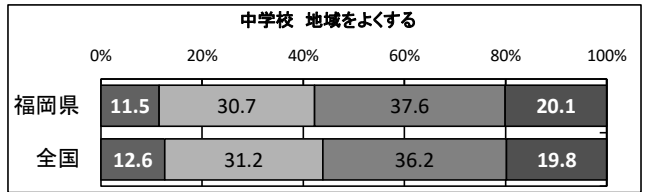
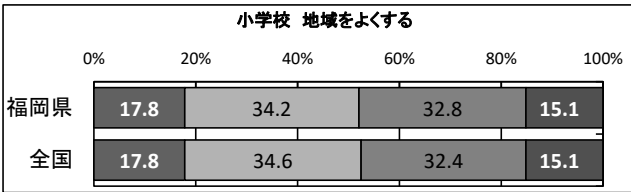


25

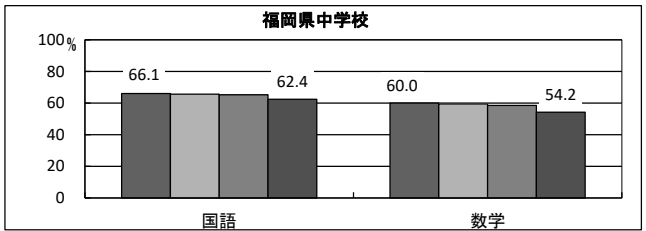
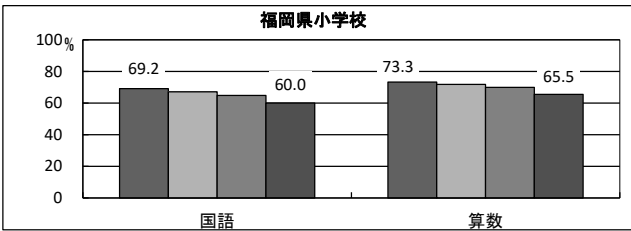
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。

■ 回答状況

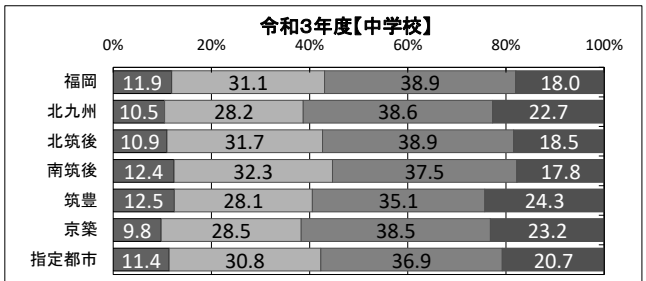
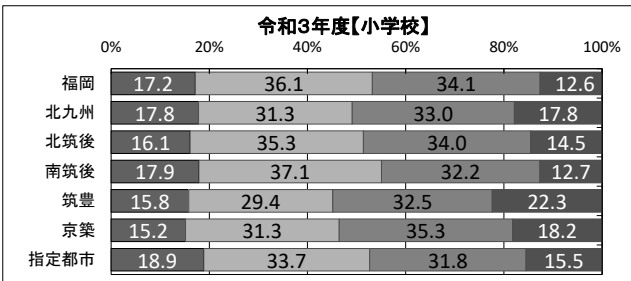
■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析



■ 地区別回答状況

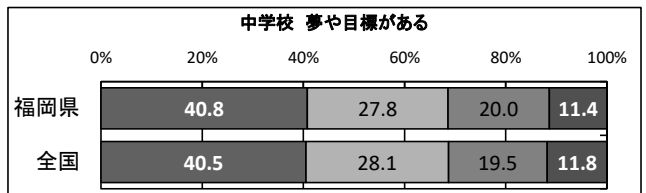
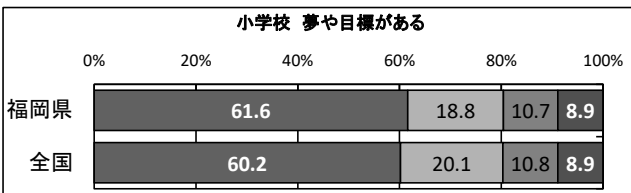


7

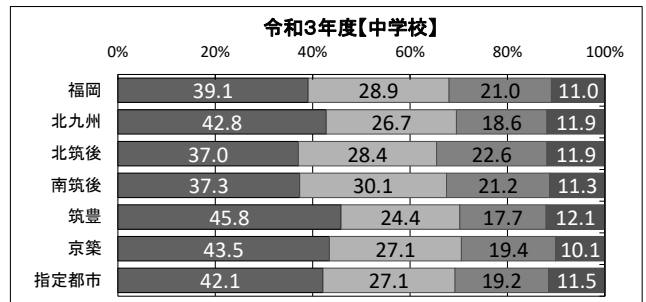
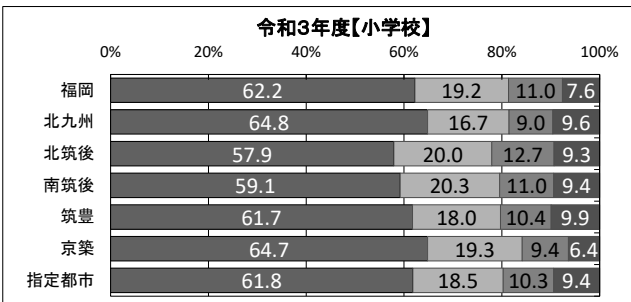
将来の夢や目標を持っていますか。

■ 回答状況

■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない



■ 地区別回答状況



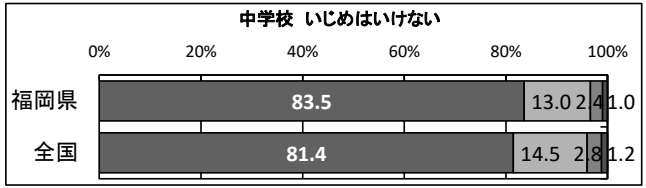
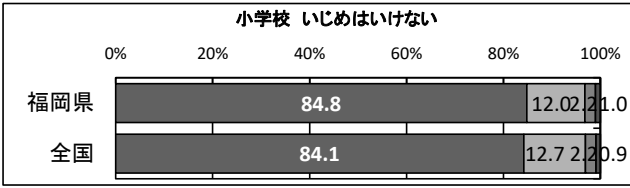


11

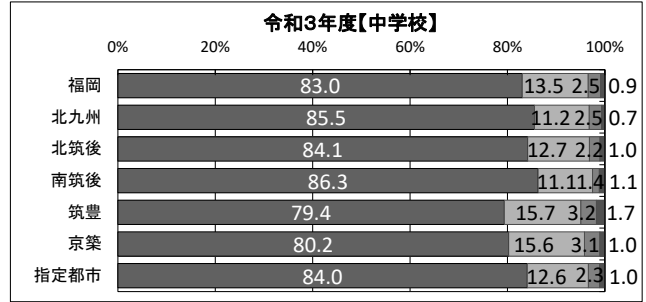
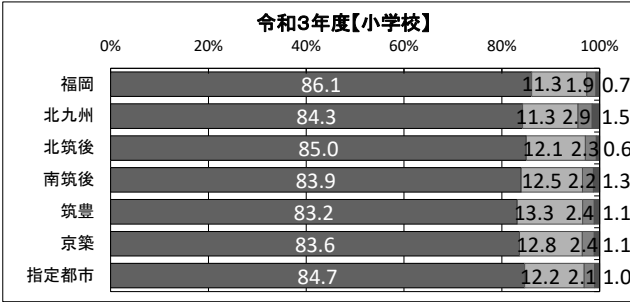
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

■ 回答状況

■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない



■ 地区別回答状況

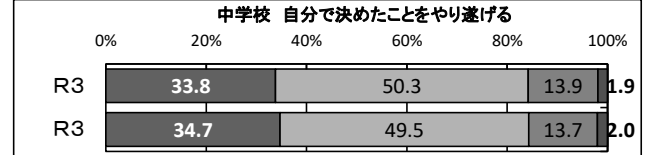
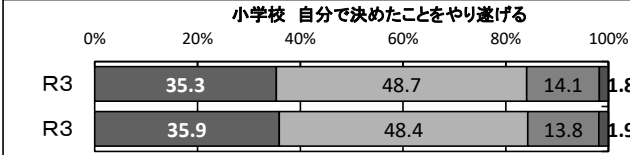


8

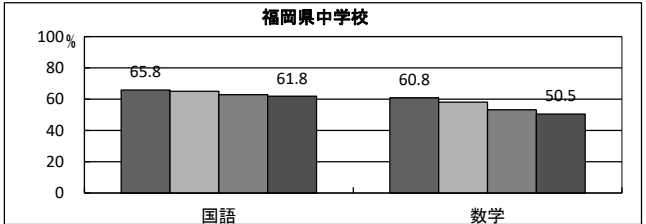
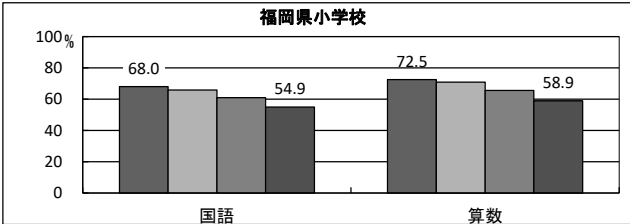
自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。

■ 回答状況

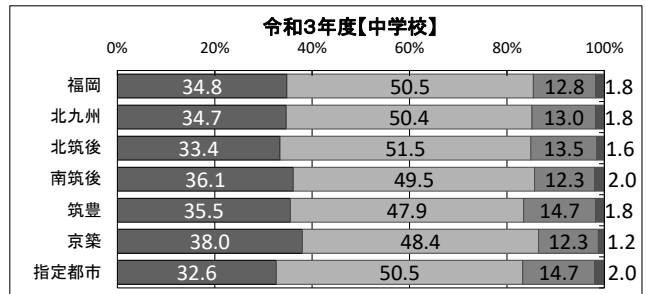
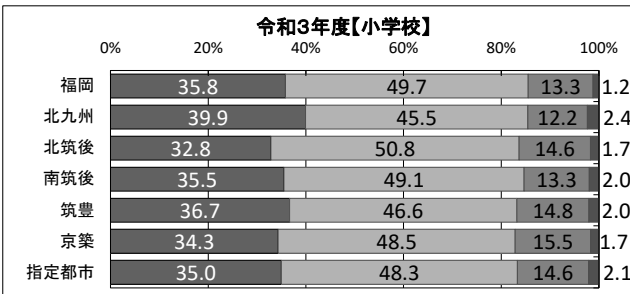
■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析



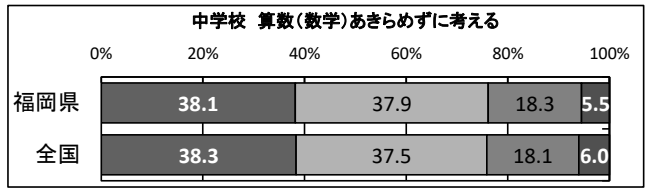
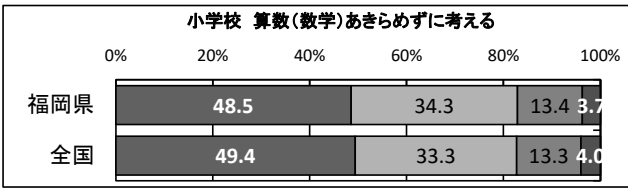
■ 地区別回答状況



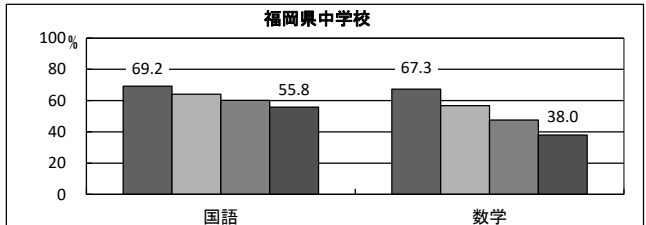
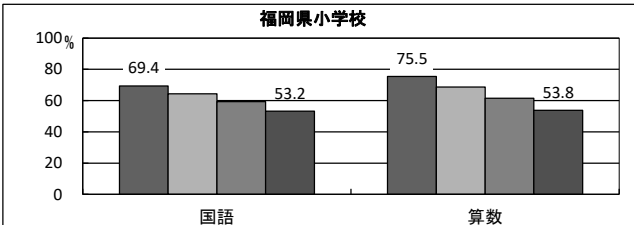
算数／数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。

■ 回答状況

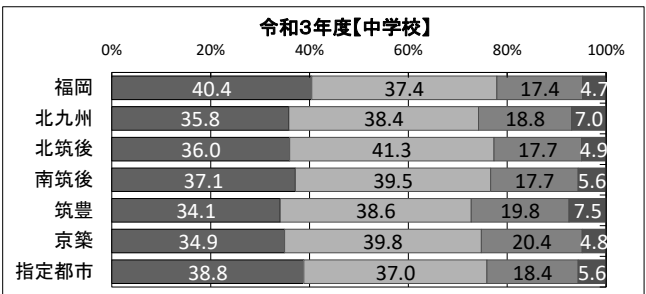
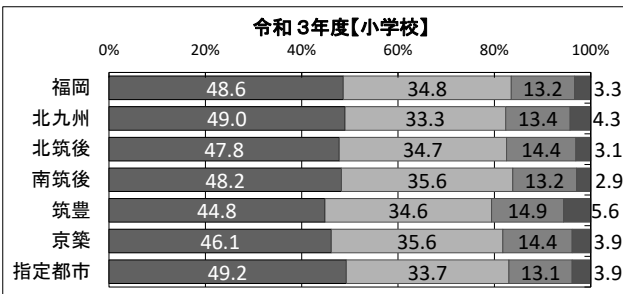
■ 当てはまる ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 当てはまらない



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析



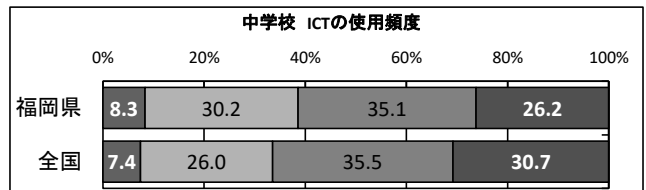
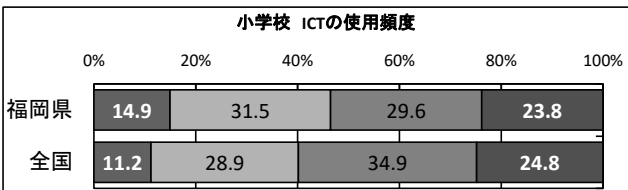
■ 地区別回答状況



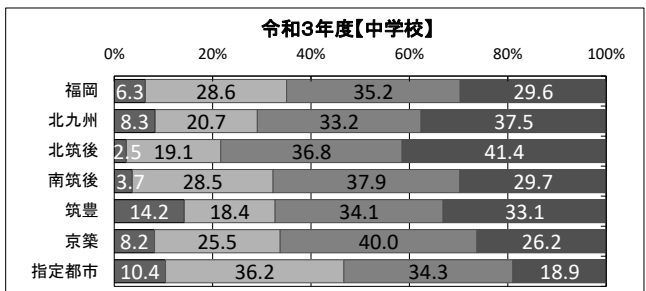
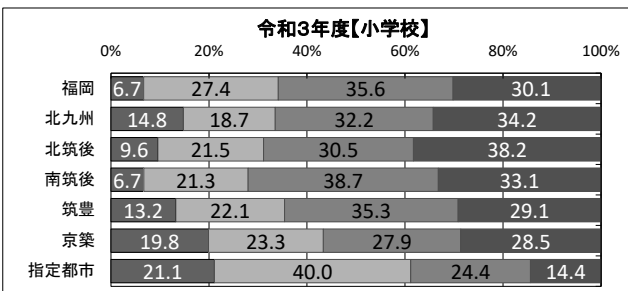
授業で、コンピュータなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか。

■ 回答状況

■ ほぼ毎日 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回未満



■ 地区別回答状況

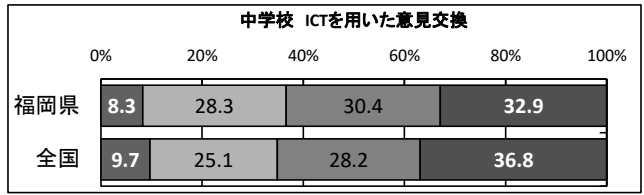
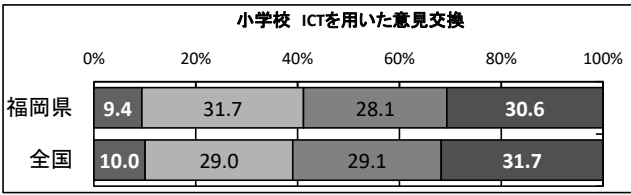


27

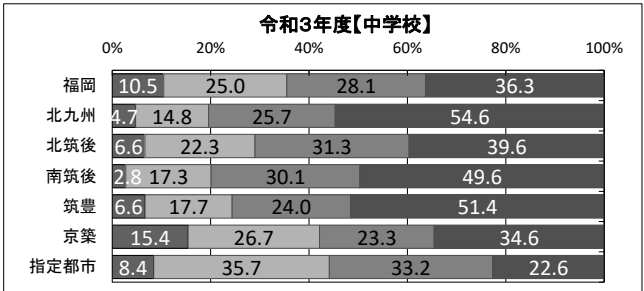
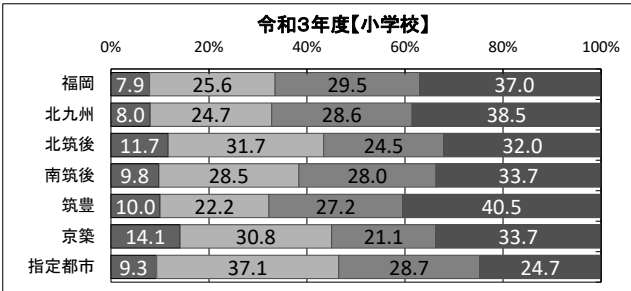
あなたは学校で、コンピュータなどの ICT 機器を、他の友達／生徒と意見交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか。

■ 回答状況

■ ほぼ毎日 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回未満



■ 地区別回答状況

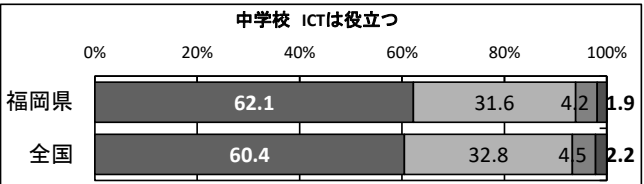
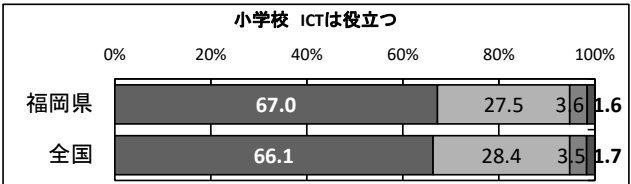


28

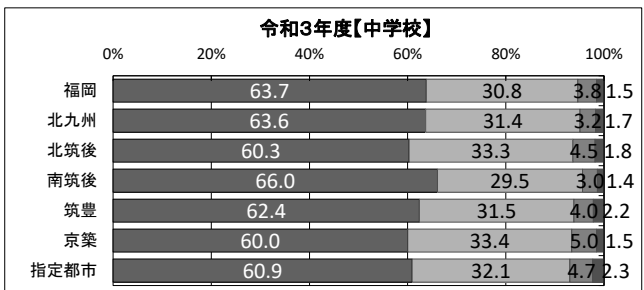
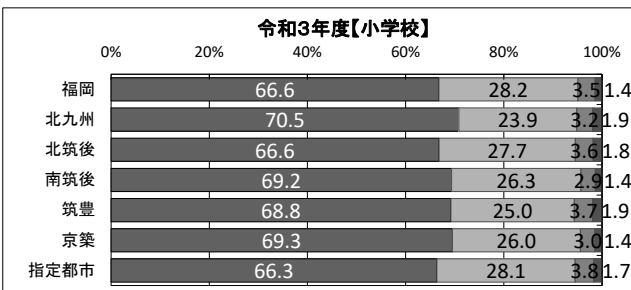
学習の中でコンピュータなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。

■ 回答状況

■ 役に立つ ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 役に立たない



■ 地区別回答状況

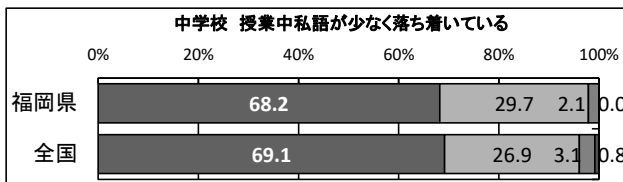
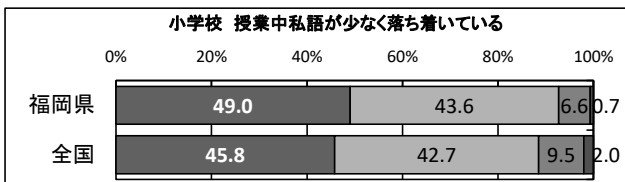


3 学校質問紙の回答状況

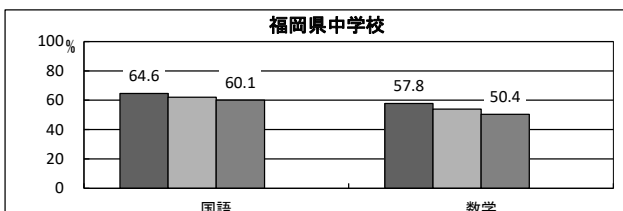
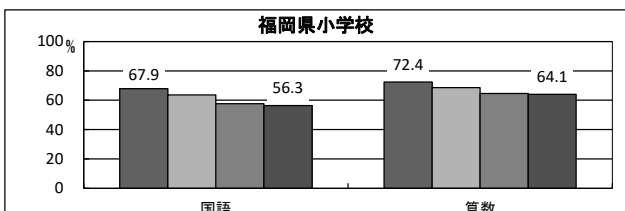
※表内の数字は、質問番号（小・中共通）

7 授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか。

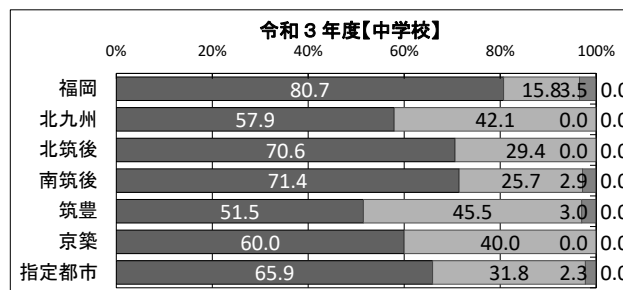
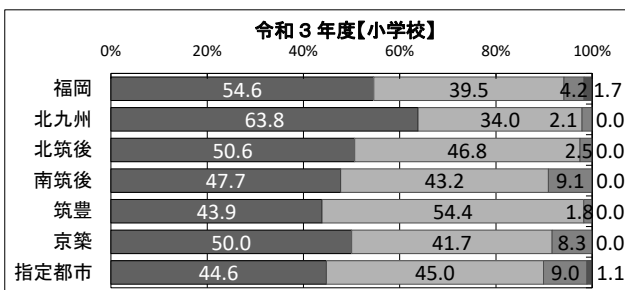
■ 回答状況 ■ そう思う ■ どちらかといえば ■ あまり ■ そう思わない



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析

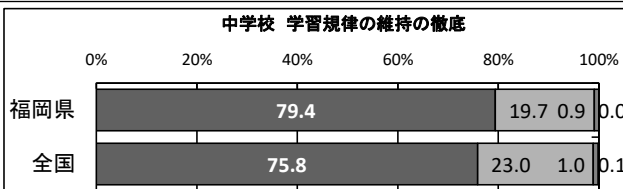
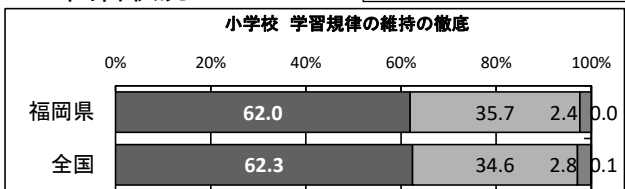


■ 地区別回答状況

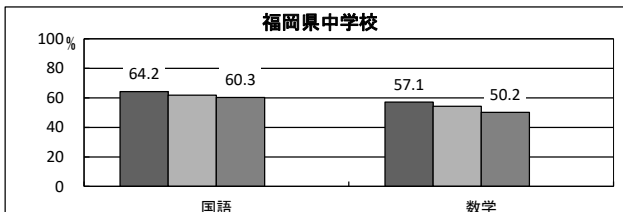
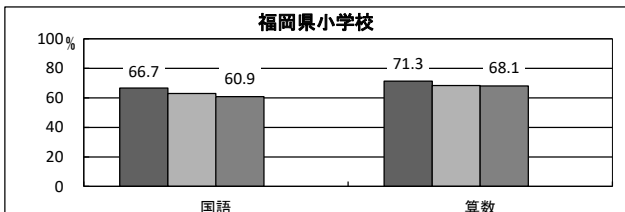


10 前年度までに、学習規律（他の人が話している時はしっかりと聞く、授業開始のチャイムを守るなど）を維持しましたか。

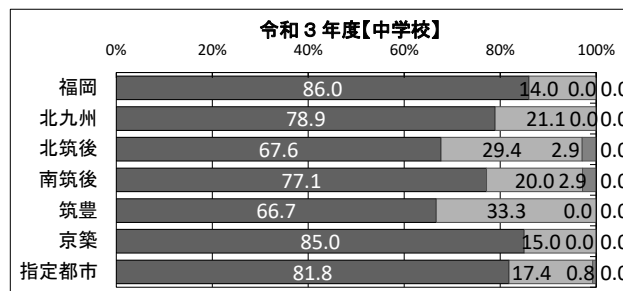
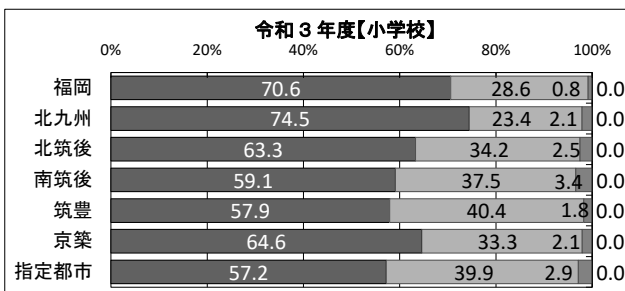
■ 回答状況 ■ よく行った ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 全く行かなかった



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析



■ 地区別回答状況

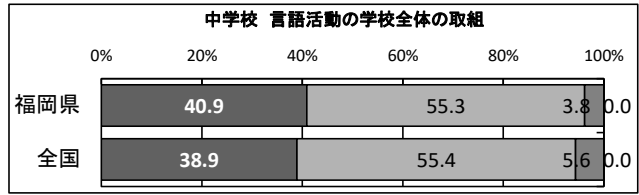
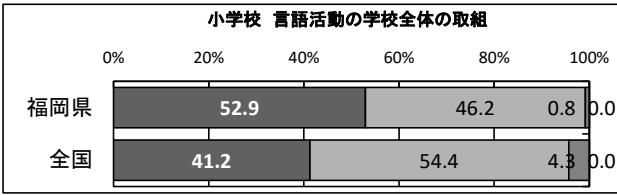


21

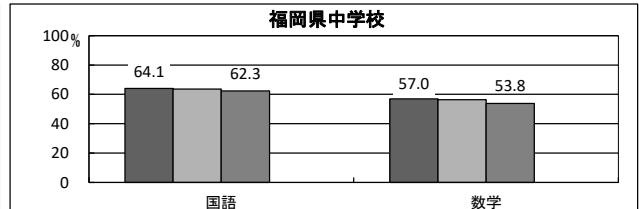
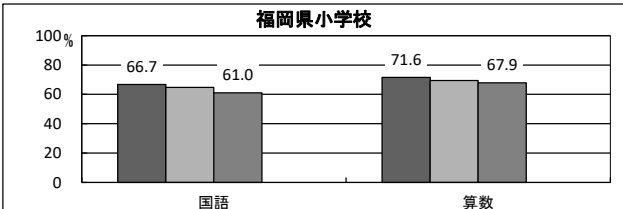
言語活動について、国語科だけではなく、各教科、特別の教科 道徳、(外国語活動、) 総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか。

■ 回答状況

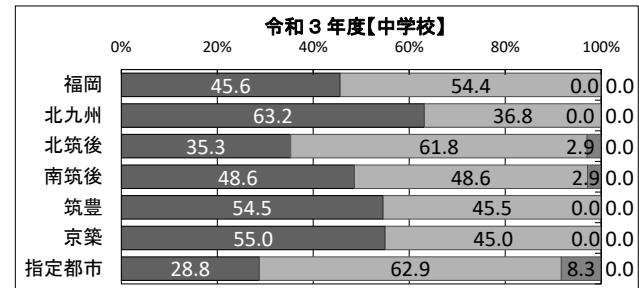
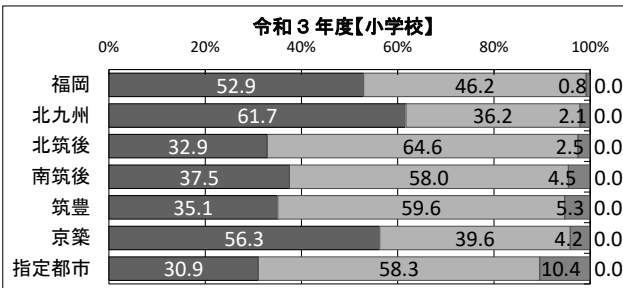
■ よくしている ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 全くしていない



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析



■ 地区別回答状況

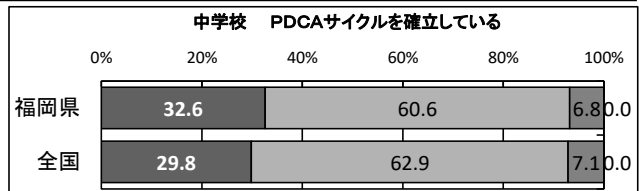
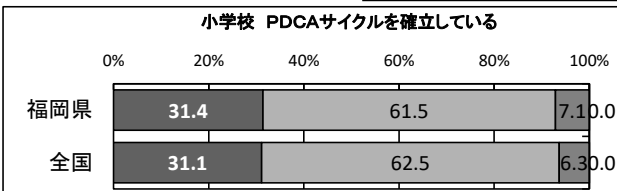


19

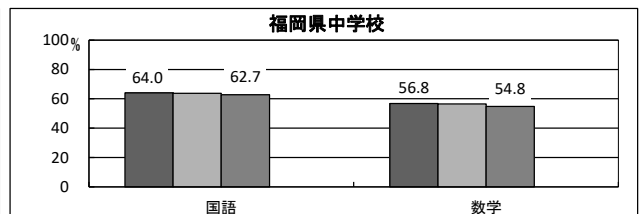
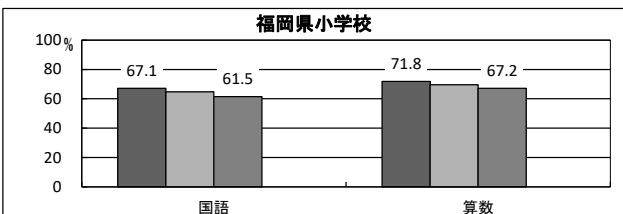
児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。

■ 回答状況

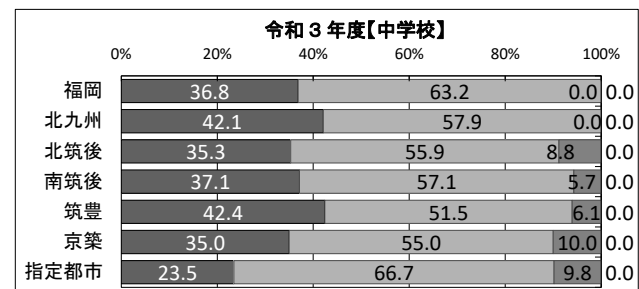
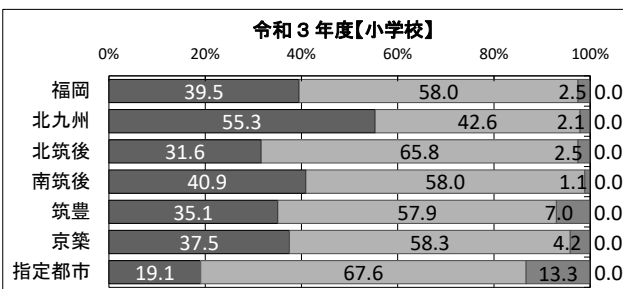
■ よくしている ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 全くしていない



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析



■ 地区別回答状況

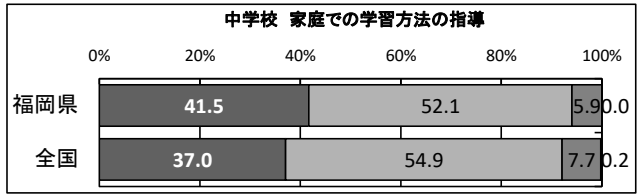
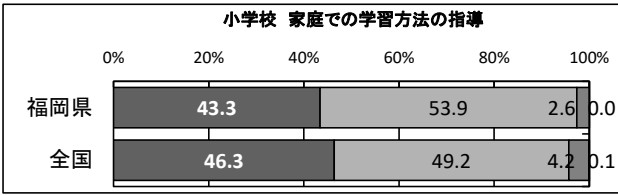


86

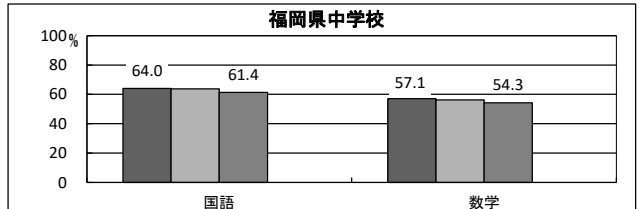
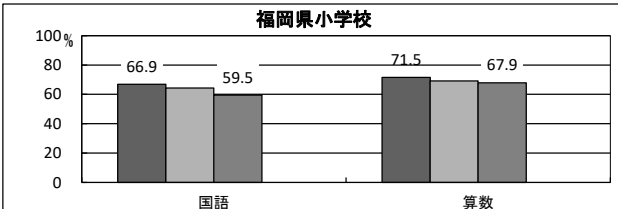
前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか（教科共通）。

■ 回答状況

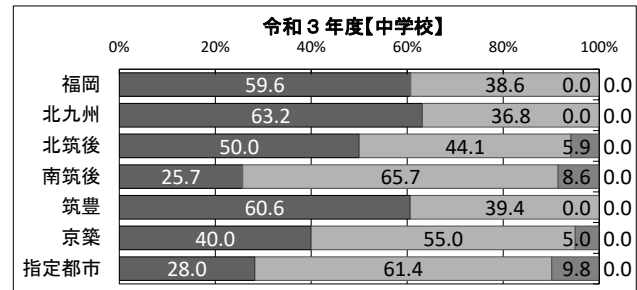
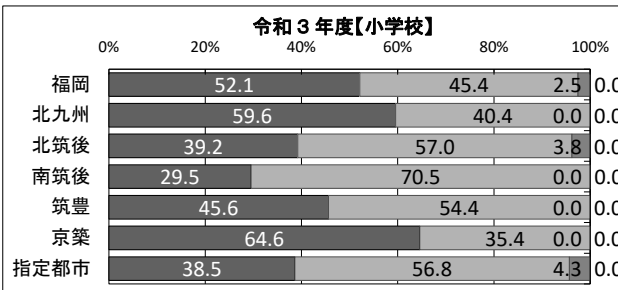
■ よく行った ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 全く行わなかった



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析



■ 地区別回答状況

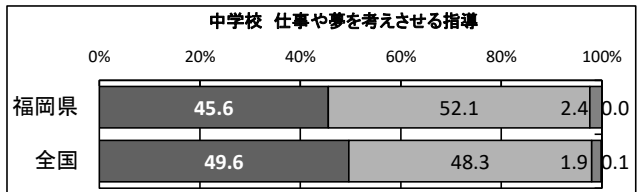
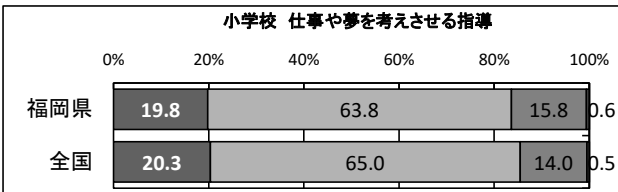


8

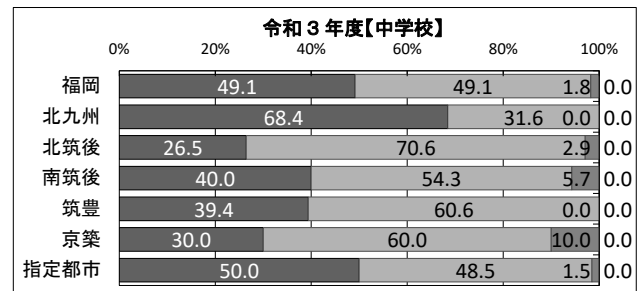
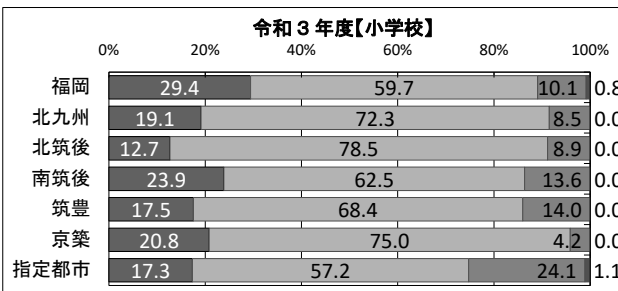
前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか。

■ 回答状況

■ よく行った ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 全く行わなかった



■ 地区別回答状況

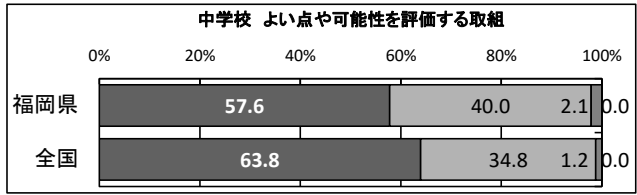
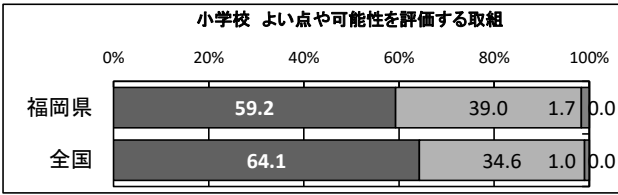


11

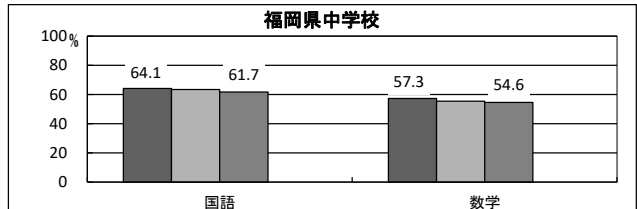
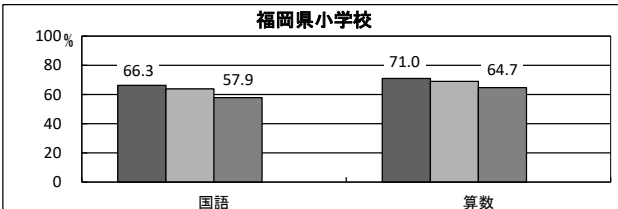
前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか。

■ 回答状況

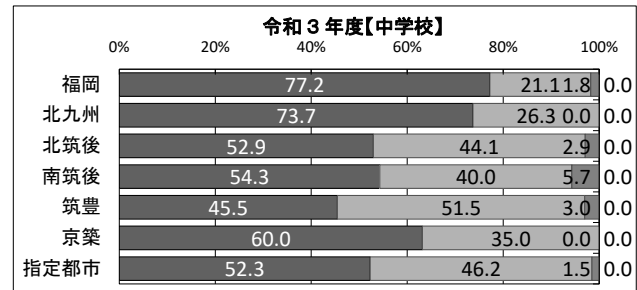
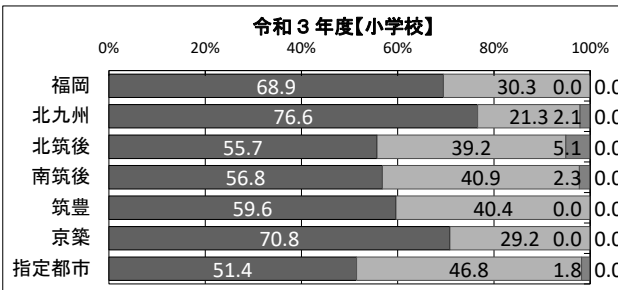
■ よく行った ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 全く行わなかった



■ 回答状況と教科の正答率のクロス分析



■ 地区別回答状況

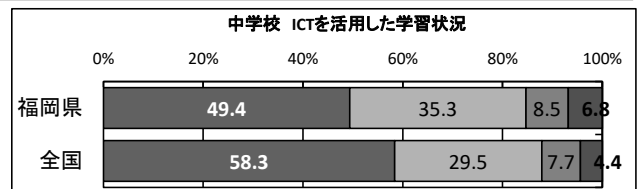
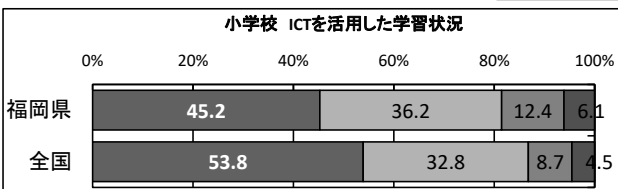


66

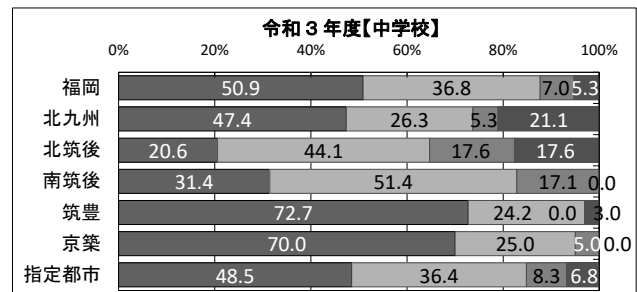
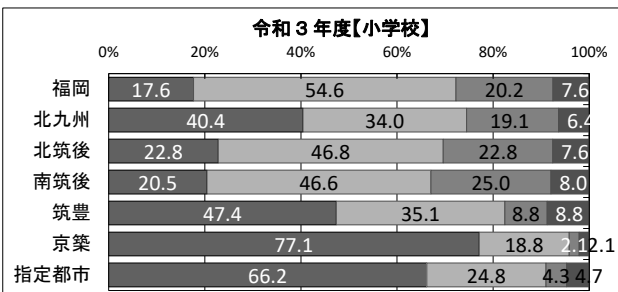
前年度に、教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICT機器を活用した授業を、1クラス当たり、どの程度行いましたか。

■ 回答状況

■ ほぼ毎日 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回未満



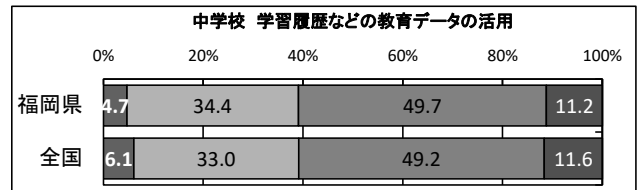
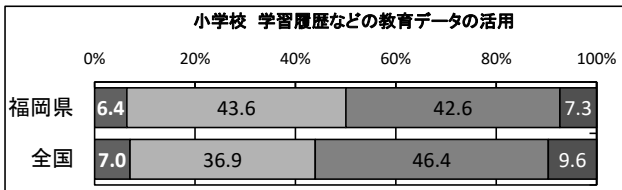
■ 地区別回答状況



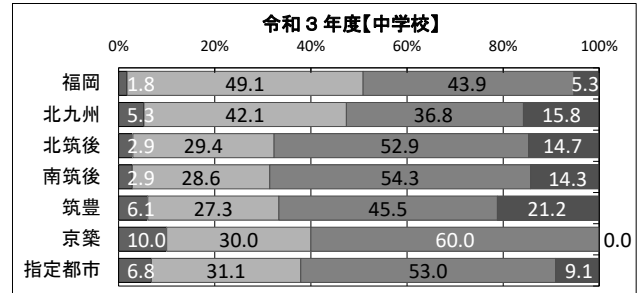
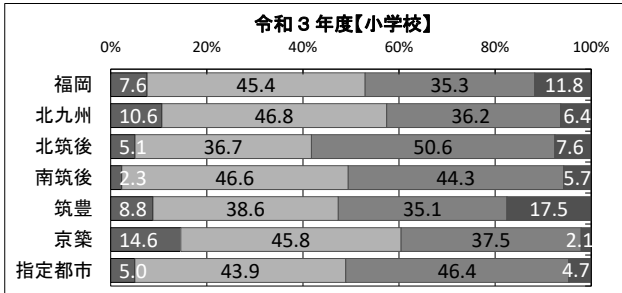
教員は、学習履歴（スタディ・ログ）をはじめとした様々な教育データを、児童生徒の状況に応じた指導に活用していますか。

### ■ 回答状況

■ よく活用している ■ どちらかといえば ■ あまり ■ 全く活用していない



### ■ 地区別回答状況





XI まとめと今後の取組は  
次のページから



ふくおか教育月間イメージキャラクター「ミライル」  
これからの社会をはばたく子どもたちの「翼」をイメージした妖精です

## **XI まとめと今後の取組**

### **1 まとめ**

本年度は、「日常的・組織的な『授業改善』による学力向上」を掲げ、「学力アップ推進事業」をはじめとした取組を進め、市町村教育委員会及び学校を支援してきた。これまでの調査結果から、次のような成果と課題が明らかになった。

#### **<成果>**

- 全国学力・学習状況調査結果において、小・中学校の全教科区分で平成19年度の調査開始以降はじめて全国平均を上回る。
- 学力向上に関する検証改善サイクルが確立されてきている。

#### **<課題>**

- 地区間差、学校間差を改善していく必要がある。

これらを踏まえ、次年度も「日常的・組織的な『授業改善』による学力向上」を進めるため、次の3点から市町村教育委員会及び学校への支援を行う。

#### **■ 四分位層分析等の学力分析に基づいた「授業改善」等への支援**

- ・ 四分位層(C層・D層)に着目した各調査の結果分析や、「授業チェックリスト」等を活用した授業分析等の推奨及び、分析結果に基づきICTを効果的に活用した授業改善、補充学習や家庭学習等の取組の充実
- ・ 「学力向上推進強化市町村指定事業」や「重点課題研究指定事業」等、児童生徒の実態や各地域の課題を踏まえた取組への一層の支援と成果の普及

#### **■ 教員のマネジメント力と授業指導力等の向上を目指した「人材育成」への支援**

- ・ 各地区の教科指導リーダーの育成を目的とした「コア・ティーチャー指導力向上講座」における授業力向上研修会の開催
- ・ 定期考査等の評価問題の作成を通じた教師の授業構想力及び評価力を高めることを目的とした「授業構想力・評価力を高める授業実践講座」の開催

#### **■ 管理職のリーダーシップを発揮した「学校のマネジメント」への支援**

- ・ 管理職のリーダーシップとマネジメント力の向上を目的とした「管理職研修」等の充実
- ・ 各学校における取組の全教職員による共通理解、共通実践を促進し、各学校における検証改善サイクルの確立を目指した「学力向上プラン」の作成

## 2 今後の取組

# 日常的・組織的な『授業改善』による学力向上

### 「目標と指導と評価の一体化」の実現

- 各教科等で育成を目指す資質・能力を踏まえた「主眼」「めあて」「まとめ」「振り返り」の明確化
- 新しい学習評価に対応した評価規準に基づく指導と評価の充実
- 「授業チェックリスト」や「児童生徒による授業評価」等の実施と活用
- 四分位層分析に基づく「授業改善」等の取組の検証・改善

【学力向上推進拠点校指定事業】 【学力向上推進強化市町村指定事業】  
【重点課題研究指定・委嘱事業】 【授業チェックリスト】

### 思考力・判断力・表現力等の育成

- 各教科等の見方・考え方を働かせた問題解決的な学習の充実
- 「書くこと」を重視した授業改善
- 学力調査結果を踏まえた「指導資料」の活用
- 思考力・判断力・表現力等を見取る定期考査問題の作成

【学力調査結果の分析（本報告書）】  
【学力調査問題や高校入試問題を活用した指導資料】  
【授業構想力・評価力を高める授業実践講座】

### ICTの効果的な活用

- 教員のICT機器操作技術及び活用力の育成
- 児童生徒のICT機器操作技術（タイピングスキル等）の育成
- ICTを活用した授業研修の充実
- 効果的活用を図るための推進体制づくり

【ICT活用指導力に応じた教員研修】  
【重点課題研究指定・委嘱事業】  
【学力向上推進拠点校指定事業】

## 授業づくり

### 人材育成

#### 学校の中核となる ミドル・リーダーの育成

- 学校の中核となる教員のマネジメント力の育成
- ミドルリーダー育成のための意図的・計画的な校務分掌等の作成の組織体制整備
- 専門性を備えた教科指導リーダーの育成

【学力向上推進拠点校指定事業】  
【コア・ティーチャー指導力向上講座】

#### 授業構想力と授業実践力が 身に付いた教員の育成

- 定期考査問題等の作成・活用に基づく単元を通じた授業構想力、授業実践力の育成
- 授業チェックリスト等の活用による授業改善の視点を明確にした校内研修等の充実
- 管理職等による意図的・計画的な教室訪問と校内OJTの充実

【授業構想力・評価力を高める授業実践講座】  
【クラスター非常勤講師派遣事業】

### マネジメント

#### 管理職のリーダーシップによる 学校マネジメントの充実

- 教育課程の編成、実施、評価の適切な管理
- 9年間の系統性を踏まえた学力向上プランに基づく検証改善サイクルの確立

【教育課程実施・編成状況調査】  
【学力向上検証改善実態調査】  
【管理職研修】  
【学力向上プラン】

#### 小中一貫した学習の基盤づくりの充実

- 中学校区で一貫した学習指導・生活指導の徹底
- 非認知的能力を育成する取組の充実

【学力向上プラン】  
【「未来への一歩」を活用した取組】  
【鍛ほめプロジェクト推進事業】  
【重点課題研究指定・委嘱事業】